

入  
231

中央大學四十五年  
法律科第一學年講義錄

刑法各論

大塚  
茂

ドクトルユーリス  
ウトリウスクエ

大場茂馬講述

刑法

各論

完

中央大學發行

大正  
12.4

寄贈本



第二章 故意ニ因リ生命ヲ害スル罪

第一節 殺人罪

第一款 一般殺人罪

第二款 殺尊屬親罪

第三款 殺人ノ豫備罪及未遂罪

第二節 自殺ニ關スル罪

第一款 自殺教唆若ハ幫助又ハ被殺者ノ囑託

ヲ受ケ若ハ其承諾ヲ得テ之ヲ殺ス罪

第二款 自殺ニ關スル罪ノ未遂罪

第三節 墮胎罪

第三章 故意ニ因ラスシテ生命ヲ害スル罪

ル罪

第一節 過失致死罪

第二節 生命ヲ危ウスル罪

第一款 遺棄罪

第二款 決闘罪

第四章 身體ニ對スル罪

第五章 自由ニ對スル罪

第一節 一身上ノ自由ヲ害スル罪

第一款 逮捕及監禁ニ關スル罪

第二款 略取及誘拐ノ罪

第三款 強要罪

第二節 性交ノ自由ヲ害スル罪

第一款 強姦罪

第二款 強制猥褻罪

第三款 未遂罪及親告罪

第四款 強姦又ハ強制猥褻ニ因ル致死傷罪

第三節 個人ノ法律の平穩ニ對スル罪

二

八丁

同丁

同丁

九丁

同丁

一〇丁

一一丁

一二丁

同丁

同丁

一四丁

同丁

同丁

同丁

一五丁

同丁

一六丁

一九丁

二〇丁

二一丁

同丁

二四丁

二五丁

同丁

二七丁

同丁

二八丁

同丁

第一款	脅迫罪	二九丁
第二款	住居ヲ侵ス罪	三〇丁
第三款	祕密ヲ侵ス罪	三一丁
第六章	名譽ニ對スル罪	同丁
第七章	財産ニ對スル罪	三四丁
第一節	財産ニ對スル罪ノ一般觀念	同丁
第二節	財産上ノ法益其モノヲ直接侵害スル罪	三七丁
第一款	物權ヲ害スル罪	同丁
第一項	竊盜罪	同丁
第二項	強盜罪	三九丁
第三項	橫領罪	四〇丁
第四項	毀棄ノ罪	四二丁
第二款	債權ニ對スル罪	四三丁
第一項	背信罪	同丁

第二項	破産罪	四四丁
第三款	物權、債權以外ノ財産權ニ對スル罪	四五丁
第一項	信用及業務ニ對スル罪	同丁
第二項	著作權其他ノ權利ニ對スル罪	四六丁
第三節	法益ノ保有者ノ意思ニ影響ヲ及ホシ以テ財産上ノ法益ヲ害スル罪	同丁
第一款	詐欺罪	同丁
第二款	恐喝罪	四八丁
第三款	貪利罪	四九丁
第四款	詐欺、恐喝及貪利ノ未遂罪	同丁
第四節	贓物ニ關スル罪	五〇丁
第二編	社會ノ法益ニ對スル罪	五一丁
第一章	社會ノ公共ニ對スル罪	同丁
第二章	公共ニ危險ナル罪	五五丁

刑法各論目次

第一節 放火及失火ノ罪

五六丁

第二節 瓦斯電氣蒸汽ノ漏出流出又ハ遮斷ニ因

ル危険ニ關スル罪

五九丁

第三節 溢水及水利ニ關スル罪

同丁

第四節 往來妨害罪

六一丁

第五節 飲料水ニ關スル罪

六三丁

第三章 交通取引ニ於ケル誠實及信用

ニ對スル罪

六四丁

第一節 通貨偽造ノ罪

六五丁

第一款 内國通貨ノ偽造變造ノ罪

六六丁

第二款 偽造變造ノ内國通貨ノ行使交付若ハ

輸入ノ罪

同丁

第三款 内國ニ流通スル外國通貨ノ偽造變造

又ハ偽造若ハ變造シタル内國ニ流通

スル外國通貨ノ行使交付若ハ輸入ノ罪

六七丁

第四款 偽造變造ノ通貨收得ノ罪

同丁

第五款 收得後偽貨ノ知情行使若ハ知情交付

六八丁

第六款 通貨ノ偽造變造準備ノ罪

同丁

第二節 印章偽造ノ罪

同丁

第一款 印章偽造罪ノ觀念

同丁

第二款 御璽國璽御名偽造ノ罪

七〇丁

第三款 公務所又ハ公務員ノ印章又ハ署名偽

造ノ罪

七一丁

第四款 公務所ノ記號偽造ノ罪

七二丁

第五款 私印私署偽造ノ罪

同丁

第三節 文書偽造ノ罪

七三丁

第一款 文書偽造罪ノ觀念

同丁

第二款 詔書其他天皇ノ文書偽造ノ罪

七七丁

第三款 公文書偽造ノ罪

同 丁

第四款 公務員其職務ヲ濫用シ公文書ヲ作製

シ又ハ之ヲ變造スル罪

七八丁

第五款 公務員ヲシテ公文書ニ不實ノ記載ヲ

爲サシムル罪

七九丁

第六款 私文書偽造ノ罪

同 丁

第七款 診斷書檢案書又ハ死亡證書ヲ偽作ス

ル罪

八〇丁

第四節 有價證券偽造ノ罪

同 丁

### 第四章 風俗ニ對スル罪

同 丁

第一節 猥褻、姦淫及重婚ノ罪

八一丁

第一款 猥褻、姦淫ニ關スル罪

同 丁

第二款 婚姻關係ヲ害スル罪

八二丁

第二節 賭博及富籤ニ關スル罪

八三丁

第一款 賭博ニ關スル罪

同 丁

第二款 富籤ニ關スル罪

八四丁

第三節 禮拜所及墳墓ニ對スル罪

同 丁

第四節 阿片煙ニ關スル罪

八五丁

### 第三編 國家ノ法益ニ對スル罪

八六丁

#### 第一章 國家ノ存立ニ對スル罪

八八丁

第一節 皇室ニ對スル罪

八九丁

第一款 危害罪

九〇丁

第二款 不敬罪

九三丁

第二節 内亂ニ關スル罪

九五丁

第一款 内亂罪

同 丁

第二款 内亂ノ豫備若ハ陰謀

一〇〇丁

第三款 内亂幫助罪

一〇一丁

第三節 外患ニ關スル罪

一〇二丁

第一款 叛逆的通謀罪

同 丁

第二款 叛逆的抗敵罪

一〇三丁

第三款 叛逆的援助罪

一〇四丁

第四款 外患ノ未遂豫備又ハ陰謀罪

一〇七丁

第五款 戰時同盟國ニ對スル罪

同 丁

第二章 國交ニ關スル罪

一〇八丁

第一節 外國ノ代表者ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加フル罪

一一〇丁

第二節 外國ノ代表者ニ對シ侮辱ヲ加フル罪

一一二丁

第三節 外國ノ國章損壞除去又ハ汚穢スル罪

一一三丁

第四節 外國ニ對シ私ニ戰爭ヲ爲ス罪

一一四丁

第五節 局外中立ニ對スル命令ニ違反スル罪

一一五丁

第三章 瀆職罪

一一六丁

第一節 賄賂罪

一二一丁

第一款 收賄罪

同 丁

第二款 贈賄罪

一二六丁

第三款 處分

一二七丁

第二節 職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪

一二〇丁

第一款 職權濫用ニ依ル強要罪

同 丁

第二款 職權濫用ニ依ル逮捕監禁罪

一三二丁

第三款 職權濫用ニ依ル暴行又ハ凌虐ヲ爲ス罪

一三三丁

第四款 職權濫用、逮捕監禁又ハ凌虐ニ因ル致死傷ノ罪

一三五丁

第四章 國權ニ對スル罪

同 丁

第一節 公務執行中公務員ニ對シ暴行又ハ脅迫



ヲ加フル罪

一三七丁

第二節

公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシメ若ハ爲

サ、ラシムル爲メ又ハ其職ヲ辭セシム

ル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ加フル罪

一三九丁

第三節

公務員ノ爲シタル處分ニ對スル罪

一四一丁

第一款

封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ又ハ其

他ノ方法ヲ以テ無効ナラシムル罪

一四二丁

第二款

逃走ノ罪

一四三丁

第五章 國家ノ立法、行政ニ對スル罪

第一節

國家ノ裁判ニ對スル罪

一五三丁

第一款

誣告罪

同 丁

第二款

偽證罪

一五七丁

第三款

犯人又ハ拘禁中逃走シタル者ヲ藏匿

シ又ハ隱避セシムル罪

一六七丁

第四款

刑事事件ノ證據湮滅罪

一六八丁

第五款

裁判事務ニ關シ義務ヲ怠ル罪

一七〇丁

第二節

特別法ニ定ムル國家ノ立法及行政ニ對

スル罪

同 丁

刑法各論

ドクトル、ユリス  
ウトリウス、クエ  
大場茂馬 講述

緒論

第一章 法益ノ觀念

刑法ノ總論ハ一般ニ犯罪及刑罰ニ對スル抽象的觀念ヲ闡明スルモノナリ之ニ反  
シテ刑法ノ各論ハ犯罪及刑罰ニ對スル具體的觀念ヲ攻究スルモノナリ此具體的  
觀念ヲ明ニセントスルニハ先ツ其犯罪ノ性質及法益ノ如何ヲ明ニセサルヘカラ  
ス蓋法益ノ如何ヲ講究スルハ犯罪ノ性質ヲ明瞭ナラシムルト同時ニ犯罪ノ具體  
的觀念ヲ明ニスル所以ナリ  
二人以上ノ人ノ生存スルコトナケレハ利益ナルコト存スルナシ苟モ二人以上ノ

緒論  
法益ノ觀念

刑法各論 緒論 法益ノ觀念

生存者アルトキハ自己ノ欲スル所他人必スシモ之ヲ欲セサルカ如キ利害ノ衝突ヲ來ス場合アリ又利害ノ相一致スル場合アリ利害ノ相一致スル場合ニ於テハ固ヨリ法律上ノ問題ヲ生セス其法律上ノ問題ヲ生スルハ利害關係ノ相衝突スル場合ニ限ル而シテ法律ハ其利益ノ正當ナルモノニ限リ之ヲ保護シ然ラサルモノハ之ヲ排除ス其法律ノ保護スル利益ヲ稱シテ法律上ノ利益又ハ單ニ法益ト云フ國家カ法益ヲ保護スルニハ公力ヲ以テス今形式上ヨリ之ヲ二ニ區別スルコトヲ得ヘシ一ハ民事上ノ保護ニシテ他ハ刑事上ノ保護ナリ民事上ノ保護トハ履行ノ強制侵害セラレタル秩序ノ回復若ハ損害ノ賠償是ナリ刑事上ノ保護トハ法律カ一定ノ準則ヲ守ルコトヲ命シ之ヲ守ラサルトキニ於テ刑罰ヲ科シ以テ之ヲ保護スルニ在ルナリ

之ヲ要スルニ法律ハ總テノ利益ヲ保護スルモノニアラス其最重要ナルモノニ限リ之ヲ保護スルモノナリ民事上ノ保護ナキ場合ハ刑事上ノ保護ナシ換言スレハ刑事上ノ保護ニ依ルモノハ民事上ノ保護ヲ以テ前提トス例ハ所有權ハ民法ニ於テ保護セラレルトモ其侵害ノ甚シキ場合ニ於テ刑法ニ於テ之ヲ保護スルカ如

シ

法益ハ之ヲ分テ一個人ノ法益、社會ノ法益及國家ノ法益ノ三ト爲スコトヲ得ヘシ例ハ生命、身體、名譽及財産ノ如キハ一個人ノ法益ナリ人ノ相集リテ生活ヲ爲スヤ茲ニ社會ナルモノヲ構成ス是ニ於テ社會モ亦法益ノ主體ト爲ル又國家ハ之ヲ組織スル個人ト獨立スル人格者ナリ從テ其生存ヲ保ツカ爲ニ個人ト獨立セル法益ヲ有セサルヘカラス是ニ於テ國家モ亦法益ノ主體ト爲ル

次ニ説明ヲ要スルハ法益ト公益トノ區別ナリ此兩者ハ之ヲ混同セサルコトヲ要ス前述ノ如ク法律ハ利益ヲ保護スルヲ以テ目的ト爲ス其保護ニ民事上及刑事上ノ二アリ法律ハ民事上ノ保護ヲ以テ充分ナリトセス刑事上ノ保護ヲ要スル所以ハ公共ノ利益カ其保護ヲ要求スルカ爲ナリ

講法ノ順序

第一章 講法ノ順序

刑法ノ各論ハ刑法ノ真髓ナリ如何ナル行爲カ罪ト爲ルカラ定ムルハ各論ノ領域ニ屬ス總論ハ各論ノ定ムル規定ノ適用ヲシテ謬ナカラシメンガ爲メノ準則ニ過キス而カモ各論中ノ規定タル箇條ノ多ク且複雑ナル初學者ノ了解ニ苦ム所ナル

ヘシ故ニ之ヲ講スルニ當リ先ツ以テ順序ヲ定ムルノ必要アリ其順序タル疎ヨリ密ニ入り簡ヨリ繁ニ及ホシ其間ニ脈絡系統ヲ保タサルヘカラス余ハ此主義ニ基キ第一個人ノ法益ニ對スル罪第二社會ノ法益ニ對スル罪第三國家ノ法益ニ對スル罪ト爲サント欲ス斯ノ如クスルトキハ第一ノ説明ヲ第二第三ニ應用シ又第二ノ説明ヲ第三ニ應用スルコトヲ得ルナリ  
以下説明セントスル大綱ヲ示セハ左ノ如シ

第一 一個人ノ法益ニ對スル罪

(一)生命ニ對スル罪(二)身體ニ對スル罪(三)自由ニ對スル罪(四)名譽ニ對スル罪(五)財産ニ對スル罪

罪第二 社會ノ法益ニ對スル罪

(一)社會ノ公安ニ對スル罪(二)公共ニ危險ナル罪(三)交通取引ニ於ケル誠實及信用ニ對スル罪(四)社會ノ風俗ニ對スル罪

罪第三 國家ノ法益ニ對スル罪

(一)國家ノ存立ニ對スル罪(二)國交ニ對スル罪(三)瀆職ノ罪(四)國權ニ對スル罪(五)立法及行政ニ對スル罪

本論

本論

一個人ノ法益ニ對スル罪

第一編 一個人ノ法益ニ對スル罪

一個人ノ法益ハ之ヲ分テ(一)生命(二)身體(三)自由(四)名譽(五)財産ノ五種ト爲ス以上ノ如ク區別スルハ學理上ノ分類ニ適スルノミナラス我法律ノ認ムル所ナリ

第一章 生命ニ對スル罪

第一節 生命ニ對スル罪ノ一般觀念

生命ニ對スル罪ハ殺人罪ニ比シ範圍廣シ刑法ノ法條中苟モ人ノ生命ヲ保護スル爲メ規定セラル、罪ハ悉ク此規定ノ範圍ニ屬ス即チ殺人罪及過失致死罪ノ如ク人ノ生命ヲ害スル罪ハ勿論遺棄罪及決闘罪ノ如ク人ノ生命ニ對シ危險ヲ與フル罪モ亦其中ニ包含ス法益ノ性質ヨリ之カ解釋ヲ下ストキハ人ノ生命トハ獨リ既ニ出生シタル人ノ生命ノミヲ指スノミナラス胎兒ノ生命モ亦人ノ生命ト解スルヲ相當トス是ニ由テ之カ定義ヲ與フレハ左ノ如シ  
生命ニ對スル罪トハ違法ニシテ且有責ナル所爲ヲ以テ人ノ生命ヲ害シ若ハ之ヲ危ウスルノ所爲ヲ謂フ

第一款 生命ニ對スル罪ノ客體

生命ニ對スル罪ノ客體

刑法各論

本論 一個人ノ法益ニ對スル罪 生命ニ對スル罪 生命ニ對スル罪ノ一般觀念

生命ニ對スル罪ノ客體ハ生存スル人ノ生命ナリ人ノ生命ハ何時ヨリ始マリ何時ニ終ルヤト云フニ人ノ精虫カ初メテ母體ニ受胎セラレタル時ヨリ始マリ其死亡ノ瞬間ニ及フヘキモノトス

生命ニ對スル罪ノ客體ハ之ヲ別テ(一)人ノ生命(二)胎兒ノ生命ト爲ス人ト胎兒トハ其法益相異ナラスト雖モ法律カ之ヲ保護スルノ必要及價值ノ點ヨリ觀察スレハ大ナル差異ナキヲ得ス胎兒ヲ害スルノ罪ハ之ヲ墮胎罪ト爲シ人ヲ害スルノ罪即チ殺人罪ト之ヲ區別セリ是ニ於テ胎兒ト人トヲ區別スルノ必要ヲ生ス此問題ニ關シ醫學者多數ノ一致スル所ノ見解ニ從ヘハ胎兒カ呼吸ヲ爲シタリヤ否ヤ若ハ呼吸ヲ爲シ得ルニ至リタリヤ否ヤヲ以テ胎兒ト嬰兒トノ分解ト爲スモノ、如シ蓋此說ハ此時ヲ以テ嬰兒カ母體ヲ離レ外界(即チ母體外)ニ於テ獨立生活ヲ始ムル點ニ重キヲ置クモノナリ呼吸ノ如何ヲ以テ裁判上生産ナリヤ又ハ死産ナリヤヲ判斷スルハ我國一般ノ裁判例ト爲リ居ルモノ、如シ余ハ此說ニ左袒ス

生命ニ對スル罪ノ主體

### 第二款 生命ニ對スル罪ノ主體

被殺者以外ノ者ハ何人ト雖モ生命ニ對スル罪ヲ犯スコトヲ得ヘシ法律ハ自殺ヲ

罪ト認メサルヲ以テ被殺者カ他人ニ囑託シテ自己ヲ殺サシムルカ如キハ罪ト爲ラス然レトモ人ノ自殺ヲ幫助シ又ハ被殺者ノ囑託ヲ受ケ若ハ其承諾ヲ受ケテ之ヲ殺スカ如キハ別段ノ犯罪ヲ構成ス

生命ニ對スル罪ノ所爲

### 第三款 生命ニ對スル罪ノ所爲

生命ニ對スル罪トハ(一)生命ヲ害シ又ハ(二)生命ヲ危ウスル所爲ヲ謂フ換言スレハ人ヲシテ(一)生活機能ヲ喪失(死亡)セシメ又ハ(二)生活機能ヲ喪失(死亡)スルコトアルヘキ危險ニ移ス所爲是ナリ

生命ニ對スル罪ノ分類

### 第二節 生命ニ對スル罪ノ分類

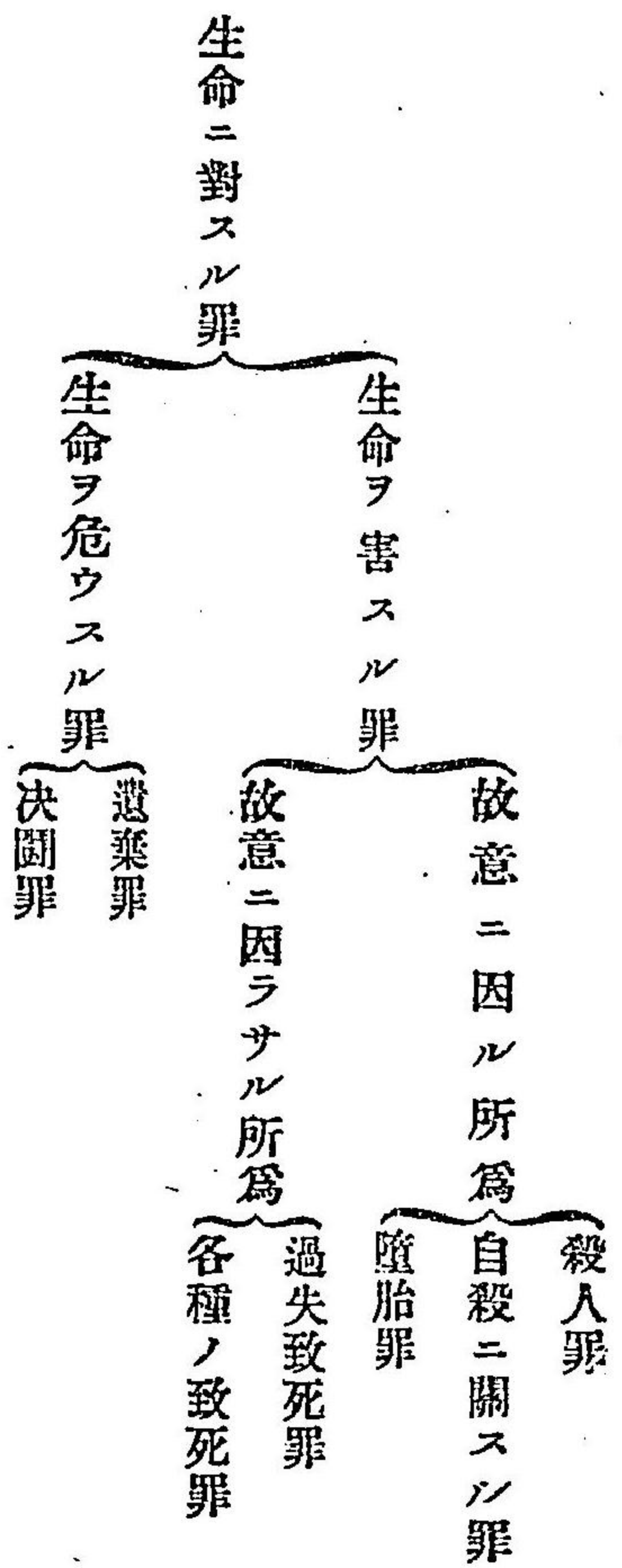
生命ニ對スル罪ハ之ヲ別テ(第一)生命ヲ害スル罪(第二)生命ヲ危ウスル罪ノ二種ト爲スコトヲ得ヘシ

第一 生命ヲ害スル罪ハ之ヲ(一)故意ニ因ルモノト(二)故意ニ因ラサルモノトノ二ト爲シ故意ニ因ルモノハ更ニ之ヲ別テ(イ)殺人罪(ロ)自殺ニ關スル罪及(ハ)墮胎罪ノ三ト爲スコトヲ得又故意ニ因ラサルモノハ之ヲ(一)過失殺及(二)各種ノ致死罪ト爲スコトヲ得ヘシ

刑法各論

本論 一個人ノ法益ニ對スル罪 生命ニ對スル罪

第二 生命ヲ危ウスル罪ハ之ヲ分テ(一)遺棄罪及(二)決闘罪ノ二ト爲スコトヲ得ヘシ今之ヲ表示スレハ左ノ如シ



## 第二章 故意ニ因リ生命ヲ害スル罪

### 第一節 殺人罪

#### 第一款 一般殺人罪

殺人トハ故意ヲ以テ人ノ生活機能ヲ喪失セシムル行爲若ハ不行爲ヲ謂フ過失ニ因ル殺人及自殺者ノ囑託ヲ受ケ若ハ其承諾ヲ得テ手ヲ下シタル殺人ハ一般殺人

故意ニ因リ生命ヲ害スル罪  
殺人罪  
一般殺人罪

罪ノ觀念中ニ包含セスシテ別ニ過失殺又ハ自殺ニ關スル罪ヲ構成ス  
殺人ハ總テノ犯罪中最モ重キモノニシテ其情狀ノ如キモ千差萬別ナリ或ハ犯罪ノ手段ニ依リ或ハ犯罪ノ動機ニ依リ或ハ行爲者ト被殺者トノ關係ニ依テ之ヲ區別スルコトヲ得ヘシ

#### 第二款 殺尊屬親罪

殺尊屬親罪ハ我刑法中ニ於ケル唯一ノ特別殺人罪ナリ而シテ此罪ハ故意ニ基ク殺人罪ノ一種ニシテ此罪ノ被害者ハ行爲者又ハ其配偶者ノ直系尊屬ナリ自己又ハ配偶者ノ直系尊屬トハ自己ノ父母若ハ祖父母其他ノ尊屬及配偶者ノ父母若ハ祖父母其他ノ直系尊屬ヲ指稱スルモノニシテ其家ニ在ルト否トハ問フ所ニアラス

殺尊屬親罪

#### 第三款 殺人ノ豫備罪及未遂罪

殺人ノ豫備トハ殺人罪ヲ犯ス爲メ其準備ノ行爲ヲ爲スヲ謂フ若シ人ヲ殺害スルノ行爲ニ著手シタルトキハ是レ豫備ノ範圍ヲ脱シタルモノナリ  
殺人ニ直接ナル行爲ニ著手シタルトキハ既ニ殺人ノ實行行爲ノ一部ヲ爲シタル

殺人ノ豫備罪及未遂罪

刑法各論

本論 一個人ノ法益ニ對スル罪 故意ニ因リ生命ヲ害スル罪 殺人罪

モノナリ既ニ殺人ノ實行行為ニ著手シタルモ人ノ生命ヲ喪失スルノ結果ヲ生セサルトキハ殺人未遂トス其人ノ生命ヲ喪失スルノ結果ヲ生セサルニ至リタル理由ハ或ハ犯人ノ舛錯若ハ障礙ニ因ルコトアルヘク或ハ犯人自己ノ意思ニ因リ中止シタルニ因ルコトアルヘシ

自殺ニ關スル罪

### 第二節 自殺ニ關スル罪

自殺ノ行為ハ罪ト爲ラス自殺ヲ罰セサル所以ハ本人ノ自ラ拋棄スル利益(生命)ニ對シテハ法律ハ之ヲ保護スルコト能ハサレハナリ法律カ強テ之ヲ保護セントスルモ自殺ノ既遂ハ之ヲ罰スルコト能ハサレハ到底其目的ヲ達シ得ヘキモノニアラス左レト人ノ生命ハ一個人ノ法益中最モ重大ナルモノナリ故ニ之ヲ保護シ得ヘクンハ之ヲ保護スルノ道ヲ盡サ、ルヘカラス故ニ縱令自殺ノ意ヲ決シタル者ノ囑託又ハ承諾アルニモセヨ第三者ヲシテ之カ爲ニ手ヲ下サシムルカ如キ行為ハ嚴ニ之ヲ禁セサルヘカラス是レ法律カ自殺ニ關スル罪ヲ定メタル所以ナリ  
自殺ニ關スル罪ヲ分テ二ト爲ス即チ(一)自殺教唆若ハ幫助又ハ被殺者ノ囑託ヲ受ケ若ハ承諾ヲ得テ之ヲ殺スノ罪及(二)自殺ニ關スル罪ノ未遂罪是ナリ

自殺教唆若ハ幫助又ハ被殺者ノ囑託ヲ受ケ若ハ承諾ヲ得テ之ヲ殺スノ罪

### 第一款 自殺教唆若ハ幫助又ハ被殺者ノ囑託ヲ受ケ若ハ承諾ヲ得テ之ヲ殺スノ罪

自殺ノ教唆トハ自殺ノ決意ナキ者ヲシテ自殺ノ決意ヲ爲サシメ以テ自殺ヲ實行セシムルヲ謂フ自殺教唆罪ハ本犯ニ對スル從屬犯ニアラスシテ獨立シタル一箇ノ犯罪ナリ即チ自殺教唆ハ他人ヲシテ犯罪ヲ犯サシムルニアラスシテ元來犯罪ヲ構成セサル行為ヲ教唆スルニ在リ故ニ教唆ニ著手スルノ行為ハ即チ自殺教唆ニ著手シタルモノナリ故ニ本人カ自殺ノ教唆ヲ受ケタルモ之ニ應セサリシトキハ未遂罪成立スヘキナリ斯ノ如ク自殺教唆ハ人ヲ教唆シテ自殺セシムルニ在レハ本人カ教唆ニ因リ自殺ヲ遂ケタルトキヲ以テ既遂ト爲スヘキモノトス  
自殺幫助トハ實行以外ノ所爲ヲ以テ之ヲ幫助シ若ハ容易ナラシムル所爲ヲ謂フ實行行為ヲ以テ自殺者ノ爲ニ手ヲ下ストキハ純然タル殺人罪ヲ構成ス  
囑託ニ因ル殺人トハ本人ニ於テ既ニ自殺ノ意ヲ決シ其實行ヲ囑託シタルニ因リ行為者カ之ニ基キ手ヲ下シ之ヲ殺害スルヲ謂フ殺害行為ノ全部ヲ行フト一部ヲ

刑法各論 本論 一個人ノ法益ニ對スル罪 故意ニ因リ生命ヲ害スル罪 自殺ニ關スル罪 墮胎罪

行フトハ犯罪ノ成否ニ何等ノ關係ナシ  
承諾ニ因ル殺人トハ行爲者カ本人ノ眞意ニ基ク承諾ヲ得テ手ヲ下シ之ヲ殺害ス  
ルヲ謂フ故ニ承諾カ一時的ノ行掛ニ出テタルカ又ハ脅迫詭計ニ基キタル場合ノ  
如キハ承諾アリタルモノト云フ能ハス

自殺ニ關  
スル罪  
未遂罪

### 第二款 自殺ニ關スル罪ノ未遂罪

自殺教唆ノ未遂罪ハ自殺教唆ニ著手シタルト同時ニ自殺教唆ノ實行ニ著手シタ  
ルモノナルコトハ前既ニ述ヘタルカ如シ故ニ教唆ニ著手シタルモ本人カ教唆ニ  
應セサリシ場合及教唆ニ應シ自殺ノ決心ヲ爲シタルモ中途之ヲ翻シタル場合若  
ハ自殺ノ實行ニ著手シタルモ本人自ラ之ヲ中止シ又ハ意外ノ舛錯若ハ障礙ニ因  
リ自殺ヲ遂ケサリシ場合ハ自殺未遂罪ナリトス

墮胎罪

### 第三節 墮胎罪

墮胎罪トハ違法且有責ニ胎兒ヲ母體內ニ於テ殺害シ又ハ早産ヲ爲サシムルヲ謂  
フ  
墮胎罪ノ客體ハ母體內ニ於テ生存スル胎兒ナリ苟モ生命アル以上ハ縱令不完全

ナルモ之カ客體タルヲ妨ケス胎兒ハ母體內ニ生活スルモノナレハ母體ニ何等侵  
害ヲ加フルコトナクシテ墮胎セシムルカ如キハ不可能ナリ又母ハ其胎兒ニ對シ  
大ナル利益ヲ有スル者ナルカ故ニ他人カ婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ承諾ヲ得シテ  
墮胎セシムルノ所爲ニ對シテハ母モ亦被害者ナリ  
墮胎罪ヲ構成スヘキ所爲ハ其一ハ母體內ニ於テ胎兒ヲ殺スモノニシテ其二ハ早  
産セシメ以テ胎兒ノ生命ヲ危ウスルモノナリ  
墮胎罪ノ手段ハ其方法ノ如何ヲ問ハサルナリ藥物ヲ用キルト機械ヲ使用スルト  
又精神作用例ハ催眠術ヲ以テスルト將軍ニ暴力ニ依ルトヲ問ハス苟モ墮胎ノ方  
法トシテ使用シ得ヘキモノタル以上ハ悉ク墮胎ノ手段タルヲ得ヘシ  
墮胎罪ノ成立ニハ一般原則ノ如ク違法ニシテ且有責ナラサルヘカラス茲ニ唯一  
ノ注意ヲ要スルハ法律ハ過失ニ因ル墮胎罪ヲ認メス從テ故意ナキトキハ墮胎罪  
ヲ成立スルコトナシ

墮胎罪ヲ分テ五ト爲ス即チ(一)妊婦自身ノ墮胎(二)妊婦ノ囑託又ハ承諾ニ基ク他人  
ノ墮胎(三)妊婦ノ承諾又ハ囑託ニ基ク醫師、產婆、藥劑師、藥種商ノ墮胎(四)妊婦ノ囑託

刑法各論 本論 一人ノ法益ニ對スル罪 故意ニ因ラスシテ生命ヲ害スル罪 過失致死罪 一三



故意ニ因  
ラスシテ  
生命ヲ害  
スル罪

又ハ承諾ニ基カサル墮胎(五)他人ノ行為ニ係ル墮胎ニ因ル妊婦ノ死傷是ナリ

### 第三章 故意ニ因ラスシテ生命ヲ害スル罪

故意ニ因ラスシテ生命ヲ害スル罪ヲ分テ(一)過失致死罪及(二)生命以外ノ法益ヲ害スル行為ニ基ク致死罪ノ二ト爲ス過失ニ基ク致死罪ハ更ニ之ヲ分テ(イ)一般過失致死罪及(ロ)業務上ノ不注意ニ因ル過失致死罪ノ二ト爲スコトヲ得ヘシ

過失致死  
罪

#### 第一節 過失致死罪

過失ノ意義如何ハ刑法總論ニ於テ講述スヘキモノナルヲ以テ之ヲ略シ茲ニ說明ヲ要スルハ致死ノ意義ナリ致死トハ常ニ故意ナキ場合ニ用キラル、語ニシテ故意ヲ以テ死ニ致ス場合ニ於テハ之ヲ殺ト云フ一般過失致死罪ニ付テハ別ニ論スヘキモノナシ唯茲ニ注意ヲ要スルハ業務上ノ過失ニ因ル過失致死罪ナリ業務トハ官職、職業等ニシテ自ラ選擇シタル吾人ノ生活ニ於ケル地位ヲ謂フ而シテ業務上ニ過失アリトシテ處罰セントスルニハ其行為カ業務執行中ナルヲ要ス業務執行中トハ業務ノ執行ニ直接ナル行為ヲ謂フ

生命ヲ危  
スル罪

#### 第二節 生命ヲ危ウスル罪

故意ヲ以テ人ノ生命ニ對シ危險ヲ與フル行為ノ全部ハ生命ヲ危ウスルノ罪ニ屬ス

遺棄罪

#### 第一款 遺棄罪

遺棄罪ハ人ノ生命ニ危險ヲ與フルヲ以テ其性質ト爲ス遺棄ニ廣狹ノ二義アリ狹義ニ於ケル遺棄ハ扶助ヲ要スル者ヲ從來保護セラレ居リタル場所ヨリ保護セラレ、見込ナキ若ハ見込少ナキ場所ニ移スヲ謂フ廣義ニ於ケル遺棄中ニハ狹義ノ遺棄ハ勿論生存ニ必要ナル保護ヲ爲サ、ル場合ヲモ包含ス

遺棄罪ノ客體ハ老幼、不具又ハ疾病ノ爲メ扶助ヲ要スヘキ者タルヲ要ス

遺棄罪ヲ分テ二ト爲ス即チ(一)一般遺棄罪及(二)保護ノ義務アル者ノ遺棄罪是ナリ一般遺棄罪ハ狹義ノ遺棄アリタル場合ニ於テ其罪ヲ構成スルモノトス保護ノ義務アル者ノ遺棄罪ハ廣義ノ遺棄アリタル場合ニ於テモ亦其罪ヲ構成ス

決闘罪

#### 第二款 決闘罪

決闘ニ因テ人ヲ殺スノ行為ニ著手スルトキハ殺人罪ナリ茲ニ所謂決闘トハ人ノ生命ヲ危ウスル行為ノミヲ謂フ

第四章 身體ニ對スル罪

身體ニ對スル罪ト我法典ノ所謂傷害罪トハ其意義相同シ傷害罪トハ人ノ身體ニ對スル違法ニシテ且有責ナル侵害ナリ

傷害罪ノ客體ハ他人ノ身體タルヲ要ス自己ノ身體若ハ未タ人ト稱スル能ハサル胎兒ノ身體ハ傷害罪ノ客體タルヘキモノニアラス

傷害罪ヲ構成スル第二ノ要件ハ暴行及傷害ノ二ト爲ス暴行トハ人ノ身體ニ對スル不法ナル攻撃ナリ傷害トハ人ノ身體ノ一部ヲ傷スルカ若ハ人ノ健康ヲ害スルヲ謂フ

傷害罪ヲ構成スルニハ故意アルヲ必要トス傷害罪ニ要スル故意ニ二種アリ其一ハ單ニ身體ニ對シ暴行ヲ加ヘントスルノ故意ヲ謂ヒ其二ハ傷害ノ結果ヲ豫想シ之ニ相當スル暴行ヲ加ヘントスル故意ヲ謂フ

唯茲ニ注意スヘキハ傷害致死ノ故意ハ結果ノ豫想ナキコトヲ要スルノ一事是ナリ

被害者ノ同意ハ傷害罪ヲシテ不成立ニ至ラシムヘキヤ否ヤニ付キテハ學說ノ岐

ル、所ナリト雖モ余ハ一個人ノ法益ハ法律ニ於テ特定メタル場合ノ外權利者カ自ラ之ヲ拋棄シ得ルモノト信ス故ニ被害者ノ同意ハ傷害罪ヲシテ不成立ニ至ラシム

身體ニ對スル罪ハ之ヲ(一)故意ニ因ル傷害罪(二)過失ニ因ル傷害罪及(三)身體以外ノ法益ヲ害スル行爲ニ基ク傷害罪ノ三種ト爲スコトヲ得ヘシ而シテ又故意ニ因ル傷害ハ之ヲ(イ)傷害行爲ノ如何(ロ)結果ノ輕重(ハ)豫謀ノ有無(ニ)被害者ノ身分(ホ)犯罪ノ緣由ニ依リ種々ニ之ヲ區別スルコトヲ得ヘシ今之ヲ表示スレハ左ノ如シ

故意ニ因ル傷害罪

傷害ニ至ラサル暴行ヲ加フル罪  
傷害罪

傷害致死罪

傷害罪及傷害致死罪ヲ助勢スル罪

傷害罪及傷害致死罪ニ關與スル罪

身體ニ對スル罪 過失ニ因ル傷害罪

一 身體以外ノ法益ヲ害スル所爲ニ因ル傷害罪

過失ニ基ク傷害罪ニ付テハ過失致死ニ依ル説明ヲ類推スヘシ

身體以外ノ法益ヲ害スル所爲ニ基ク傷害罪ニ付テハ先ニ此種ノ致死罪ニ付キ説明シタル所ヲ類推スヘシ而シテ我刑法カ認ムル此種ノ罪ハ左ノ十種ナリトス

- 一 瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ流出セシムルニ因ル傷害罪
- 二 陸路、水路又ハ橋梁ヲ損壞又ハ壅塞シ往來ノ妨害ヲ生セシムルニ因ル傷害罪
- 三 飲料淨水又ハ水道ノ飲料淨水若ハ其水源ヲ汚穢シ又ハ飲料淨水ニ毒物其他人ノ健康ヲ害スヘキ物ヲ混入スルニ因ル傷害罪
- 四 強姦、強制猥褻又ハ幼者又ハ心神喪失者ニ對スル姦淫若ハ猥褻ニ因ル傷害罪
- 五 裁判、檢察又ハ警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者ノ職權濫用ニ基ク傷害罪
- 六 墮胎ニ因ル傷害罪
- 七 遺棄ニ因ル傷害罪
- 八 逮捕、監禁ニ因ル傷害罪

九 強盜、脅迫ヲ爲スニ因ル傷害罪

一〇 建造物又ハ艦船ノ損壞ニ因ル傷害罪

自由ニ對スル罪

第五章 自由ニ對スル罪

自由ニ對スル罪トハ個人ノ意思ニ對スル罪ト同一ノ意義ヲ有ス凡ソ人ハ意思ヲ有シ其意思ヲ如何様ニ活動セシムヘキカハ一ニ其自由ノ權能ニ屬ス此權能ヲ害シ不當ニ人ノ意思ノ自由ヲ妨クル所爲即チ人ノ自由ニ對スル罪ノ本質ヲ成スモノナリ

自由ニ對スル罪ハ之ヲ第一一身上ノ自由ニ對スル罪第二性交ノ自由ヲ害スル罪第三法律ノ平穩ヲ害スル罪ノ三種ト爲スコトヲ得ヘシ

一 身上ノ自由ヲ害スル罪ハ又之ヲ分テ(一)逮捕及監禁ニ關スル罪(二)略取及誘拐ノ罪及(三)強要罪ノ三種ト爲スコトヲ得ヘシ

性交ノ自由ヲ害スル罪ハ之ヲ分テ(一)強姦罪及(二)強制猥褻罪ノ二種ト爲スコトヲ得ヘシ

法律ノ平穩ヲ害スル罪ハ之ヲ分テ(一)脅迫罪(二)住居ヲ侵ス罪及(三)祕密ヲ侵ス罪ノ

三種ト爲スコトヲ得ヘシ今之ヲ表示スレハ左ノ如シ

一 身上ノ自由ヲ害スル罪

逮捕及監禁ニ關スル罪  
略取及誘拐ノ罪

性交ノ自由ヲ害スル罪

強姦罪

自由ニ對スル罪

個人ノ法律の平穩ヲ害スル罪

強姦罪  
強制猥褻罪

脅迫罪

脅迫罪

住居ヲ侵スル罪

住居ヲ侵スル罪

祕密ヲ侵スル罪

一 身上ノ自由ヲ害スル罪

### 第一節 一身上ノ自由ヲ害スル罪

一 身上ノ自由ヲ害スル罪トハ意思活動ノ自由即チ行爲ノ自由ヲ害スルノ所爲ナリ之ヲ分テ三ト爲スコトヲ得ヘシ

- 一 空間的ニ意思活動ノ自由ヲ侵害スルモノ
- 二 人ニ對シ特別ニ其身體上又ハ身分上ニ強制力ヲ成立セシメ以テ其意思活動ヲ侵害スルモノ
- 三 人ノ行爲又ハ不行爲ニ關スル意思活動ノ侵害

ヲ侵害スルモノ

此罪ハ暴行、脅迫又ハ詭計ニ因リテ之ヲ犯スコトヲ得ヘシ

#### 第一款 逮捕及監禁ニ關スル罪

逮捕及監禁トハ違法ニ且有責ニ人ノ意思ノ空間的活動ヲ侵害スルヲ謂フ

逮捕及監禁罪ヲ構成スヘキ所爲ハ一般ニ場所ノ移動ニ關スル人ノ意思活動ノ自由ヲ侵害スルヲ以テ其性質ト爲ス必スシモ有形的ニ人ノ自由ヲ剝奪スル行爲アルヲ要セス

此罪ハ繼續犯ナリトス從テ此罪ノ時効ハ其行爲ノ終リタル時ヨリ算定スヘキモノトス(刑一〇)

#### 第二款 略取及誘拐ノ罪

我刑法ノ規定スル略取及誘拐ノ罪ハ之ヲ(一)未成年者ノ略取及誘拐ノ罪(二)特定ノ目的ヲ以テスル略取、誘拐若ハ人身賣買又ハ被拐取者若ハ被害者ヲ帝國外ニ移送スル罪(三)拐取罪ノ事後從犯及被拐取者若ハ被害者ヲ收受スル罪(四)拐取者ノ未遂

逮捕及監禁ニ關スル罪

略取及誘拐ノ罪

刑法各論

本論 一個人ノ法益ニ對スル罪 自由ニ對スル罪  
一 身上ノ自由ヲ害スル罪

犯及親告罪ノ四ト爲ス

略取及誘拐ハ一ニ之ヲ單ニ拐取ト稱ス拐取トハ一定ノ人ニ對シ違法且有責ニ實力上ノ支配ヲ獲得スルヲ謂フ更ニ之ヲ精密ニ言ヘハ略取トハ暴行又ハ脅迫ニ因リ人ニ對スル實力の支配ヲ獲得スルヲ謂ヒ誘拐トハ詭計又ハ誘惑ニ因リ人ニ對スル實力の支配ヲ獲得スルヲ謂フ略取誘拐ノ規定中ニハ人身賣買ヲモ包含ス此罪ハ略取誘拐又ハ賣買ノ結果タル被拐取者ニ對スル實力上ノ支配力除去セラレサル間ハ繼續スルモノトス

一 未成年者ニ對スル略取及誘拐罪ノ客體ハ父母、後見人其他監護權ヲ有スル者アル未成年者ト又斯ノ如キ者ナキ未成年者トノ二ナリ  
拐取ノ目的如何ハ之ヲ問ハス苟モ拐取罪ノ條件ニシテ具備スル以上ハ犯罪ノ構成ヲ妨クルモノニアラス

二 特定ノ目的ヲ有スル略取誘拐、人身賣買及被拐取者若ハ被賣者ヲ帝國外ニ移送スル罪ニ付テハ其客體ハ未成年者タルト否トヲ問ハサルモ其犯罪ノ成立ニハ營利、猥褻又ハ結婚若ハ帝國外ニ移送スル目的ヲ有スルコトヲ必要トス

三 拐取罪ノ事後從犯及特定ノ目的ヲ以テスル被拐取者及被賣者ノ收受若ハ藏匿若ハ隱避セシムル行爲ハ拐取罪ノ事後從犯ナリ普通ノ從犯ハ總則ノ適用ヲ受クヘキモノトス

營利又ハ猥褻ノ目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受スル行爲ニ付テハ特別ノ規定アリ即チ刑法第二百二十七條第二項是ナリ此場合ニ於テ拐取者又ハ賣買者ヲ幫助スルノ目的アルトキハ同條第一項ニ依リ處斷スヘキモノトス

拐取罪ノ未遂罪ハ之ヲ罰スヘキモノニシテ告訴ヲ待テ之ヲ論スヘキ場合ト然ラサル場合トアリ

第一 告訴ヲ待テ其罪ヲ論スヘキ場合

- 一 營利ノ目的ニ出テサル單純ナル幼者ノ略取及誘拐ノ罪
- 二 營利ノ目的ニ出テサル猥褻又ハ結婚ノ目的ヲ以テスル略取及誘拐ノ罪
- 三 營利ノ目的ニ出テサル前二項記載ノ事後從犯
- 四 營利ノ目的ニ出テサル被拐取者又ハ被賣者ノ收受ノ罪
- 五 前四項記載ノ未遂罪

第二 告訴ヲ待タズ當然其罪ヲ論スヘキ場合

一 帝國外ニ移送スル目的ニ出テタル略取及誘拐竝ニ人身賣買ノ罪

二 被拐取者又ハ被賣者ヲ帝國外ニ移送スル罪

三 前二項記載ノ事後從犯

四 營利ノ目的ニ出テタル拐取及其事後從犯竝ニ被拐取者及被賣者ノ收受ノ罪

五 前四項記載ノ未遂罪

ナリトス

強要罪

第三款 強要罪

強要罪トハ暴行又ハ脅迫ニ因リ人ヲシテ義務ナキ行爲ヲ爲サシメ又ハ行フヘキ權利ヲ妨害スルヲ謂フ

此罪ハ人ノ意思活動ノ自由ナル法益ヲ侵害スルモノニシテ更ニ之ヲ具體的ニ説明スレハ法律上義務ナキ行爲ヲ被害者ノ意ニ反シテ行ハシメ又ハ被害者ヲシテ其行ハントスル行爲ヲ行ハサラシムルニ因テ成立ス

第二節 性交ノ自由ヲ害スル罪

性交ノ自由ヲ害スル罪

性交ノ自由ヲ害ストハ被害者ニ對シ其意思ニ反シ姦淫又ハ猥褻ノ行爲ヲ行フヲ謂フ

性交ノ自由ニ關スル行爲ハ之ヲ分テ(一)強姦罪(二)強制猥褻罪(三)未遂罪及親告罪四

強姦又ハ強制猥褻ニ因ル致死傷罪ト爲スコトヲ得

強姦罪ハ更ニ之ヲ分テ(甲)狹義ノ強姦罪(乙)心神喪失者ニ對スル姦淫罪(丙)少女ニ對スル姦淫罪ノ三ト爲スコトヲ得

強制猥褻罪モ亦之ヲ細分シテ(甲)狹義ノ強制猥褻罪(乙)心神喪失者ニ對スル猥褻罪及(丙)幼者ニ對スル猥褻罪ノ三ト爲スコトヲ得ヘシ

第一款 強姦罪

強姦罪

強姦トハ暴行又ハ脅迫ヲ以テ婦女ヲ姦淫スル行爲ヲ謂フ

強姦罪ノ客體ハ婦女タルコトヲ要ス但妻ハ其夫ニ對シ強姦罪ノ客體タルコトヲ得ス

強姦罪ノ主體ハ普通男子トス然レトモ女子ト雖モ或ハ單獨ニ或ハ共犯者トシテ

刑法各論

本論 一個人ノ法益ニ對スル罪 自由ニ對スル罪 性交ノ自由ヲ害スル罪

強姦罪ノ主體ト爲ル能ハサルニアラス

強姦罪ハ男子カ婦女ヲ姦淫スルニ因テ成立スルモノトス姦淫トハ異性間ノ性交ヲ指稱シ同性間ノ交際ハ之ヲ猥褻ノ行爲ト云フヲ得ルモ姦淫ト云フ能ハス但之ニ因リ男子カ淫慾ヲ遂ケタルコトヲ必要トセス

姦淫ハ暴行脅迫ニ因リ之ヲ行フニ因リ強姦トナル暴行若ハ脅迫ハ(一)婦女ノ抵抗カヲ全然排除スルコトアリ(二)之ニ因テ婦女ニ義務ナキコトヲ行ハシムルコトアリ(三)之ニ因テ婦女ノ行フヘキ權利ヲ害スルコトアリ法律ニ暴行又ハ脅迫ヲ以テ婦女ヲ姦淫ストハ暴行又ハ脅迫ニ基ク右三箇ノ結果ノ中其一ヲ利用シ婦女ヲ姦淫スルヲ謂フ

強姦罪ノ手段ハ暴行又ハ脅迫ナリ茲ニ所謂暴行トハ之ニ因リ婦女ノ抵抗力ヲ排除シ姦淫ヲ行ハシメ又ハ姦淫ヲ忍容セシムル爲メ使用セラル、モノナレハ婦女ニ對シテ之ヲ爲スヲ要ス脅迫モ亦被害者タル婦女ニ對シテ之ヲ爲スヲ要ス心神喪失ニ乘シテ婦女ヲ姦淫シタル者ハ之ヲ強姦罪ニ準セリ此場合ニ於テハ行爲者ハ暴行又ハ脅迫タル手段ニ出ツル必要ナシ

十三歳以下ノ少女ヲ姦淫スルノ行爲ハ縱令少女ニ於テ同意アルモ亦敢テ暴行脅迫ノ手段ニ出ツルコトナキモ強姦罪ニ準シ之ヲ處罰スヘキモノトス

強制猥褻

第二款 強制猥褻罪

強制猥褻トハ他人ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲ヲ爲スヲ謂フ男女老幼ノ別ヲ問ハス總テ此罪ノ主體又ハ客體タルコトヲ得ヘシ

強姦罪ニハ姦淫ノ行爲アルコトヲ必要トスルニ反シ猥褻罪ニハ單ニ猥褻ノ行爲アルヲ以テ足ル猥褻ノ行爲トハ客觀的ニ之ヲ言ヘハ淫事ニ關シ風紀ヲ紊ルノ行爲ヲ謂ヒ主觀的ニ之ヲ言ヘハ行爲者カ淫慾ヲ起シ又ハ之ヲ満足セシムル爲ニ行フ行爲ヲ謂フ

心神喪失者若ハ十三歳未滿ノ男女ニ對シ爲ス猥褻ノ行爲モ亦強制猥褻罪ニ準シ處罰スヘキモノトス

未遂罪及親告罪

第三款 未遂罪及親告罪

強姦及強制猥褻罪ノ未遂罪ハ法律上之ヲ罰スヘキモノトス強姦又ハ強制猥褻ハ之カ爲ニスル暴行又ハ脅迫ニ著手スルニ因リ此罪ノ著手タリ敢テ姦淫又ハ猥褻

刑法各論 本論、一個人ノ法益ニ對スル罪 性交ノ自由ヲ害スル罪 自由ニ對スル罪

ノ行爲ニ著手シタル時ヲ以テ著手ノ時期ト爲スヘキモノニアラス  
心神喪失者若ハ幼者ニ對スル姦淫者ハ猥褻ノ行爲ノ著手ニ付テハ暴行又ハ脅迫  
ヲ必要トセサルカ故ニ姦淫若ハ猥褻ノ行爲若ハ之カ手段タル行爲ニ著手シタル  
時ヲ以テ此罪ノ著手アリタルモノト解セサルヲ得ス  
此罪ハ親告罪ナリ故ニ此罪ニ付キ公訴ヲ提起セントスルニハ被害者ノ告訴ナカ  
ルヘカラス

第四款 強姦又ハ強制猥褻ニ因ル致死傷罪

強姦、強制猥褻、心神喪失又ハ幼者ニ對スル姦淫若ハ猥褻ノ行爲及是等ノ行爲ノ未  
遂ニ因リ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ行爲者ハ其結果タル致死傷ニ付キ其責ニ任  
スヘキモノトス

第三節 個人ノ法律の平穩ニ對スル罪

吾人ハ法律ノ保護ノ下ニ棲息スル者ナリ法律ノ保護ノ下ニ棲息スルカ故ニ吾人  
ハ權利ヲ安全ニ享有シ得ヘシトノ信用ヲ有ス社會ノ秩序ヲ維持セラレ吾人カ堵  
ニ安シ平穩ニ生活シ得ヘキ所以ノモノハ此信用アルカ爲ナリ此信用ヲ害スルノ

個人ノ法律  
對スル平穩  
罪

強姦又ハ  
強制猥褻  
ニ因ル致  
死傷罪

罪ハ之ヲ一個人ノ法律の平穩ニ對スル罪ナリト云フヲ得ヘシ  
我刑法ノ規定スル個人ノ法律の平穩ニ對スル罪ハ(一)脅迫罪(二)住居ヲ侵ス罪及(三)  
祕密ヲ侵ス罪ト爲スコトヲ得ヘシ

第一款 脅迫罪

脅迫罪

脅迫トハ人ノ生命、身體、自由、名譽、財產ニ對シ不法ニ侵害ヲ加フヘキ旨ノ通知ナリ  
脅迫ハ被脅迫者ニ於テ眞ニ危害ヲ受クヘシトノ信用ヲ起スヲ以テ足ルモノニシ  
テ敢テ被脅迫者カ畏怖ノ念ヲ起スヲ必要トセス  
脅迫ニ依リ表示セラル、害惡ハ脅迫者自身若ハ其共謀者ノ加フルコトヲ表示ス  
ルヲ謂フ脅迫者自身カ加フヘキモノナルトキハ其直接ナルト間接ナルトハ之ヲ  
問フ所ニアラス  
脅迫ニ依リ表示セラル、害惡ハ不法ナルコトヲ要ス  
脅迫ハ文書若ハ言語又ハ舉動ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得  
脅迫者ハ眞ニ害ヲ加フルノ故意アルヲ要セサルハ勿論ナレトモ被脅迫者カ之ニ  
因リ眞ニ害ヲ受クヘシトノ信用ヲ惹起スル行爲ヲ行フノ故意アルコトヲ要ス

刑法各論

本論

一個人ノ法律ニ對スル罪 自由ニ對スル罪  
個人ノ法律の平穩ニ對スル罪



第一款 住居ヲ侵ス罪

住居ヲ侵ス罪ノ規定ニ依リ保護セラル、利益ハ居住者カ何等ノ妨害ヲ受クルコトナク其住居ニ於テ自由ニ意思活動ヲ爲スヲ得ル自由ナリ

我刑法ノ認ムル住居ヲ侵ス罪ハ(一)住居侵害罪(二)皇居、禁苑、離宮、行在所、神宮又ハ皇陵ニ侵入スル罪ノ二ト爲ス

此罪ハ人ノ住居ニ侵入スルノ行爲又ハ人ノ住居ニ在ル者カ權利者ノ要求ヲ受ケテ退去セサル不行爲ヨリ成立ス

第一ノ罪ヲ構成スルニハ其侵入シ又ハ退去セサル場所ハ人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船タルコトヲ要ス

第二ノ罪ヲ成立スルニハ其侵入シタル場所ハ皇居、禁苑、離宮、行在所、神宮若ハ皇陵タルコトヲ要ス而シテ皇居、禁苑、離宮又ハ行在所ニ相當ノ理由アリテ立入りタル者、要求ヲ受ケナカラ故ナク其場所ヨリ退居セサル場合ニ於テハ普通ノ住居侵害罪ノ條件ニ基キ處罰スルノ外ナシ

住居侵害罪ノ未遂犯ハ之ヲ罰スヘキモノトス

第三款 秘密ヲ侵ス罪

此罪ハ住居侵害罪ト同シク一個人ノ法律の平穩ヲ害スルノ罪ニシテ即チ一個人ノ自由ヲ害スル罪ナリトス

我刑法ニ規定スル秘密侵害罪ハ之ヲ分テ第一信書ノ秘密ヲ侵ス罪第二陰私漏告罪ノ二ト爲ス

第一 信書ノ秘密ヲ侵ス罪

本罪ノ客體ハ封緘シタル信書タルヲ要ス而シテ之ヲ開披スルノ行爲アルニ因リ成立ス其開披タル不法ニシテ且故意アルコトヲ要ス

第二 陰私漏告罪

陰私漏告トハ一個人ノ一身上又ハ家族上ノ生活ニシテ之ヲ秘密ト爲シアル事實ヲ漏告スルヲ謂フ而シテ我刑法所定ノ陰私漏告罪ハ醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人、宗教若ハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ是等ノ職ニ在リシ者カ其職務上知り得タル事項ヲ漏告スル場合ニ限ル

第六章 名譽ニ對スル罪

刑法各論 本論 一個人ノ法益ニ對スル罪 名譽ニ對スル罪

法律上所謂名譽トハ人ノ眞價ヲ稱スルニアラスシテ社會一般人カ特定人ニ對シ  
與フル聲譽ナリ此聲譽ニアリ一ハ人カ生ル、ト同時ニ獲得スルモノニシテ之  
ヲ人ノ人タル名譽ト云ヒ一ハ本人ノ地位、財産、智能、才幹等ト社會一般力與フル判  
斷トニ依リ成立スルモノニシテ之ヲ社會上ノ名譽ト云フ

吾人ハ他人ヲシテ人ノ人タル名譽若ハ社會的名譽ヲ尊敬セシムルコトヲ要求ス  
ル權利アリト雖モ法律ノ要求スル所ハ他トノ名譽ニ對シ積極的ニ充分ナル尊敬  
ヲ拂フヘシト命スルニアラスシテ不法ナル輕蔑ノ所爲ヲ爲スコトヲ禁スルニ在  
リ而シテ此罪ヲ構成スルニ必要ナル條件ヲ擧クレハ

第一 輕蔑ノ表示ハ第三者ノ耳目ニ達シタルコトヲ要ス

第二 輕蔑ノ表示ニ因リ被害者カ明白ニ認知セラル、コトヲ要ス

第三 違法且有責ナルコトヲ要ス

名譽ニ對スル罪ハ之ヲ分テ刑法上ノ名譽ニ對スル罪及特別法上ノ名譽ニ對スル  
罪ト爲スコトヲ得

刑法上ノ名譽ニ對スル罪ハ更ニ之ヲ分テ第一侮辱罪第二名譽毀損罪ト爲ス名譽

毀損罪ハ更ニ分テ(一)生存者ニ對スル名譽毀損罪及(二)死者ニ對スル名譽毀損罪ト  
爲スコトヲ得

### 第一 侮辱罪

人類タル以上ハ總テ此罪ノ被害者タルコトヲ得ヘシ嬰兒、精神病者若ハ死刑ノ  
確定判決ヲ受ケタル囚人モ亦被害者タルコトヲ得ヘシ

侮辱トハ事實ヲ摘示セスシテ人ニ對シ輕蔑ノ表示ヲ爲スヲ謂フ

茲ニ注意スヘキハ侮辱行爲ハ其公然之ヲ爲ス點ニ付テ故意ヲ要スル一事是ナ  
リ

### 第二 名譽毀損罪

名譽毀損罪ハ第一生存者ニ對スル名譽ヲ毀損スル罪、第二死者ノ名譽ヲ毀損ス  
ル罪ノ二ト爲ス

一 生存者ノ名譽ヲ毀損スル罪

名譽毀損罪ト侮辱罪ト異ナル所ハ其所爲ニ在リ即チ人ノ名譽ヲ害スヘキ事實  
ヲ公然摘示シテ人ノ名譽ヲ害スルニ因リテ構成ス而シテ事實ノ摘示トハ一定

法律上所謂名譽トハ人ノ眞價ヲ稱スルニアラスシテ社會一般人カ特定人ニ對シ  
與フル聲譽ナリ此聲譽ニニアリ一ハ人カ生ル、ト同時ニ獲得スルモノニシテ之  
ヲ人ノ人タル名譽ト云ヒ一ハ本人ノ地位、財産、智能、才幹等ト社會一般カ與フル判  
斷トニ依リ成立スルモノニシテ之ヲ社會上ノ名譽ト云フ

吾人ハ他人ヲシテ人ノ人タル名譽若ハ社會的名譽ヲ尊敬セシムルコトヲ要求ス  
ル權利アリト雖モ法律ノ要求スル所ハ他トノ名譽ニ對シ積極的ニ充分ナル尊敬  
ヲ拂フヘシト命スルニアラスシテ不法ナル輕蔑ノ所爲ヲ爲スコトヲ禁スルニ在  
リ而シテ此罪ヲ構成スルニ必要ナル條件ヲ擧クレハ

- 第一 輕蔑ノ表示ハ第三者ノ耳目ニ達シタルコトヲ要ス
  - 第二 輕蔑ノ表示ニ因リ被害者カ明白ニ認知セラル、コトヲ要ス
  - 第三 違法且有責ナルコトヲ要ス
- 名譽ニ對スル罪ハ之ヲ分テ刑法上ノ名譽ニ對スル罪及特別法上ノ名譽ニ對スル  
罪ト爲スコトヲ得
- 刑法上ノ名譽ニ對スル罪ハ更ニ之ヲ分テ第一侮辱罪第二名譽毀損罪ト爲ス名譽

毀損罪ハ更ニ分テ(一)生存者ニ對スル名譽毀損罪及(二)死者ニ對スル名譽毀損罪ト  
爲スコトヲ得

### 第一 侮辱罪

人類タル以上ハ總テ此罪ノ被害者タルコトヲ得ヘシ嬰兒、精神病者若ハ死刑ノ  
確定判決ヲ受ケタル囚人モ亦被害者タルコトヲ得ヘシ  
侮辱トハ事實ヲ摘示セスシテ人ニ對シ輕蔑ノ表示ヲ爲スヲ謂フ  
茲ニ注意スヘキハ侮辱行爲ハ其公然之ヲ爲ス點ニ付テ故意ヲ要スル一事是ナ  
リ

### 第二 名譽毀損罪

名譽毀損罪ハ第一生存者ニ對スル名譽ヲ毀損スル罪第二死者ノ名譽ヲ毀損ス  
ル罪ノ二ト爲ス

- 一 生存者ノ名譽ヲ毀損スル罪

名譽毀損罪ト侮辱罪ト異ナル所ハ其所爲ニ在リ即チ人ノ名譽ヲ害スヘキ事實  
ヲ公然摘示シテ人ノ名譽ヲ害スルニ因リテ構成ス而シテ事實ノ摘示トハ一定

ノ事實ヲ告知スルヲ謂フ單ニ抽象的ノ批評ヲ爲スカ如キハ事實ノ摘示ニアラ  
ス摘示セラレタル事實ノ有無ハ之ヲ問フ所ニアラス

二 死者ノ名譽ヲ毀損スル罪

死者ハ人格者ニアラス從テ法益ヲ保有スル能ハス法律カ死者ノ名譽ヲ毀損ス  
ルコトヲ禁シ其保護セントスル利益ハ死者ノ名譽其モノニハアラスシテ遺族  
カ死者ヲ哀慕崇敬スル宗教的ノ感覺ナリトス死者ノ名譽ヲ毀損スル場合ニ於  
テハ指摘シタル事實ハ誣罔ニアラサレハ罪ト成ラス

第七章 財産ニ對スル罪

第一節 財産ニ對スル罪ノ一般觀念

生命、身體、自由及名譽ニ對スル罪ト財産ニ對スル罪トノ間ニハ大ナル區別ノ存ス  
ルモノアリ前者ハ法益ヲ保有スル人其レ自身ニ對スル直接ノ侵害ナレトモ後者  
ハ之ニ反シテ法益ノ保有者ニ對スル直接ノ侵害ニアラスシテ先ツ財産ニ關スル  
法益ヲ害シ之ニ由テ法益ノ保有者ヲ害スルモノトス

刑法上保護スヘキ財産上ノ利益ハ物權、債權及其他ノ財産權ナリトス而シテ此罪

財産ニ對  
スル罪  
一般觀念  
ノ

ハ法益ノ目的其モノニ對スル侵害行爲ニ因リ之ヲ犯スコトヲ得ヘク或ハ法益ノ  
保有者タル被害者ノ意思ニ對シ影響ヲ及ホスヘキ行爲ヲ爲シ以テ法益ヲ侵害ス  
ルニ因テ之ヲ犯スコトヲ得ヘク又ハ前兩者ノ犯罪アリタル後是等ノ侵害行爲ニ  
加ハリ被害者ヲシテ其奪ハレタル物ノ回復ヲ困難ナラシムル行爲ニ因テ成立ス  
財産ニ對スル罪ハ之ヲ大別シテ第一法益其モノヲ直接ニ侵害スル罪、第二法益ノ  
保有者ノ意思ニ影響ヲ及ホシ以テ法益ヲ侵害スル罪、第三賊物ニ關スル罪ノ三種  
ト爲スコトヲ得ヘシ

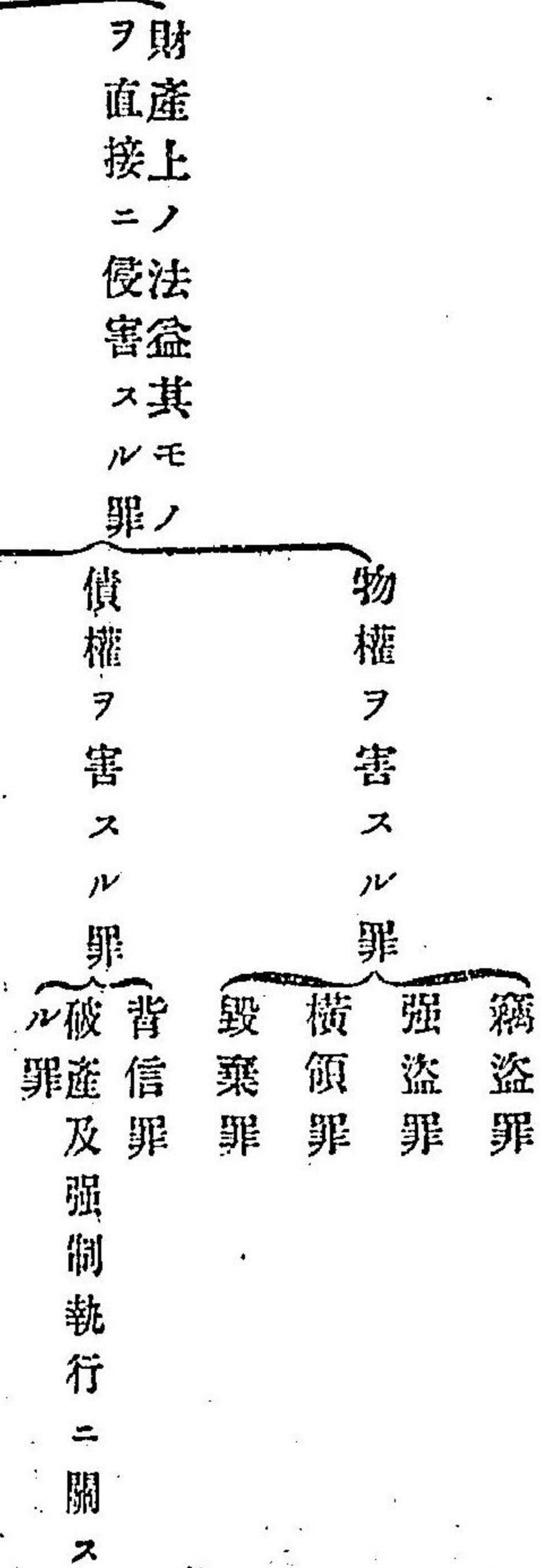
法益其モノヲ直接ニ侵害スル罪ハ之ヲ分テ(一)物權ヲ害スル罪(二)債權ヲ害スル罪  
(三)其他ノ財産ニ關スル權利ヲ害スル罪ノ三ト爲スコトヲ得ヘシ  
又物權ヲ害スルノ罪ハ之ヲ細分シテ(イ)竊盜罪(ロ)強盜罪(ハ)横領罪(ニ)毀棄罪ノ四ト  
爲スコトヲ得ヘシ債權ヲ害スルノ罪ハ之ヲ細分シテ(イ)背信ノ罪(ロ)破産及強制執  
行ニ關スル罪ノ二ト爲スコトヲ得ヘシ其他ノ財産權ヲ害スル罪ハ之ヲ細分シテ  
(イ)著作權、特許權、商標權、商號權、意匠權及實用新案權ヲ侵害スル罪(ロ)信用及業務ヲ  
害スル罪ノ二ト爲スコトヲ得ヘシ

刑法各論 本論 一個人ノ法益ニ對スル罪 財産ニ對スル罪 一般觀念

法益ノ保有者ノ意思ニ影響ヲ及ホスヘキ行爲ヲ爲シ因テ財産上ノ法益ヲ害スルノ罪ハ之ヲ分テ(一)詐欺罪(二)恐喝罪(三)貪利罪ノ三ト爲スコトヲ得ヘシ而シテ恐喝罪ハ之ヲ細分シテ(イ)通常ノ恐喝罪(ロ)強盜的恐喝罪ノ二ト爲スヲ得ヘシ

贓物ニ關スル罪ハ之ヲ分テ(一)贓物收受罪(二)贓物ノ運搬、寄藏、故買、牙保ヲ爲スノ罪ト爲スコトヲ得ヘシ

以上述フル所ノ分類ヲ次ニ表示スヘシ



其他ノ財産ニ關スル罪  
信用及業務ニ對スル  
著作權及特許權ニ對スル罪等

財産ニ對スル罪  
法益ノ保有者ノ意思ニ影響ヲ及ホスル罪  
詐欺罪  
恐喝罪  
通常ノ恐喝罪  
強盜的恐喝罪  
貪利罪

贓物ニ關スル罪  
贓物收受罪  
贓物ノ運搬、寄藏、故買又ハ牙保ヲ爲ス罪

第二節 財産上ノ法益其モノヲ直接ニ侵害スル罪

ル罪

第一款 物權ヲ害スル罪

第一項 竊盜罪

竊盜トハ不當ニ領得スルノ意ヲ以テ他人ノ事實上ノ支配即チ保管ニ存スル動カシ得ヘキ他人ノ所有物ヲ自己ノ事實上ノ支配即チ保管ニ移スヲ謂フ

竊盜罪ノ客體ハ他人ノ事實上ノ支配ニ存スル動カシ得ヘキ他人ノ物ナリ他人ノ

財産上ノ法益其モノヲ直接ニ侵害スル罪  
物權ヲ害スル罪  
竊盜罪

刑法各論

本論 一個人ノ法益ニ對スル罪 財産ニ對スル罪  
財産上ノ法益其モノヲ直接ニ侵害スル罪

所有ニ屬スルヲ要スルカ故ニ財物ニシテ其一私人ニ屬スルト國家若ハ官公署ニ屬スルト將自然人ニ屬スルト法人ニ屬スルトハ之ヲ問ハス之ヲ要スルニ財物ニシテ何人カノ所有ニ屬スルトキハ竊盜罪ノ客體タルコトヲ得ルモノトス之ニ反シテ自己ノ物又ハ無主物ニ對シテハ竊盜罪ヲ構成セス他人ノ事實上ノ支配ヲ存スルヲ要スルカ故ニ自己ノ事實上ノ支配ニ屬シ又ハ何人ノ占有ニモ屬セサル財物ニ付テハ竊盜罪成立セス又動カシ得ヘキ物タルヲ要スルカ故ニ不動産ノ如キハ不動産トシテハ之ヲ竊取スル能ハサルモノトス竊盜罪ヲ構成スヘキ所爲ハ不法ニ領得スルノ意ヲ以テ他人ノ事實上ノ支配ニ存スル物ヲ自己ノ事實上ノ支配ニ移スニ在ルモノトス

### 第一 準竊盜罪

竊盜罪ハ他人ノ所有ニ屬スル物ニアラサレハ成立セサルヲ原則トスト雖モ法律ハ特ニ例外ヲ設ケ自己ノ物ト雖モ他人ノ占有ニ係リ又ハ公務所ノ命ニ依リ他人ノ看守スル物ヲ領得スルノ意ヲ以テ自己ノ事實上ノ支配ニ移ストキハ竊盜罪ニ準シ處罰スヘキ旨ヲ定ム

### 第二 電氣竊盜罪

電氣ハ物ニアラスシテ一種ノ力ナリ法律ハ強竊盜罪ニ關シ電氣ヲ財物ト看做スヘキ旨規定シタルカ故ニ電氣モ亦竊盜罪ノ客體タルヲ得ヘシ但電氣ハ物ニアラスシテ力ナルカ故ニ電氣竊盜罪ヲ構成スルニハ電力ヲ竊用スルニ因リテ成立スルモノトス

### 第三 親族相盜

親族相盜ハ一般竊盜罪ニ對スル特例ナリ直系血族配偶者及同居ノ親族又ハ家族間ニ於テ竊盜罪アリタルトキハ其罪ヲ免除シ其他ノ親族又ハ家族間ニ於テ竊盜ノ行爲アリタルトキハ告訴ヲ竣テ其罪ヲ論スヘキモノトス

### 第一項 強盜罪

強盜トハ人ノ事實上ノ支配ニ存スル他人所有ノ物ヲ不當ニ領得スルノ意ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シ被害者ノ抵抗力ヲ排除シ之ヲ自己ノ事實上ノ支配ニ移スヲ謂フ

茲ニ注意ヲ要スヘキハ強盜罪ヲ構成スル脅迫ト恐喝罪ヲ構成スル恐喝トノ區別

刑法各論

本論 一個人ノ法益ニ對スル罪 財產ニ對スル罪  
財產上ノ法益其モノヲ直接ニ侵害スル罪

是ナリ被害者カ行爲者ノ暴行又ハ脅迫ニ對シ抵抗ヲ爲サス又ハ之ヲ爲ス能ハサルニ至リタルカ爲メ行爲者ノ爲スカ儘ニ奪取ニ任セタルトキ又ハ外形ニ於テ自ラ進ンテ物件ヲ交付スルモ其交付カ自由意思ヲ奪ハレタルノ結果行爲者ノ器械ト爲リタルニ過キスシテ被害者ニ物ヲ交付スルノ意ナキモノト認ムヘキ場合ニ於テハ強盜ナリ之ヲ要スルニ強盜ト恐喝トノ區別ノ要點ハ被害者ノ自由意思ヲ全然排除シタリヤ否ヤニ在リ

尙ホ人ヲ昏醉セシメテ財物ヲ盜取スルノ行爲及暴行脅迫ニ因リ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシムルノ行爲即チ強盜的恐喝モ亦強盜ノ觀念ニ包含スルモノトス

第三項 横領罪

横領罪トハ自己ノ事實上ノ支配ニ屬スル他人ノ物ヲ故意ニ不法ニ領得スルヲ謂フ

我刑法ニ於テ横領罪ニ付キ規定スルモノハ(一)一般ノ横領罪(二)準横領罪(三)監守物横領罪(四)遺失物横領罪(五)親族間ノ横領罪ナリトス

横領罪

他人ノ物ノ事實上ノ支配ハ適法ナル法律行爲ニ基クコトアリ又錯誤若ハ偶然ノ出來事ニ基クコトアリ又不法ノ原因ニ基クコトアリ又事務管理ニ基クコトアリ其原因ノ如何ヲ問ハス他人ノ物カ自己ノ事實上ノ支配ニ存スルトキハ其物ハ横領罪ノ客體タルヲ得ルモノトス唯例外ト爲スヘキ場合ハ不法ニ領得スルノ意ヲ以テ爲シタル犯罪行爲ニ因リ他人ノ物ニ關シ事實上ノ支配ヲ得タル場合ナリトス尙ホ同一物ニ付キ保管者ト看守者アル場合ニ於テハ其物ハ保管者ノ事實上ノ支配ニ存スルモノト認ムヘキモノトス

不動産及代替物モ亦横領罪ノ客體タルコトヲ得

横領トハ不當ニ領得行爲ヲ爲スヲ謂フ領得行爲トハ行爲者カ物ニ對スル所有者ニ屬スル處分權ヲ行フノ行爲ヲ謂フ例ハ物ノ處分特ニ賣却消費ヲ爲スカ如ク又ハ物ヲ隱匿シ拾得事實ヲ否認スルカ如キ行爲ハ之ヲ領得行爲ト云フヲ得ヘシ

準横領罪ハ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル自己ノ物ヲ横領スルニ因リ成立ス

監守物横領罪ハ業務上自己ノ事實上ノ支配ニ存スル他人ノ物ヲ横領スルニ因リ成立ス

刑法各論

本論 一個人ノ法益ニ對スル罪 財産ニ對スル罪  
 財産上ノ法益其モノヲ直接ニ侵害スル罪

又拾得物横領罪ハ遺失物、漂流物其他占有ヲ離レタル他人ノ物ヲ横領スルニ因リ成立ス

親族間ノ横領罪ハ被害者ト加害者ノ間ニ親族若ハ家族ノ關係アルトキハ親族相盜ノ例ニ從ヒ或ハ其罪ヲ免除シ或ハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スヘキモノトス

毀棄ノ罪

第四項 毀棄ノ罪

物ノ毀棄トハ物ノ實質ヲ毀損シ或ハ物ノ效用ヲ喪失セシメ以テ物ノ所有權ヲ害スルヲ謂フ物ノ毀損ハ之ヲ有形的ニ爲スヲ得ルノミナラス無形的ニ之ヲ爲スヲ得ヘシ又物ノ實質ハ之ヲ害セサルモ其效用ヲ喪失セシムルニ因テ之ヲ爲スコトヲ得

我刑法ノ認ムル毀棄罪ハ之ヲ分テ(一)一般毀棄罪(二)官公文書毀棄罪(三)權利義務ニ關スル他人ノ文書毀棄罪(四)準毀棄罪(五)建造物、艦船毀棄罪ト爲ス  
官公文書ハ公務所カ其使用ニ供スル爲メ保管スル公務所ニ屬スル文書ヲ謂フ私文書毀棄罪ヲ構成スルニハ其文書カ權利義務ニ關スル他人ノ文書タルコトヲ要ス

建造物、艦船トハ家屋、倉庫其他ノ屋舎若ハ軍艦、蒸汽船其他各種ノ船舶ヲ總稱スルトモ堤防、橋梁、道路、電柱其他ノ工作物ヲ包含セス

自己ノ物ト雖モ差押ヲ受ケ物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シタル物ヲ毀損スルトキハ準毀棄罪ヲ構成スルモノトス

而シテ以上列舉以外ノ物ヲ毀棄スルトキハ一般毀棄罪ヲ構成シ而シテ官公文書、毀棄罪及建造物、艦船ヲ除クノ外ノ毀棄罪ハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スヘキモノトス  
他人ノ信書ヲ隱匿スルノ罪ハ其性質ニ於テ毀棄罪ト同一種類ニ屬スルヲ以テ我刑法ハ之ヲ毀棄罪ト共ニ規定セリ而シテ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スヘキモノトス

第二款 債權ニ對スル罪

第一項 背信罪

背信罪トハ法律又ハ契約ニ因リ他人ノ財産權上ノ利益ヲ保護又ハ増進セシムルノ義務アル者カ此義務ニ違反シ自己又ハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フルノ目的ヲ以テ其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人ノ財産上ニ損害ヲ加フルノ犯罪行爲ヲ謂フ

債權ニ對スル罪  
背信罪

刑法各論

本論 一個人ノ法益ニ對スル罪 財産ニ對スル罪  
財産上ノ法益其モノヲ直接ニ侵害スル罪



故ニ背信罪ノ主體タルヲ得ル者ハ法律又ハ契約ニ依リ他人ノ爲メ其事務ヲ處理  
 スル義務アル者ニ限ル故ニ法律上又ハ契約上何等ノ義務ナクシテ他人ノ爲ニ事  
 務ヲ管理スル者即チ事務管理者(民法七六)ノ如キハ此罪ノ主體タル能ハサルヲ原則ト  
 ス而シテ背信罪ヲ構成スルニハ(一)任務ニ背キタル所爲アルコト(二)財産上ニ損害  
 ヲ加ヘタルコト(三)自己又ハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フルノ目的  
 ヲ有スルコトヲ必要トス

破産罪

第二項 破産罪

破産罪ハ商法第千五十條及明治二十三年法律第百一號ノ規定スル所ナリ破産罪  
 ハ之ヲ分テ第一詐欺破産第二過怠破産第三賄賂ノ授受ノ三ナリトス  
 債務者カ債權者ニ損害ヲ加フルノ意思ヲ以テ貸方財産ノ全部又ハ一部ヲ藏匿シ  
 若ハ轉匿シ又ハ脱漏スルカ如キ或ハ借方財産ヲ過度ニ掲ケ若ハ商業帳簿ヲ藏匿  
 シ若ハ毀滅シ又ハ偽造變造スルカ如キ行爲ハ詐欺破産罪ニシテ債務者カ一身又  
 ハ一家ノ過大ナル費用博奕空取引等ニ因リ其財産ヲ減少スルカ如キハ過怠破産  
 ナリ又債權者集會ニ於ケル議決ニ關シ債務者ト一ニ債權者間ニ賄賂ヲ授受ス

物權、債權以外ノ  
 財產ニ對スル罪  
 信用及業務  
 對スル罪  
 對人ノ名譽  
 及社會ニ於ケル  
 名譽ノ一部ニ  
 屬スルモノニ  
 シテ一定ノ人  
 カ有スル支拂  
 能力及支拂意  
 思ニ對スル名  
 譽ヲ謂フ

ルカ如キハ破産ニ關スル賄賂授受ナリトス而シテ是等ノ罪ハ孰レモ債權者ヲ害  
 スルノ行爲ナラサルハナシ  
 茲ニ注意スヘキハ破産罪ヲ構成スルニハ破産行爲アリタルノ外尙ホ破産宣告ノ  
 言渡ナカルヘカラス確定シタル破産宣告ナキトキハ縱令破産罪ヲ構成スヘキ行  
 爲アルモ之ヲ處罰スル能ハサルモノトス

第三款 物權、債權以外ノ財產權ニ對スル罪

第一項 信用及業務ニ對スル罪

信用ニ對スル罪ノ客體タルヘキ信用ハ人ノ名譽ト相類似ス而シテ人ノ信用トハ  
 人ノ名譽中社會ニ於ケル名譽ノ一部ニ屬スルモノニシテ一定ノ人カ有スル支拂  
 能力及支拂意思ニ對スル名譽ヲ謂フ  
 業務ニ對スル罪ハ分テ二ト爲スコトヲ得其一ハ人ノ業務ニ對スル信用ヲ害シ以  
 テ其業務ノ進行若ハ發展ヲ害スルニ在リ其二ハ業務執行其モノヲ妨害スルニ在  
 リ法律ハ虛偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用キ人ノ信用ヲ毀損シ若ハ其業務ヲ妨  
 害シ又ハ威力ヲ用キ人ノ業務ヲ妨害スルノ行爲ヲ罰ス

刑法各論  
 本論 一個人ノ法益ニ對スル罪 財產ニ對スル罪  
 財產上ノ法益其モノヲ直接ニ侵害スル罪

著作權其他ノ權利ニ對スル罪

此種ノ犯罪ニ屬スルモノハ著作權、特許權、意匠權、實用新案權及商標權ニ對スル罪ナリトス

### 第二項 著作權其他ノ權利ニ對スル罪

#### 第三節 法益ノ保有者ノ意思ニ影響ヲ及ホシ以テ財産上ノ法益ヲ害スル罪

我刑法ノ認ムル此種ノ罪ハ詐欺、恐喝及貪利ノ三罪トス此三罪カ他ノ財産ニ對スル罪ニ對シ特色ヲ成スモノニアリ其一ハ是等ノ罪ニ因リ侵害セラルヘキ法益ハ特ニ物權、債權其他ノ財産上ノ權利若ハ利益ノ一ニ限ルヘキモノニアラスシテ是等財産上ノ利益ハ悉ク此三罪ニ因リ侵害セラルヘキ客體タリ其二ハ是等三罪ハ行爲者カ各財産上ノ法益其モノニ對スル直接ノ侵害ヲ加フルコトナク被害者ノ意思ニ影響ヲ及ホシ被害者ヲシテ財産上ノ利益ナル處分ヲ爲サシムル點ニ在リ

#### 第一款 詐欺罪

詐欺罪トハ不法ニ利益ヲ得ルノ目的ヲ以テ人ヲ欺罔シ之ヲ錯誤ニ陥ラシメ之ニ因リ財産上ノ不利益ナル處分ヲ爲サシムルヲ謂フ

法益ノ保有者ノ意思ニ影響ヲ及ホシ以テ財産上ノ法益ヲ害スル

詐欺罪

此罪ハ之ヲ分テ被欺罔者ノ財産上ノ處分ニ因リ之ニ屬スル財物ノ事實上ノ支配ヲ欺罔者ニ移スノ所爲即チ騙取トスル處分ニ因リ被欺罔者ヲシテ財産上ノ不當ノ利益ヲ得セシムルノ所爲ノ二ト爲スコトヲ得

詐欺罪ノ構成要件ハ左ノ五ナリ

第一 不法ニ利益ヲ得ルノ意思

第二 欺罔行爲

第三 錯誤ノ發生

第四 財産上ノ處分

第五 財産上ノ損害

而シテ第一ハ主觀的ノ要件ニシテ行爲者ニ存スルヲ必要トシ第二乃至第五ハ客觀的ニ存在スルヲ要スル要件ナリ而シテ第一及第二ハ行爲者ノ方面ニ存スルモノニシテ第三、第四及第五ハ被害者ノ方面ニ存在スヘキ要件ナリ之ヲ要スルニ詐欺罪ノ既遂罪ヲ構成スルニハ行爲者ノ方面(第一、第二)ニ於ケル行爲アルヲ以テ足レリト爲サス尙ホ被害者ノ方面ニ於ケル條件(第三乃至第五)アルヲ必要トス

刑法各論

本論 一個人ノ法益ニ對スル罪 財産ニ對スル罪 法益ノ保有者ノ意思ニ影響ヲ及ホシ以テ財産上ノ法益ヲ害スル罪

第二款 恐喝罪

恐喝罪トハ不法ニ利益ヲ得ルノ目的ヲ以テ人ニ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘ以テ其被害者ヲシテ其財産上ノ不利益ナル處分ヲ爲サシムルヲ謂フ

恐喝罪ハ詐欺罪ト同シク行爲者及被害者ノ雙方ニ存スル要件ノ具備スルニ因リ既遂ト爲ル其要件ヲ擧クレハ

第一 行爲者ノ不法ニ利益ヲ得ルノ意思

第二 恐喝行爲(暴行又ハ脅迫)

第三 害ヲ受クルコトアルヘシトノ信用

第四 財産ノ處分

第五 財産上ノ損害

ト爲ス右ノ中第一及第二ハ行爲者ノ方面ニ存在スヘキ要件ニシテ第三、第四及第五ハ被害者ノ方面ニ存在スヘキ要件ナリ

詐欺罪ト恐喝罪トハ相類似シ前記條件中第一、第四、第五ノ如キハ兩罪ニ共通ナル條件ニシテ第二、第三ハ恐喝罪ニ特有ナル條件ナリトス

第三款 貪利罪

未成年者ノ知慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱ヲ利用シ之ヲシテ財産上ノ不利益ナル處分ヲ爲サシメ以テ不當ノ利ヲ圖ルヲ以テ本罪ノ性質ト爲ス若シ夫レ未成年者ノ知慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱ニ乘シ其財物ヲ竊取シタルトキハ竊盜罪ト爲ス又之ヲ欺罔シテ財物ヲ交付セシメ又ハ財産上ノ不當ノ利益ヲ得タル場合ニ於テハ詐欺罪ヲ構成ス又幼者ノ知慮淺薄ニシテ物ニ恐レ易キニ乘シ又心神耗弱ニシテ物ニ恐怖スルノ癖アルニ乘シ之ヲ恐喝シテ財物ヲ騙取シ又ハ不當ノ利益ヲ得タルトキハ純然タル恐喝罪トス

未成年者ノ知慮淺薄トハ未成年者ノ智力ノ不充分又ハ無經驗等ニ因リ行爲ノ結果ヲ考察スルノ力ナキ者又ハ其力ノ不充分ナル者ヲ謂フ全然意思能力ナキ幼兒又ハ心神喪失者ヲシテ財物ヲ交付セシメ又ハ財産上ノ不法ノ利益ヲ得セシムルハ本罪ニアラスシテ寧ロ盜罪ヲ構成ス

第四款 詐欺、恐喝及貪利ノ未遂罪

詐欺罪ハ欺罔ニ著手スルニ因リ其實行ニ著手シタルモノナリ恐喝罪ハ恐喝ニ著

詐欺、恐喝及貪利ノ未遂罪

手シタルトキヲ以テ其實行ニ著手シタルモノナリ右執レノ場合ヲ問ハス被害者  
カ自己ニ不利益ナル財産上ノ處分ヲ爲シ以テ行爲者ニ利益ヲ與フルノ處分ヲ爲  
スヲ以テ既遂ト爲ス而シテ其處分ハ意思表示ヲ以テ足レリトスル場合ニ於テハ  
意思ノ表示アリタルトキヲ以テ既遂ト爲スヘク又給付アルコトヲ必要トスル場  
合ニ於テハ給付アリテ始テ既遂ト爲スヘキモノトス貪利罪ニ在リテハ行爲者ノ  
誘導ニ基ク場合ト被害者ヨリ進ンテ財産上ノ不利益ナル處分ヲ爲サントシタル場  
合トニ因リ之ヲ區別スヘキモノトス而シテ前者ノ場合ニ於テハ誘導ノ行爲ヲ以  
テ著手ト爲シ後者ノ場合ニ於テハ情ヲ知テ實行ニ關與シタルトキヲ以テ著手ト  
爲ス其既遂ハ詐欺、恐喝ノ場合ニ於ケルト異ナルコトナシ

贓物ニ關  
スル罪

#### 第四節 贓物ニ關スル罪

贓物ニ關スル罪トハ財産上ノ法益ヲ害スル犯罪行爲ニ因リ被害者ノ手ヲ離レタ  
ル財物ヲ收受、運搬、寄藏、故買又ハ牙保スルニ因リ被害者ヲシテ贓物ヲ回復スルノ  
權利ノ行使ヲ困難ナラシメ又ハ不能ナラシムルモノナリ  
贓物ニ關スル罪ヲ成立スルニハ他ニ主タル犯罪ノ既遂アルコトヲ要ス若シ主タ

社會ノ法  
益ニ對ス  
ル犯罪  
社會ノ公  
安ニ對ス  
ル犯罪

ル犯罪ノ既遂ナキトキハ財物ハ未タ權利者ノ手ヲ離レサルカ故ニ贓物ナル概念  
ヲ生スルコトナシ然レトモ贓物ニ關スル罪ハ必スシモ主タル犯罪ト其運命ヲ共  
ニスルモノニアラス  
贓物ニ關スル罪ハ之ヲ分テ贓物收受罪及贓物ノ運搬、寄藏、故買又ハ牙保ヲ爲ス罪  
ノ二ト爲ス  
贓物ニ關スル罪ノ客體タルヲ得ヘキモノハ財産上ノ法益ヲ害スル罪ニ因リ領得  
シタル物タルヲ要ス更ニ之ヲ詳言スレハ竊盜、強盜、橫領、詐欺、恐喝、背信、貪利其他財  
産ニ對スル法益ヲ害スル犯罪行爲ニ因リ取得シタル財産ヲ謂フ財産ニ對スル法  
益ヲ侵害スルコトナキ犯罪ニ因テ得タル財物ハ之ヲ贓物ナリト云フヲ得ス  
贓物ニ關スル罪ヲ構成スルニハ贓物タルノ情ヲ知テ收受、運搬、寄藏、故買又ハ牙保  
ヲ爲スノ所爲アルコトヲ必要トス

### 第二編 社會ノ法益ニ對スル罪

#### 第一章 社會ノ公安ニ對スル罪

吾人カ社會ニ生存シ塔ニ安シテ生活シ得ル所以ハ法律ノ認ムル吾人ノ權利カ安

刑法各論

本論 社會ノ法益ニ對スル罪 社會ノ公安ニ對スル罪

全ニ保護セラル、状態ニ在ルカ若ハ少ナクトモ吾人ノ權利カ安全ニ保護セラルヘシトノ感覺ヲ有スルカ爲ナリ前者ハ之ヲ法律的安全ノ状態ト云ヒ後者ハ之ヲ法律的安全ノ感覺ト云フ社會ノ公安トハ不定多數ノ民衆カ法律的安全ノ状態ニ在ルカ又ハ不定多數ノ民衆中ニ法律的安全ノ感覺カ行ハル、ニ因リテ維持セラ  
ル、モノナリ然レハ公安ヲ害ストハ不定多數ノ民衆ニ存スル法律的安全ノ状態  
若ハ法律的安全ノ感覺ヲ打破スルヲ謂フト解スヘキナリ從テ此罪ニ因リ直接害  
セラルヘキ法益ハ不定多數ノ民衆ニ存スル法律的安全ノ状態若ハ法律的安全ノ  
感覺ナリトス

社會ノ公安ハ第一多衆聚合シ其合同力ニ因リ不定多數ノ民衆ニ對スル暴行若ハ脅迫ヲ爲スニ依リ之ヲ害スルコトヲ得ヘク第二秘密結社ヲ組織シ若クハ集會又ハ多衆ノ運動ニ於テ戎器若ハ兇器ヲ携帶スルノ所爲其他治安ノ妨害ト爲ルヘキ所爲ヲ爲スニ依リテ之ヲ危ウスルヲ得ヘク又ハ第三新聞、雜誌其他ノ文書若ハ演說ヲ以テ多數人ニ向テ犯罪ヲ犯スヘキコトヲ煽動スルニ依リ之ヲ害スルヲ得ヘク又第四犯人カ社會一般ニ危險ヲ及ホスヘキ犯罪ヲ爲スヘキ旨ノ脅迫ヲ爲スニ

依リ之ヲ害スルヲ得ヘシ而シテ第一ハ刑法第二編第八章騷擾罪ニ於テ之ヲ規定シ第二及第三ハ特別法ニ依リテ之ヲ規定シ第四ニ至リテハ我法律ニ於テ其規定ヲ闕如セルモノ、如シ今之ヲ表示スレハ左ノ如シ

第一騷擾罪……

(一)正當ノ意義ニ於ケル騷擾罪  
(二)騷擾罪ヲ犯ス爲ニスル聚合ヲ解散セサル罪

社會ノ公安ニ對スル罪

第二治安妨害罪

(一)銃砲、火藥、戎器、兇器等ニ關スル罪  
(二)秘密結社、集會其他言論ニ因リ公安ヲ害スル罪

第三犯罪煽動罪(出版法、新聞紙法、治安警察法等)

騷擾罪ヲ分テ二ト爲ス第一正當ノ意義ニ於ケル騷擾罪及第二騷擾罪ヲ犯ス爲ニスル聚合ヲ解散セサル罪是ナリ

第一 正當ノ意義ニ於ケル騷擾罪

騷擾罪ハ多衆聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲スニ依リ成立スルモノニシテ單獨ナル一個人若ハ僅少ナル人員ニ於テ犯シ得ヘキモノニアラス多數人ニ依リテノ

ミ之ヲ犯シ得ヘキモノトス

騷擾罪ハ故意ヲ要スル犯罪ナレハ多衆聚合シテ爲ス暴行又ハ脅迫ハ故意ニ基クヲ要ス而シテ故意ハ其聚合ノ初ニ於テ存スルヲ必要トセス聚合ノ事實アリタル後故意ヲ具備スルヲ以テ足ル

騷擾罪ノ客體ハ社會ノ民衆ニ存スル法律的安全ノ狀態若ハ法律的安全ノ感覺タルコトハ前述シタルカ如シ而シテ之ヲ攪亂セントスルニハ其自然ノ順序トシテ人若ハ物ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加フルニ依リテ之ヲ遂クルモノナリ故ニ騷擾罪ニ因リ第一ニ侵害ヲ受クルモノハ一個人ノ利益ナリトス

騷擾罪ハ聚合シタル多衆人カ合同力ヲ以テ手段ト爲シ之ニ藉リテ暴行又ハ脅迫ヲ爲スノ行爲ナリ

我刑法ハ騷擾罪ニ付キ特別ノ共犯例ヲ認ム即チ第一ヲ首魁ト爲シ第二ヲ他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ト爲シ第三ヲ附和隨行者ト爲ス而シテ第一ニ對シテハ最モ重キ刑ヲ科シ第二ニ對シテハ稍重キ刑ヲ科シ第三ニ對シテハ最モ輕キ刑ヲ科ス

公共ニ危險ナル罪

第二 騷擾罪ヲ犯ス爲ニスル集合ヲ解散セサル罪

此罪ハ第一多衆人カ合同力ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者カ聚合シタル事實アルコト、第二當該公務員ノ解散命令カ三回以上アルコト、第三解散命令ハ聚合者ニ達シタルコトヲ必要トス

第一章 公共ニ危險ナル罪

之ヲ特定人ノ法益ニ危害ヲ加フル犯罪ナリト言ハンヨリハ寧ロ之ヲ不定多衆人ノ生命、身體、財産ニ危害ヲ加フル犯罪ナリト認ムルヲ相當トス此犯罪ノ一團ハ之ヲ總括シテ公共ニ危險ナル罪ト稱ス

我法律ノ認ムル犯罪中公共ニ危險ナル罪ニ屬スルモノハ第一放火及失火罪第二瓦斯、電氣、蒸氣ノ漏出、流出又ハ遮斷ニ因ル危險ニ關スル罪、第三溢水及水利ニ關スル罪、第四往來ヲ妨害スル罪、第五飲料水ニ關スル罪、第六爆發物ニ關スル罪等ナリ今之ヲ表示スレハ左ノ如シ

第一放火及失火罪

第二瓦斯、電氣、蒸氣ノ漏出、流出又ハ遮斷ニ因ル危

險ニ關スル罪

公共ニ危險ナル罪 第三溢水及水利ニ關スル罪

第四往來妨害罪

第五飲料水ニ關スル罪

第六爆發物ニ關スル罪

放火及失火ノ罪

第一節 放火及失火ノ罪

放火及失火ノ罪ハ之ヲ分テ第一放火第二失火第三鎮火妨害第四準放火及準失火ノ四ト爲スコトヲ得

放火及失火罪ノ規定ニ依リ保護セラル、ハ社會ニ屬スル法益ニシテ一個人ノ法益ニアラス燒燬セラレタル建造物等カ他人ノ所有ニ屬スル場合ノミナラス犯人ノ所有ニ係ル場合ニ於テモ等シク放火若ハ失火罪ナリトシテ之ヲ罰スルハ此罪カ一個人ノ法益タル財産ニ對スル罪ニアラサルコトヲ示スモノナリ又犯人ノ所有ニ係ル建造物ニシテ人ノ住居セス若ハ現在セサルトキハ之ヲ燒燬スルモ罪ト爲ラス斯ノ如キ物ノ燒燬ナル行爲ニ加フルニ更ニ特別ナル條件即チ公共ノ危險

ノ發生アルヲ竣テ始メテ之ヲ放火罪ナリト爲スハ此罪カ社會ノ法益ニ對スル罪ナリト認ムル法文上ノ根據ナリ

第一 放火罪

我刑法ハ放火罪ノ客體ヲ分テ三種ト爲ス即チ人ノ住居シ又ハ現在スル建造物汽車、電車、艦船若ハ鑛坑ハ之ヲ第一種ト爲シ、人ノ住居セス又ハ現在セサル建造物、艦船及鑛坑ハ之ヲ第二種ト爲シ、前述ノ二者ニ屬セサルモノハ之ヲ第三種ト爲ス第一種ノ物ニ對スル放火ハ其物カ犯人ノ所有ニ屬スルト否トニ付キ法律上區別ヲ設ケス第二種ニ屬スル物ノ放火ハ其物カ他人ニ屬スルトキハ之ヲ重ク罰シ犯人ノ所有ニ屬スルトキハ輕ク之ヲ罰シ若シ公共ノ危險ヲ生セサルトキハ之ヲ罰セス第三種ノ物ニ對スル放火ハ公共ノ危險ヲ生シタル場合ニノミ之ヲ放火罪ト爲シ其他人ノ所有ニ屬スル場合ハ重ク罰シ犯人ノ所有ニ屬スル場合ハ輕ク罰ス

放火罪ヲ構成スルニハ放火ノ所爲ヲ以テ足レリト爲サス尙ホ之ヲ以テ燒燬ノ結果ヲ生スルヲ要ス燒燬トハ物ノ燃燒ニ因ル損壞ナリ

刑法各論

本論 社會ノ法益ニ對スル罪 公共ニ危險ナル罪 放火及失火ノ罪

放火罪ヲ構成スルニハ故意アルヲ要ス放火罪ニ付キ故意アリト云フニハ獨リ  
 放火ニ付キ故意ヲ要スルニ止マラス燒燬ニ付テモ尙ホ故意アルヲ要ス  
 燒燬シタル物カ自己ノ所有ニ係ルカ若ハ建造物、汽車、電車、艦船、鑛坑ノ五者ニア  
 ラサルトキハ公共ノ危險ヲ生シタル場合ニ於テノミ之ヲ罰スヘキモノトス公  
 共ノ危險トハ不定多數ノ物ニ對スル延燒ノ危險ヲ生セシムルニ外ナラス而シ  
 テ行爲者ハ必スシモ公共ノ危險ヲ生セシムルノ故意アルヲ必要トセス單ニ燒  
 燬ニ對スル故意アルヲ以テ充分ナリトス

放火罪ハ未遂罪ヲ罰スルニ止マラス尙ホ其豫備罪ヲモ之ヲ罰ス

第二 失火罪

過失ニ基ク物ノ燒燬ハ之ヲ失火ト云フ失火ハ人ノ住居シ又ハ現在スル建造物  
 汽車、電車、艦船若ハ鑛坑又ハ人ノ住居セス又ハ現在セサル建造物、艦船若ハ鑛坑  
 ヲ燒燬シタル場合及行爲者ノ所有ニ屬スル人ノ住居セス又ハ現在セサル建造  
 物、艦船若ハ鑛坑ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生シタル場合ニ限リ之ヲ罰ス  
 放火、失火ト共ニ認ムヘキ一種ノ罪アリ所謂鎮火妨害罪是ナリ行爲者カ物ノ燒燬

ニ對シ積極的原因ヲ與フルニアラスシテ既ニ何等カノ原因ニ因リ火災アリタル  
 際其鎮火ヲ妨害スルノ罪是ナリ

以上ノ外放火及失火ニ準スヘキモノアリ即チ火藥、汽罐其他激發スヘキ物ヲ破裂  
 セシメテ物ヲ損壞スルノ罪是ナリ

第二節 瓦斯、電氣、蒸汽ノ漏出、流出又ハ遮斷ニ

因ル危險ニ關スル罪

我刑法ハ放火及失火ノ罪ノ中瓦斯、電氣、蒸汽ノ漏出若ハ流出又ハ遮斷ニ因リ人ノ  
 生命、身體若ハ財產ニ對スル危險ヲ生セシムルノ罪及此三者ノ漏出、流出又ハ遮斷  
 ニ因ル致死傷ノ罪ヲ規定スト雖モ此罪ハ放火、失火ニ類似スルニ止マリ直ニ此罪  
 ヲ以テ放火若ハ失火ノ罪ナリト云フヲ得ス

第三節 溢水及水利ニ關スル罪

溢水トハ水ノ自然力ヲシテ其勢ヲ恣ニセシムルモノニシテ水ノ橫流又ハ氾濫ニ  
 因ル不定多數人ノ生命、身體、財產ニ對スル危險ヲ生セシムルノ所爲ナリ水利妨害  
 トハ水流ニ沿フ一帶ノ地方ニ於ケル不定多數人ノ水流ノ使用權ヲ害スルノ行爲

瓦斯、電氣、蒸汽ノ漏出、流出又ハ遮斷ニ因ル危險ニ關スル罪

溢水及水利ニ關スル罪

刑法各論 本論 社會ノ法益ニ對スル罪 公共ニ危險ナル罪 瓦斯、電氣、蒸汽ノ漏出、流出又ハ遮斷ニ因ル危險ニ關スル罪 溢水及水利ニ關スル罪 五九



ナリ

本罪ハ之ヲ分テ第一、溢水罪第二、過失溢水罪第三、水利妨害罪第四、水利妨害ト爲リ又ハ溢水セシムヘキ行爲ヲ爲スノ罪ノ四ト爲スコトヲ得

第一 溢水罪

溢水罪ハ最モ能ク放火罪ト相類似ス放火罪ハ火力ニ因ル物ノ燒燬ナレトモ溢水罪ハ水力ニ因ル物ノ浸害ナリ

故意ニ因リ溢水セシメテ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車若ハ鑛坑ヲ浸害シタルトキハ公共ノ危険ヲ生スルト否トヲ問ハス溢水罪ヲ構成ス

以上列記以外ノ物ノ浸害ハ公共ノ危険アリタル場合ニ於テノミ之ヲ罰ス過失ニ因ル溢水罪ハ公共ノ危険ヲ生シタル場合ニ限り之ヲ罰ス

第二 水利妨害罪

故意ニ基ク溢水タルト過失ニ因ル溢水タルト天災若ハ責任ナキ者ノ行爲ニ基ク溢水タルトヲ問ハス苟モ水害アリタル際故意ヲ以テ水防ヲ妨害スルトキハ

水利妨害罪ヲ構成ス

第三 水利妨害ト爲リ又ハ溢水セシムヘキ行爲ヲ爲ス罪

水利妨害ノ行爲ハ必スシモ水利妨害ノ具體的事實アルヲ要セス即チ水利妨害ヲ惹起スヘキ行爲ヲ爲ストキハ此罪ヲ成立ス而シテ水利妨害ノ行爲アルモ違法ナラサル場合ハ罪ト爲ラス又溢水セシムヘキ行爲アリタルトキハ縱令溢水ニ至ラサルモ此罪ヲ構成ス而シテ我刑法ハ溢水罪ノ未遂罪ヲ認メス

往來妨害罪

第四節 往來妨害罪

陸路橋梁ヲ損壞シ又ハ河溝其他水路ヲ壅塞シ以テ公衆ノ通行若ハ船舶ノ通航ヲ妨害スルカ如キ汽車、電車若ハ艦船ニ危険ヲ及ホスカ如キ又ハ人ノ乘リ居ル汽車、電車若ハ艦船ヲ顛覆、覆没若ハ破壊スルカ如キハ往來ヲ妨害スル罪ニ屬ス我刑法ノ規定スル往來妨害罪ハ之ヲ分テ第一、一般ノ往來妨害第二、汽車、電車若ハ艦船ノ往來妨害第三、汽車、電車若ハ艦船ノ顛覆、覆没若ハ破壊第四、往來妨害ニ因ル致死傷第五、往來妨害ノ未遂第六、過失ニ因ル往來妨害ノ六ト爲スヲ得

第一 一般ノ往來妨害

此罪ハ陸路水路又ハ橋梁ヲ損壞又ハ壅塞シテ公衆ノ往來又ハ艦船ノ通航ヲ妨害スルニ依リ成立ス

第二 汽車、電車又ハ艦船ノ往來妨害

汽車、電車若ハ艦船ノ往來ノ危険ヲ生セシムルノ危険ニ對シテハ法律ハ特ニ重刑ヲ以テ之ヲ罰ス此等ハ孰レモ重要ナル交通機關ニシテ其往來ノ安全ノ如キハ特ニ厚ク保護スルノ必要アルカ爲ナリ

第三 汽車、電車若ハ艦船ノ顛覆、覆沒若ハ破壞

此罪ハ更ニ之ヲ分テ故意ヲ以テ人ノ現在スル汽車、電車又ハ艦船ヲ顛覆、覆沒又ハ破壞スルノ罪及汽車、電車又ハ艦船ノ往來ノ危険ヲ生セシムルニ依ル顛覆、覆沒又ハ破壞ノ罪ノ二ト爲ス而シテ兩者ノ異ナル所ヲ擧クレハ前者ハ(一)故意ニ基キ(二)人ノ現在スル汽車、電車又ハ艦船ヲ顛覆、覆沒又ハ破壞スル行爲ヲ規定スルモノニシテ後者ハ汽車、電車、艦船ノ往來ニ危険ヲ生セシムルノ故意ニ因リ又ハ之ヲ顛覆、覆沒、破壞スルノ故意ナクシテ斯ル結果ヲ生シタル場合ニシテ其之ニ人ノ現在スルト否トハ問フ所ニアラス

第四 往來妨害ニ因ル致死傷

往來妨害罪ヲ犯スノ故意アル行爲ニ因リ殺人若ハ傷害ノ故意ナクシテ人傷ニ致シタル場合ニ於テハ往來妨害罪ニ因ル致死傷罪ヲ構成ス

第五 往來妨害ノ未遂及過失ニ因ル往來妨害

往來妨害ハ其未遂罪ヲ罰スルニ止ラス尙ホ過失ニ因ル往來妨害罪ヲモ之ヲ罰ス

飲料水ニ關スル罪

第五節 飲料水ニ關スル罪

飲料水ハ人ノ生活上一日モ缺クヘカラサル必需品ナリ故ニ各人ノ使用スヘキ飲料淨水ハ水道ニ依リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ水源ヲ汚穢シ又ハ之ニ毒物ヲ混入スルカ如キハ公衆ノ生命、身體ニ危険ヲ及ホスモノナリ又公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞又ハ壅塞スルカ如キハ公衆ニ對シ淨水ヲ得ルノ途ヲ杜絶シ以テ不定多衆人ノ不健康ヲ招クノ虞アルモノナリ

我刑法ノ規定スル飲料水ニ關スル罪ハ之ヲ分テ第一、飲料淨水ノ汚穢又ハ之ニ有害物ノ混入第二、水道ニ依リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ノ汚穢又ハ之

ニ有害物ノ混入第三、飲料水ニ關スル罪ヲ犯スニ因ル致死傷第四、公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ノ損壞又ハ壅塞ノ四ナリトス

### 第三章 交通取引ニ於ケル誠實及信用ニ對スル罪

交通取引ニ於ケル誠實及信用ニ對スル罪

吾人カ今日ノ社會ニ於テ圓滿ナル生存ヲ全ウシ得ル所以ハ吾人ハ相互ニ交通取引シ有無相通シ長短相濟フコトヲ得ルカ爲ニ外ナラス而シテ吾人カ安シテ交通取引ヲ爲シ得ル所以ノモノハ交通取引ニ於ケル誠實及信用ナルモノ存スルカ爲ナリ交通取引ニ於ケル誠實ハ義務ナルカ如クニシテ其實交通取引ニ關與スル者ノ利益即チ社會一般ノ利益ナリ交通取引ニ於ケル誠實ナルモノ存在スルトキハ其當然ノ結果トシテ交通取引ニ於ケル信用ナルモノ成立ス此信用アリテ始メテ圓滿ナル交通取引ヲ期待スルヲ得ヘシ  
之ヲ要スルニ交通取引ニ於ケル誠實及信用ヲ保護スル所以ハ即チ交通取引其モノヲ保護スル所以ナリ而シテ交通取引其モノヲ保護スルハ人類社會ノ健全ナル状態ヲ維持スル所以ニシテ吾人ヲシテ圓滿ナル生存ヲ全ウスルヲ得セシムル所以ナリ

我刑法ニ於テハ交通取引ニ於テ最重要ナル物ヲ偽造若ハ變造スルノ行爲又ハ偽造、變造シタル物ヲ行使スルノ行爲ヲ罰シ以テ交通取引ニ於ケル信用ヲ保護ス即チ交通取引ニ於ケル最も重要ナル媒介物タル貨幣、交通取引ニ於ケル媒介若ハ證據タルヘキ文書證券印章ノ偽造、變造又ハ偽造、變造シタル此等ノ物ヲ行使スル行爲ヲ罰シ以テ交通取引ニ於ケル信用ヲ保護ス

我刑法ノ認ムル交通取引ニ於ケル誠實及信用ニ對スル罪ハ之ヲ分テ第一通貨偽造ノ罪、第二印章偽造ノ罪、第三文書偽造ノ罪、第四有價證券偽造ノ罪ト爲ス

#### 第一節 通貨偽造ノ罪

通貨偽造ノ罪

通貨偽造ノ罪ハ之ヲ分テ(一)内國通貨ノ偽造、變造ノ罪(二)偽造、變造ノ内國通貨ノ行使、交付若ハ輸入ノ罪(三)内國ニ流通スル外國通貨ノ偽造、變造又ハ偽造、變造シタル内國ニ流通スル外國通貨ノ行使、交付若ハ輸入ノ罪(四)偽造、變造ノ通貨收得ノ罪(五)通貨ノ偽造、變造又ハ偽造ノ行使、交付若ハ輸入ノ未遂罪(六)收得後偽貨ノ知情行使若ハ知情交付ノ罪(七)通貨ノ偽造、變造準備ノ罪ト爲ス

通貨ニ廣狹ノ二義アリ狹義ニ於ケル通貨トハ金錢トシテ強制通用ノ效力ヲ有ス

刑法各論

本論 社會ノ法益ニ對スル罪 交通取引ニ於ケル誠實及信用ニ對スル罪

六五

ル貨幣、紙幣、銀行券ヲ指稱ス之ニ反シテ廣義ニ於ケル通貨トハ獨リ法律上金錢トシテ強制通用ノ效力アル内國ノ通貨ノミナラス事實上金錢トシテ流通スル外國ノ貨幣、紙幣、銀行券並ニ内國ニ於テ流通セス獨リ外國ニ於テノミ流通スル貨幣、紙幣、銀行券ヲモ包含ス

内國通貨ノ偽造ノ罪

### 第一款 内國通貨ノ偽造、變造ノ罪

内國通用ノ貨幣、紙幣、銀行券ハ之ヲ行使スルノ目的ヲ以テ偽造若ハ變造スルノ行為アルトキハ通貨ノ偽造若ハ變造ノ罪ヲ構成スルモノトス

### 第二款 偽造、變造ノ内國通貨ノ行使、交付若ハ輸入ノ罪

内國通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造若ハ變造スルノ行為カ罪ト爲ルニ止ラス其偽造又ハ變造シタル貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付スル行為又ハ情ヲ知テ眞價トシテ行使スルノ行為、人ヲシテ眞價トシテ行使セシムル爲メ之ニ交付スル行為、人ヲシテ眞價トシテ行使セシムル爲メ之ヲ輸入スルノ行為ハ共ニ罪ト爲ルモノトス

偽造、變造ノ内國通貨ノ行使、交付若ハ輸入ノ罪

### 第三款 内國ニ流通スル外國通貨ノ偽造、變造又ハ偽造若ハ變造シタル内國ニ流通スル外國通貨ノ行使、交付、若ハ輸入ノ罪

通貨偽造罪ノ客體タルヲ得ヘキモノハ獨リ内國通用ノ貨幣、紙幣、銀行券ノミナラス外國ノ貨幣、紙幣、銀行券ヲ偽造、變造スルノ行為及情ヲ知テ斯ル貨幣、紙幣、銀行券ヲ行使、交付若ハ輸入スルノ行為モ亦罪ト爲ルモノトス而シテ刑法ノ罰スル外國通貨ノ偽造罪ハ獨リ内國ニ流通スルモノニ限り内國ニ流通セサル外國ノ通貨ヲ偽造若ハ變造シ又ハ情ヲ知テ之ヲ行使、交付若ハ輸入スルノ行為ハ特別法ヲ以テ之ヲ罰ス而シテ法文ニ所謂内國ニ流通ストハ事實上内國ニ流通スルノ意義ナリ

内國ニ流通スル外國通貨ノ偽造、變造又ハ偽造若ハ變造シタル内國ニ流通スル外國通貨ノ行使、交付、若ハ輸入ノ罪

### 第四款 偽造、變造ノ通貨收得ノ罪

行使ノ目的ヲ以テ偽貨ヲ人ニ交付スルノ行為ヲ罰スルノ必要アルカ如ク行使ノ目的ヲ以テ偽貨ノ交付ヲ受クル行為ヲ罰スルノ必要アリ是レ刑法カ行使ノ目的ヲ以テ偽貨ノ收得ヲ罰スル所以ナリ而シテ偽貨タル以上ハ内國ノ通貨タルト將

偽造、變造ノ通貨收得ノ罪

刑法各論

本論 社會ノ法益ニ對スル罪

交通取引ニ於ケル誠實及信用ニ對スル罪

六七

收得後偽貨ノ知情行使者ハ知情交付

通貨ノ偽造準備ノ罪

印章偽造ノ罪  
印章偽造ノ觀念

外國ノ通貨タルトハ之ヲ問ハサルモノト解スヘキナリ

### 第五款 收得後偽貨ノ知情行使者ハ知情交付

收得ノ當時ハ偽貨タルヲ知ラス善意ニ收得シタル者カ其後偽貨タルヲ覺知シ之ヲ眞貨ナリトシテ行使スルノ行爲及行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付スルトキハ此罪ヲ構成スルモノトス

### 第六款 通貨ノ偽造、變造準備ノ罪

刑法ニ於テハ犯罪ノ豫備ノ所爲ハ之ヲ罰セサルヲ原則トス然レトモ通貨ノ偽造變造ノ如キ重大ナル犯罪ニ關シテハ其豫備ノ所爲ヲモ之ヲ罰ス然レトモ刑法ハ其法文ニ貨幣、紙幣又ハ銀行券ノ偽造又ハ變造ノ用ニ供スル目的ヲ以テ器械又ハ原料ヲ準備シタル者ト規定スルカ故一切ノ豫備ノ所爲ハ此罪ヲ構成スルモノニアラス唯其偽造、變造ノ用ニ供スル器械又ハ原料ヲ準備スル行爲ヲ罰スルニ止ル

### 第二節 印章偽造ノ罪

#### 第一款 印章偽造罪ノ觀念

吾人ノ交通取引ハ相互ニ意思ヲ表示スルニ依リテ行ハル意思表示ハ或ハ之ヲ口頭ヲ以テ爲シ或ハ之ヲ書類ヲ以テ爲ス而シテ口頭ヲ以テ爲ス意思表示ハ直ニ消滅シテ其證據ヲ失フコト少シトセザレハ少シク正確ヲ貴フ事項若ハ後日ノ證據ヲ必要トスル事項ニ至リテハ之ヲ書類ヲ以テ明確ニスル必要アリ而シテ書類ハ之ヲ作製シタル者若ハ之ヲ承認シタル者ノ誰ナルヤカ明ナルニ依リ證據力ヲ有スルモノトス而シテ若シ書類ニ作製者若ハ承認者ノ印章又ハ署名ノ存スルトキハ之ニ因リテ證據力ヲ生シ又ハ其證據力ヲ増大セシムヘキナリ  
我國ニ於テハ印章ハ特ニ重大視セラレ書類ニ印章ナキトキハ草案ノ如ク看做サル、ノ傾アリ故ニ印章偽造ノ罪ヲ特ニ重罰シ以テ交通取引ノ安全ヲ保護スルノ必要アリ我國ト歐米各國トノ交通取引益頻繁ト爲ルヤ歐米各國ニ於ケル署名ヲ以テ書類ノ作製又ハ承認ノ證據ト爲スノ慣習モ之ヲ採用セサルヘカラサルニ至レリ

之ヲ要スルニ印章又ハ署名ノ偽造ヲ罰スルハ交通取引ノ至要ナル媒介物タル印章又ハ署名ノ信用ヲ保護シ以テ交通取引ニ於ケル誠實及信用ヲ保護スルカ爲ナ

刑法各論

本論 社會ノ公益ニ對スル罪  
印章偽造ノ罪

交通取引ニ於ケル誠實及信用ニ對スル罪

六九

印章及署名ノ二者ハ此罪ノ客體ナリ

印章ハ之ヲ分テ御璽、國璽、公務所ノ印章、公務員ノ印章、公務所ノ記號及私人ノ印章ノ六ト爲ス而シテ印章トハ眞確ヲ證明スヘキ影蹟ノ原體即チ印願ノミナラス眞確ヲ證明スヘキ影蹟即チ印影ヲモ併セ稱スルモノトス

署名トハ人格者ノ名稱ノ記載ナリ

此罪ヲ構成スヘキ所爲ハ第一、印章又ハ署名ノ偽造第二、偽造ノ印章又ハ署名ノ使用第三、眞正ナル印章又ハ署名ノ不正使用ノ三ト爲スコトヲ得而シテ印章又ハ署名ヲ偽造シ之ヲ使用スルノ行爲ハ手段タル犯罪ト結果タル犯罪ノ存スルモノトス故ニ第五十四條ヲ適用スヘキモノトス

### 第二款 御璽、國璽、御名偽造ノ罪

御璽トハ天皇ノ御印章ニシテ國璽トハ日本帝國ノ印章ナリ御名トハ御署名ナリ御璽ハ詔書、勅書、法令公布ニ關スル上諭、國際條約發表ニ關スル上諭、親任官及勅任官ノ爵記、四位以上ノ位記等ノ公事ニ使用セラル、外天皇ノ御私事ニ使用セラル

御璽、國璽、御名偽造ノ罪

ヘキモノヲ謂フ國璽ハ對外關係若ハ外國人ニ關係スルコトアルヘキ事項ニ關シ日本帝國ヲ表示スル印章トシテ使用セラル、モノナリ御名ハ詔書、勅書、法令公布ニ關スル上諭、國際條約發表ニ關スル上諭、國書其他外交上ノ親書、條約批准書、全權委任狀、外國派遣官委任狀、名譽領事委任狀、親任官ノ官記、爵記、一位ノ位記、勳三等功五級以上ノ勳記等ニ署セラルヘキモノナリ

此罪ハ之ヲ分テ(一)御璽、國璽、御名ノ偽造(二)偽造シタル御璽、國璽、御名ノ使用(三)御璽、國璽、御名ノ不正使用ノ三ト爲スコトヲ得

### 第三款 公務所又ハ公務員ノ印章又ハ署名

#### 偽造ノ罪

公務所ノ印章トハ公務所カ其事務實行ニ付キ使用スル印章ナリ公務員ノ印章トハ公務員カ公務實行ノ爲メ使用スル職印ヲ謂フ  
公務所又ハ公務員ノ署名トハ公務所ノ名稱ノ記載若ハ公務員ノ職名及氏名ノ記載ナリ

此罪ハ之ヲ分テ一、公務所又ハ公務員ノ印章又ハ署名ノ偽造二、偽造シタル公務所

公務所又ハ公務員ノ印章又ハ署名ノ偽造ノ罪

刑法各論

本論 社會ノ法益ニ對スル罪

印章偽造ノ罪 交通取引ニ於ケル誠實及信用ニ對スル罪

七一

公務所ノ  
記號偽造  
ノ罪

又ハ公務員ノ印章又ハ署名ノ使用(三)公務所又ハ公務員ノ印章又ハ署名ノ不正使  
用ノ三ト爲スコトヲ得

### 第四款 公務所ノ記號偽造ノ罪

之ヲ廣義ニ解スレハ公務所ノ記號モ亦公務所ノ印章ニ屬スヘキコトハ前述セリ  
而シテ公務所ノ印章ト記號トハ其形態ニ依リ區別スヘキモノニアラス公務所ノ  
一定ノ印章ニシテ書類ニ押捺シテ證明ノ用ニ供セラル、モノナルニ於テハ之ヲ  
公務所ノ印章ナリト云フヲ得ヘク若シ公務所ノ一定ノ印章ニシテ専ラ産物商品  
書籍什物等ニ使用セラル、モノナルニ於テハ之ヲ記號ト解スヘキナリ  
此罪ハ(一)公務所ノ記號ヲ偽造スルノ罪(二)真正ナラサル公務所ノ記號ヲ使用スル  
ノ罪(三)真正ナル公務所ノ記號ヲ不正ニ使用スルノ罪ノ三ト爲スコトヲ得

### 第五款 私印、私署偽造ノ罪

私人ノ印章トハ自然人ノ印章及法人ノ印章ヲ總稱ス苟モ證明ノ用ニ供セラル、  
私人ノ印章タル以上ハ總テ私印偽造罪ノ客體タルヲ得故ニ公務所ニ届出テタル  
印章ハ勿論認印、仕切判等ノ如キ證明ノ爲メ押捺スヘキ印章ハ總テ法文ニ所謂他

私印私署  
偽造ノ罪

人ノ印章ナリト解スルヲ相當トス

私人ノ署名トハ自然人若ハ法人ノ名稱ノ記載ナリ

此罪ハ之ヲ分テ(一)私人ノ印章又ハ署名ノ偽造(二)偽造ノ私人ノ印章又ハ署名ノ使  
用(三)私人ノ真正ナル印章又ハ署名ノ不正使用ノ三ト爲スコトヲ得

### 第三節 文書偽造罪

#### 第一款 文書偽造罪ノ觀念

吾人ノ交通取引ニ關シ文書ニ依ル意思表示カ重大ナル任務ヲ有シ少ナクトモ確  
實ヲ貴ヒ又後日ノ證據ヲ保全スルコトヲ必要トスル事項ニ付テハ其公事ニ關ス  
ルト私事ニ關スルトヲ問ハス必ス書面ヲ以テ意思表示ヲ爲スヲ常トスルニ至レ  
ル所以ノ一理由ハ文書ニ對スル一般ノ信認存スルカ爲ナリ即チ文書ハ真物ニシ  
テ偽造ニアラストノ信認存スルハ文書カ吾人ノ交通取引ニ於テ重大ナル任務ヲ  
有スル一大理由ナリトス

文書偽造罪ハ交通取引ニ於ケル信用ヲ害スルノ罪ナリ

文書偽造罪ノ客體ハ(一)證書其他天皇ノ文書(二)公務所又ハ公務員ノ文書(三)私人ノ

文書偽造  
罪ノ觀念

刑法各論

本論 社會ノ法益ニ對スル罪 交通取引ニ於ケル誠實及信用ニ對スル罪

文書(四)醫師ノ文書ノ四ナリトス

文書ニ付キ注意スヘキ點ヲ舉クレハ左ノ事項ナリ

文書トハ人ノ意思表示ヲ保有スル物ヲ謂フ學理上ヨリスレハ文書ノ意義中ニハ  
法文ノ所謂文書及圖畫ノ兩者ヲ包含ス

文書ハ意思表示ヲ保有スル物タルヲ要スルヲ以テ其意思ヲ表示シタル本人即チ  
作成名義者アルヲ要スルハ勿論ナリト雖モ其名義者タル必スシモ書面上ニ表ハ  
レ居ルヲ要セス

文書ハ記號ヲ以テ記載スルモ猶ホ文書ナリト云フヲ妨ケス

文書ハ必スシモ法律上ノ事項ヲ包含スルモノタルヲ要セサレトモ法律上ノ事項  
ニ影響ヲ生スヘキ内容ヲ包含スルモノナラサルヘカラス

略式文書モ亦文書ナリト云フヲ得ヘク又文書ハ永久ニ存在スルモノナルコトヲ  
必要トセス又謄寫物若ハ草案モ文書ナリト云フヲ得ヘシ

文書偽造罪ノ所爲ハ之ヲ分テ(一)文書ノ偽造(二)文書ノ變造(三)文書ノ偽作(四)偽造、變  
造又ハ偽作ニ係ル文書ノ行使ノ四ト爲スコトヲ得

一 文書ヲ偽造ストハ一定ノ人カ元來文書ヲ以テ意思表示ヲ爲シタルコトナキ

ニ拘ラス外觀上恰モ之ヲ爲シタルカ如ク其人ノ意思表示ヲ保有スル文書ヲ作  
成スルヲ謂フ故ニ文書偽造ハ常ニ文書ニ於ケル作成名義者ノ人格ヲ偽ルモノ  
トス

二 文書ノ變造トハ真正ナル文書ニ對シ其文書ノ性質ヲ變更セサル範圍内ニ於  
テ其内容ニ變更ヲ加フルヲ謂フ文書ノ内容ヲ變更スル手段ノ如何ハ固ヨリ問  
フ所ニアラスト雖モ要スルニ之ニ依リ既存ノ文書ノ性質ヲ變更セサル程度ニ  
在ルヲ必要トス既存ノ文書ニ變更ヲ加フルノ結果別性質ノ文書タルニ至ルト  
キハ是レ既存ノ文書ヲ材料トシテ更ニ新ナル文書ヲ偽造スルモノト解スヘキ  
ナリ

茲ニ注意ヲ要スルハ既存ノ文書中作製者ノ名義ヲ變更スルカ如キハ常ニ文書  
偽造ニシテ變造ニアラサル一事是ナリ

三 文書ノ偽作トハ真正ナル事實ト異ナレル内容ヲ包含スル文書ヲ作成スルヲ  
謂フ作製名義者ニ於テ其文書面ニ包含スルカ如キ意思ヲ眞ニ表示スルモノナ



ルカ故ニ其作製名義ニ於テ何等ノ虚偽アルコトナシ故ニ其文書ノ内容ハ虚偽ナルニ拘ラス其文書ノ成立ハ真正ナリ我法文ニ於テ虚偽ノ内容ヲ有スル文書ノ作製ヲ稱シテ或ハ虚偽ノ文書ヲ作ルト云ヒ或ハ虚偽ノ記載ヲ爲スト云ヒ或ハ虚偽ノ記入ヲ爲スト云フヘキコト及斯ノ如ク内容ノ虚偽ナル文書ヲ作製スル所爲ハ之ヲ偽作ト稱スヘキモノトス而シテ法律ハ行使ノ目的ヲ以テ文書ヲ偽造スル所爲ハ常ニ之ヲ罰シ文書ノ偽作ハ法律ニ特別ノ明文アル場合ニ限り之ヲ罰ス

四 文書ノ行使トハ偽造、變造又ハ偽作ニ係ル文書ヲ以テ人ヲ欺罔シ或所爲ヲ爲サシムル目的ヲ以テ之ヲ使用スルヲ謂フ故ニ行使ハ斯ル目的ヲ以テ欺罔セラヘキ人ヲシテ文書ノ内容ヲ知ルヲ得セシムル行爲ヲ爲スニ依リ完成ス既ニ欺罔セラレヘキ人ヲシテ偽書ヲ知ルヲ得セシムル以上ハ之ニ依リ偽書ハ既ニ欺罔ノ用ニ供セラレタルモノト云フヘシ既ニ欺罔セラレヘキ人ヲシテ偽書ヲ知ルヲ得セシメタル以上ハ之ヲ提示セラレタル者ニシテ之ニ因リ欺罔セラレルト否トハ問フ所ニアラス又其之ヲ知ルノ方法ハ本人カ直接ニ之ヲ閱覽スル

ニ依ルト又ハ第三者ヲシテ朗讀若ハ説明セシメテ之ヲ知ルヲ得ルト又ハ其他ノ方法ニ依リ之ヲ知ルヲ得ルトハ問フ所ニアラス

### 第二款 詔書其他天皇ノ文書偽造ノ罪

本罪ハ文書偽造罪中最モ重キ罪ニシテ詔書其他天皇ノ文書ヲ偽造若ハ變造シ又ハ偽造、變造ニ係ル文書ヲ行使スルノ行爲アルニ依リ成立ス(一五、四、一、五)詔書其他天皇ノ文書ヲ偽造スルノ罪ハ御璽、國璽若ハ御名ノ不正使用ニ依ル文書ノ偽造ナリ

本罪ノ客體タルヘキモノハ御璽、國璽又ハ御名アル文書ニ限ル  
本罪ハ偽造シタル御璽、國璽若ハ御名ノ使用ニ依ル文書ノ偽造又ハ御璽、國璽若ハ御名アル詔書其他ノ文書ノ變造若ハ偽造、變造ニ係ル詔書其他ノ文書ノ行使ノ一アルニ依リ成立ス

### 第三款 公文書偽造ノ罪

本罪ハ公務所又ハ公務員ノ作ルヘキ文書ヲ偽造若ハ變造シ又ハ偽造若ハ變造ニ係ル公文書ヲ行使スルノ行爲アルニ依リ成立ス(一五、五、第一、項、一、五、八)

詔書其他  
天皇ノ文書  
偽造ノ罪

公文書偽  
造ノ罪

刑法各論

本論 社會ノ法益ニ對スル罪

文書偽造罪 交通取引ニ於ケル誠實及信用ニ對スル罪

七七

本罪ハ其客體タル公文書ニ公務所又ハ公務員ノ印章若ハ署名アルト否トニ依リ其刑ノ輕重ヲ區別セラル、モノニシテ其印章若ハ署名ナキ公文書ノ偽造、變造若ハ行使ハ印章又ハ署名アル公文書ノ偽造、變造若ハ行使ニ比シ其刑著シク輕シ(五項)

本罪ノ客體ニ付テ左ノ點ニ注意スヘシ

第一 公務員カ私法上ノ關係ニ於テ作製シタル文書ト雖モ苟モ公務員ノ職務上作製スヘキ文書アルトキハ總テ公文書ナリト云フコトヲ得ヘシ

第二 公務員ノ與書シタル文書ハ公務所又ハ公務員ノ與書ト牽連スル範圍内ニ於テ公文書ナリ電報送達紙モ公務員タル電報係員ノ作製シタル場合ニ係ルトキハ之ヲ公文書ナリト解スヘキナリ

### 第四款 公務員其職務ヲ濫用シ公文書ヲ作製シ又ハ之ヲ變造スル罪

本罪ハ公務員カ其職務ヲ濫用シ公文書ヲ作製シ又ハ之ヲ變造スル行爲アルカ又ハ斯ル作製又ハ變造ニ係ル文書ヲ行使スル行爲アルニ依リテ成立スルモノトス

公務員其職務ヲ濫用シ公文書ヲ作製シ又ハ之ヲ變造スル罪

公務員其職務ヲ濫用シ公文書ヲ作製シ又ハ之ヲ變造スル罪

公務員カ其職務ヲ濫用シ文書ヲ作製シ若ハ變造ストハ公務員カ其職務上有スル特定ノ權限ヲ濫用シ文書ヲ作製シ又ハ之ヲ偽造スルノ義ニ外ナラスシテ其所爲ハ第百五十六條ニ依リ罰スヘキ場合ト第百五十五條ニ依リ罰スヘキ場合ノ二アリ

### 第五款 公務員ヲシテ公文書ニ不實ノ記載ヲ爲サシムル罪

本罪ハ公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ以テ公文書ニ虛偽ノ記載ヲ爲サシムルニ依リ構成スルモノニシテ其公文書カ權利義務ニ關スル公正證書ノ原本ナルト又免狀、鑑札若ハ旅券ナルトニ依リ其罪ニ輕重ノ差アリ(一五七)

### 第六款 私文書偽造罪

本罪ハ權利義務又ハ事實證明ニ關スル私人ノ文書ヲ偽造、變造シ又ハ偽造、變造ニ係ル文書ヲ行使スル行爲アルニ依リ成立ス(一五九)此罪モ亦其偽造若ハ變造セラル、文書、印章、署名アルヤ否ヤニ依リ其罪ニ輕重ノ差アリ(一五九)

私文書偽造罪

刑法各論 本論 社會ノ法益ニ對スル罪 交通取引ニ於ケル誠實及信用ニ對スル罪 七九

診斷書、檢案書又ハ死亡證書ヲ偽作スル罪

第七款 診斷書、檢案書又ハ死亡證書ヲ偽作スル罪

本罪ハ醫師カ公務所ニ提出スヘキ診斷書、檢案書又ハ死亡證書ヲ偽作スルノ行爲アルカ又ハ何人ヲ問ハス僞作ニ係ル斯ル文書ヲ行使スル行爲アルニ依リ成立スルモノトス(二六〇)

有價證券偽造ノ罪

第四節 有價證券偽造ノ罪

有價證券モ亦一種ノ文書ニ外ナラスト雖モ近時交通範圍ノ擴大ト取引ノ頻繁ト爲ルニ從ヒ社會ノ交通ニ必要ナル媒介物トシテ有價證券ノ地位大ニ進ミ貨幣ト殆ント同一ノ地位ヲ占メントスルニ至レリ此罪ハ有價證券ヲ偽造シ又ハ變造若ハ虛偽ノ記載アル有價證券ヲ行使、交付、輸入スルノ行爲ノ一アルヲ以テ成立ス(二六三)

風俗ニ對スル罪

第四章 風俗ニ對スル罪

習俗ノ良否ハ公益ニ至大ナル關係ヲ有スルモノニシテ外ニ對シ一般民衆ノ品性ヲ表彰スルモノナリ而シテ内ニ對シテハ公ノ秩序ニ至大ノ關係アリ犯罪行爲ノ

猥褻、姦淫及重婚ノ罪

第一節 猥褻、姦淫及重婚ノ罪

最大多數ハ道義ノ準則ニ反スルモノニシテ直接又ハ間接ニ社會ノ風俗ニ反スルモノナリ而シテ社會ノ風俗ニ對スル罪ハ一個人又ハ國家ノ法益ニ對スル罪ニアラスシテ社會ノ法益ニ對スルノ罪ナリ換言スレハ社會ノ法益タル良風美俗ニ背反シ又ハ之ニ危險ヲ與フルノ罪ハ社會ノ風俗ニ反スル罪ナリトス我刑法規定ノ罪ノ内社會ノ風俗ニ對スル罪ト認ムヘキモノハ第一猥褻、姦淫及重婚ノ罪、第二賭博及富籤、第三禮拜所及墳墓、第四阿片煙ニ關スル罪ノ四トス

猥褻、姦淫ニ關スル罪

第一款 猥褻、姦淫ニ關スル罪

刑法第二十二章ニ定ムル猥褻、姦淫及重婚ノ罪ノ各法條ニ列記スル各罪ハ悉ク社會ノ風俗ニ對スル罪ト云フヘカラス特ニ性交ノ自由ノ如キハ之ヲ風俗ニ對スル罪ト云フ能ハス而シテ風俗ニ對スル罪ト稱スルヲ得ヘキハ第一猥褻、姦淫ニ關スル罪、第二婚姻關係ヲ害スル罪ノ二ナリトス

猥褻、姦淫ニ關スル罪ニシテ我刑法ノ規定スルモノ三種アリ其一ハ公然猥褻ノ行爲ヲ爲スノ所爲、第二ハ猥褻ノ文書、圖畫其他ノ物ヲ頒布若ハ販賣シ又ハ販賣ノ目

刑法各論 本論 社會ノ法益ニ對スル罪 風俗ニ對スル罪 猥褻、姦淫及重婚ノ罪 八一

的ヲ以テ之ヲ所持シ又ハ公然陳列スルノ所爲第三ハ營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ヲシテ姦淫セシムルノ所爲ノ三ト爲ス尙ホ此外自然ニ反スル淫行及亂倫ノ行爲ノ如キ猥褻ニ關スル所爲ヲ想像シ能ハサルニアラスト雖モ我刑法ハ之ヲ罰セス

婚姻關係ヲ害スル

### 第二款 婚姻關係ヲ害スル罪

婚姻アリテ夫婦タル關係ヲ生シ從テ親子兄弟姊妹其他親族關係ヲ生スルモノナリ故ニ婚姻關係ハ吾人ノ社會秩序ノ基礎ヲ爲スモノナリ婚姻關係ヲ正整ニ保護スルハ社會一般ノ利益トスル所ナリ婚姻關係ニ付キ利益ヲ有スル者ハ其當事者ノミナラス一般社會ナリトス此罪ハ一面社會ノ法益ヲ害シ他ノ一面ニ於テ一個人ノ法益ヲ害スル罪ナリトス此罪ヲ分チテ第一姦通罪第二重婚罪ノ二トス姦通罪トハ婚姻關係ヲ害スルノ罪ナリ故ニ此罪ヲ成立スルニハ婚姻關係アルコトヲ要ス即チ此罪ノ主體ハ有夫ノ婦女及之ト通スル男子ナリトス姦通行爲ハ有夫ノ婦ト他ノ男子トノ性交ナリ此罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スヘキモノトス而シテ本夫カ告訴權ヲ有スルハ本夫カ姦通ヲ縱容セサル場合ニ限ル重婚罪モ

賭博及富籤ニ關スル罪

### 第二節 賭博及富籤ニ關スル罪

亦婚姻關係ヲ害スルノ罪ナリ此罪ト姦通罪ト類似スル所ハ既存ノ婚姻關係ヲ害スルコト及婚姻關係ヲ害セラレタル者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スル點ニシテ其異なる所ハ本罪ノ主體ハ獨リ有夫ノ婦ノミナラス有婦ノ夫ナリトス此罪ハ第二ノ婚姻ヲ爲シタルトキハ縱令其當事者間ニ性交ヲ爲サルモ尙ホ之ヲ完成スル點ニアリ

賭博ニ關スル罪

### 第一款 賭博ニ關スル罪

刑法各論 本論 社會ノ法益ニ對スル罪 風俗ニ對スル罪 賭博及富籤ニ關スル罪 八三

賭博及富籤ヲ以テ爲ス行爲自體ハ敢テ社會ノ風紀ヲ害スル行爲ナリト云フ能ハサルモ社會ノ良風美俗ヲ害スルノ結果ヲ生スルノ虞アル行爲ナレハ結局社會ノ風俗ヲ害スル罪ナリト云フヘシ我刑法ニ規定スル賭博及富籤ニ對スル罪ハ之ヲ分チテ第一賭博ニ關スル罪第二富籤ニ關スル罪ノ二ト爲ス賭博ニ關スル罪ハ更ニ分チテ單純賭博罪常習賭博罪賭博開帳博徒結合罪ノ三ト爲スヲ得富籤ニ關スル罪ハ更ニ之ヲ分チテ富籤發賣富籤發賣ノ取次ヲ爲シ及富籤授受ヲ爲ス罪ノ三ト爲ス

賭博トハ偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ賭スル行爲ニシテ常習トシテ之ヲ爲スコトニ因リテ其罪ニ輕重ノ差アリ又利ヲ計ル目的ヲ以テ賭博場ヲ開帳シ又ハ博徒ヲ結合スルノ所爲ニ對シテハ更ニ重刑ヲ科ス

富籤ニ關スル罪

### 第二款 富籤ニ關スル罪

富籤トハ賭博ノ一種ナリ富籤ニハ富籤ノ發賣者ト購買者トノ二者アリ富籤ノ發賣者トハ一定ノ富籤ヲ發賣シ其買收金額内ニ於テ一定ノ富籤者ハ一定ノ金額ヲ得ヘク不當籤者ハ其購賣金ヲ損失スヘキ計畫ヲ立テ富籤ヲ發賣スル者ヲ謂フ富籤購買者トハ當籤シタルトキハ一定ノ金額ヲ得ヘク然ラサルトキハ其支拂ヒタル金額ヲ失フヘキ約束ヲ以テ富籤ヲ購買スル者ヲ謂フ富籤カ普通ノ賭博ト異ナル所ハ賭博ニ於テハ賭博ニ干與スル者ハ何レモ偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ賭スル者ナレトモ富籤ノ場合ニ於テハ富籤發賣者ニ於テ財物ヲ賭スルコトナク從テ如何ナル場合ト雖モ財物ヲ損失スルノ危險ヲ負擔スルコトナク其財物ヲ賭スルハ富籤ノ購買者ニ限ルノ一事ニ在リ

禮拜所及墳墓ニ對スル罪

### 第三節 禮拜所及墳墓ニ對スル罪

世ニ信教ナルモノアリテ各人ノ信スル所相同シカラズ而シテ各人ハ其信スル所ヲ相尊敬シ決シテ他人ノ信教上ノ感覺ヲ害スルコトナカラシムルハ社會一般ノ利益ナリ法律カ信教ニ關スル利益ヲ保護スル規定ヲ設クルハ信教其モノヲ保護スルヲ以テ目的トスルモノナリト解センヨリハ寧ロ社會ノ風俗ヲ保護センカ爲ニ之ヲ保護スルモノナリト解スルヲ正當トス我刑法ハ禮拜所及墳墓ニ關スル罪ヲ規定シ之ニ依リテ保護セントスル利益ハ信教ニ關スル社會ノ良風美俗ニ在リト解スルヲ相當トス禮拜所及墳墓ニ關スル罪ハ之ヲ分チテ一、禮拜所ニ對シ不敬ノ行爲ヲ爲スノ罪二、說教、禮拜又ハ葬式ヲ妨害スル罪三、墳墓發掘ノ罪四、死體、遺骨遺髮等ヲ損壞、遺棄又ハ領得スル罪五、檢視ヲ經スシテ變死者ヲ葬ムルノ罪ノ五ト爲スコトヲ得

阿片煙ニ關スル罪

### 第四節 阿片煙ニ關スル罪

法律カ阿片煙ニ關スル罪ヲ規定シ其禁止セント欲スル所爲ハ阿片煙ヲ吸食スルノ行爲ニ在リ法律ハ此禁止ヲ確實ニセンカ爲メ尙ホ阿片煙若ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ輸入、製造、販賣スルノ行爲及ヒ阿片煙吸食ノ爲メ房屋ヲ給與スル行爲及阿片

刑法各論

本論 社會ノ利益ニ對スル罪 阿片煙ニ關スル罪

風俗ニ對スル罪 禮拜所及墳墓ニ對スル罪

八五

煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ所持スル行爲ヲ禁止セリ  
 阿片煙ハ阿片ト同シカラス阿片ハ一種ノ劇藥ニシテ醫療ニ使用スヘキ藥劑ナリ  
 阿片煙ハ之ニ反シ醫療ニ使用スヘキ藥劑ニアラスシテ普通人カ快感ヲ貪ランカ  
 爲メ使用スヘキ一種ノ消費物ナリ此兩者ノ區別ハ決シテ輕々ニ付スヘカラス阿  
 片製造ハ政府ノ許可ヲ要スルモ醫師、藥劑師、藥種商間ニ於テ成規ノ手續ニ從ヒ之  
 ヲ賣買スルコトヲ得又何人モ之ヲ所持スルコトヲ得然ルニ阿片煙ノ製造所持ノ  
 如キハ法律ノ嚴禁スル所ニシテ獨リ普通人カ之ヲ所持スルコトヲ禁セラル、ノ  
 ミナラス醫師、藥劑師、藥種商ト雖モ之ヲ所持スルトキハ阿片煙ニ關スル罪ヲ構成  
 ス

第三編 國家ノ法益ニ對スル罪

國家ハ之ヲ組成スル國民ト雖レテ獨立ナル存在ヲ有スルモノナリ從テ國家ハ之  
 ヲ組成スル個々ノ國民若ハ個々ノ國民ノ多數即チ社會カ有スル法益ト全然相同  
 シカラサル法益ヲ有ス是レ個々ノ特定人即チ一個人若ハ多數ノ不特定人即チ社  
 會ノ法益ニ對スル罪ノ外ニ國家ノ法益ニ對スル罪ノ存在スル所以ナリ而シテ國

國家ノ法  
 益ニ對ス  
 ル罪

家ハ政治上ノ機關即チ公法人タル資格ヲ有スルモノナレハ此關係ニ於テ國法学  
 及國際法上ノ主體タルモノナリ又國家ハ他ノ一面ニ於テ私法上ノ權利ヲ有シ又  
 義務ヲ負フコトヲ得ルモノナレハ此關係ニ於テ私法上ノ主體タルモノナリ私法  
 上ノ主體トシテ國家ノ有スル法益ハ一個人ノ有スル法益ト相均シ之ニ反シテ公  
 法上ノ關係ニ於テ國家ノ有スル法益ハ國法学及國際法上ノ主體トシテ有スル國  
 家ノ法益ナリ

國家ノ觀念ト相分離スヘカラサルモノハ主權者、領域及憲法ノ三者ナリ此三者ニ  
 對スル犯罪ハ國家ノ存立ヲ害スルノ罪ナリ國家ハ國際法上ノ主體トシテ各國ト  
 和親交通ノ關係ヲ有スルヲ以テ國交ニ關スル法益ナルモノヲ有ス是レ國交ニ關  
 スル罪ノ規定アル所以ナリ國家ノ意思ハ國家ノ機關タル公務員ニ依テ行ハル公  
 務員ヲシテ嚴肅ナル規律ニ服セシムルニアラサレハ公務ノ威信ハ之ヲ繫クニ足  
 ラス是レ瀆職ノ罪ノ規定アル所以ナリ又國家ノ公務執行ヲ妨害スルノ行爲ハ之  
 ヲ禁スルニアラサレハ國家ノ意思ノ發動ヲ圓滿ナラシムル能ハス是レ國權ニ對  
 スル罪ノ規定アル所以ナリ又國家ノ意思ヲ充分ニ發動セシメント欲セハ國家ノ

動作ニ妨害ヲ爲スコトヲ禁シ又ハ斯ル動作ヲ爲スニ必要ナル行爲ヲ命スルノ必要アリ是レ立法及行政ニ對スル罪ノ規定アル所以ナリ  
左レハ國家ノ法益ニ對スル罪ハ之ヲ分テ左表ノ如クスルコトヲ得

國家ノ存立ニ對スル罪

國家ノ法益ニ對スル罪

- 第一 國家ノ存立ニ對スル罪
- 第二 國交ニ關スル罪
- 第三 瀆職ノ罪
- 第四 國權ニ對スル罪
- 第五 立法及行政ニ對スル罪

第一章 國家ノ存立ニ對スル罪

主權者、領域及憲法ノ中其一ニ危害ヲ加フルノ罪ハ孰レモ國家ノ存立ヲ害スル罪ナルコト既ニ之ヲ述ヘタリ而シテ國家ノ存立ハ之ヲ對内關係、對外關係ノ二方面ヨリ觀察スルコトヲ得ヘシ對内關係ニ於ケル國家ノ存立ヲ害スル罪ハ一國ノ内部關係ニ於テ主權者、領域及憲法ノ三者若ハ其一ヲ變更、破壞セントスルモノナリ對外關係ニ於ケル國家ノ存立ヲ害スル罪ハ國際關係ニ於ケル國家ノ存立ヲ危ウ

スルモノナリ我刑法ニ規定セル國家ノ存立ニ對スル罪ハ之ヲ別テ三ト爲ス

- 第一 皇室ニ對スル罪
- 第二 内亂ニ關スル罪
- 第三 外患ニ關スル罪

第一節 皇室ニ對スル罪

主權者ニ對スル罪ハ各國共ニ之ヲ大逆罪トシテ之ヲ罰スルヲ例トス蓋主權者ハ國家ノ存立ト分離スヘカラサル關係ヲ有スルモノニシテ苟モ主權者ヲ殺害スルノ行爲ハ國家ノ存立要件ノ一ヲ害スルモノナリ而シテ殺害ノ原因カ政事上ニ關スルト私怨ニ出ツルトヲ問ハス一國ノ主權者ヲ殺害スル一事ニ至リテハ一ナリ而シテ各國共ニ此種ノ罪ニ擬スルニ重刑ヲ以テス我刑法ハ天皇ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントスルノ罪ハ死刑ヲ以テ罰シ之ヲ總犯罪中最モ重キ罪ト爲ス尙ホ我國ニ於テハ皇室ニ對スル罪就中太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントスル罪ハ之ヲ天皇ニ對スル罪ニ準シ等シク之ヲ死刑ヲ以テ處罰ス其他ノ皇族ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル罪ヲ認メテ之ヲ重

皇室ニ對スル罪

刑法各論

本論 國家ノ法益ニ對スル罪 國家ノ存立ニ對スル罪 皇室ニ對スル罪

罰ス不敬罪ニ關シテモ亦天皇及其御近親ニ對スル不敬罪ヲ認ムルニ止ラス一般ノ皇族ニ對スル不敬罪ヲ認ム是レ我國固有ナル國體ニ基因ス然レトモ主權者ハ天皇御一人ニシテ其餘ノ皇族ハ天皇ノ臣下ニ外ナラサレハ學理上國家ノ法益ニ對スル罪ト稱スヘキモノハ天皇御一人ニ屬スル犯罪ニ止ル

皇室ニ對スル罪ハ之ヲ分チ第一危害罪、第二不敬罪ノ二ト爲スコトヲ得尙ホ危害罪ハ更ニ分テ(一)天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ對スル危害罪ト(二)其他ノ皇族ニ對スル危害罪ノ二ト爲スヲ得ヘク不敬罪ハ更ニ之ヲ分テ(一)天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子若ハ皇太孫又ハ神宮若ハ皇陵ニ對スル不敬罪(二)其他ノ皇族ニ對スル不敬罪ノ二ト爲スコトヲ得

危害罪

第一款 危害罪

危害罪ノ客體ハ我大日本帝國ノ天皇及皇族ト爲ス皇族中刑法上天皇ニ準スヘキ者ト然ラサル者トノ別アリ刑法上天皇ニ準スヘキ皇族ハ太皇太后、皇太后、皇后、皇太子、皇太孫ノ五者ナリ

天皇トハ大日本帝國ヲ統治セラル、在世ノ天皇ヲ奉稱ス太皇太后、皇太后ハ

先々帝若ハ先帝ノ皇后ヲ奉稱スルモノニシテ必スシモ天皇ノ祖母君若ハ母君ヲ奉稱スルモノニアラス皇后ハ大婚ニ依リ立后セラレタル女子若ハ皇位ヲ繼承セラレタル皇太子若ハ皇太孫ノ妃ヲ奉稱ス皇太子トハ儲嗣タル皇子ヲ奉稱シ皇太孫トハ皇太子在ラサルカ爲メ直接皇位ヲ繼承セラル、皇孫ヲ奉稱ス

天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子、皇太孫ノ六者ニ對スル危害罪ト其他ノ皇族即チ皇太子妃、皇太孫妃、親王、親王妃、內親王、王、王妃及女王ニ對スル危害罪トハ其刑ニ輕重ノ差アリ天皇以下五者ニ對シ危害ヲ加ヘ若ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處セラルヘク其他ノ皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ、危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期懲役ニ處セラルヘキモノトス

法文ニ危害トハ危險及侵害ヲ合稱シタルモノナルヘシ而シテ危險ハ天皇及皇族ノ御自身ノ生命、身體及自由ニ對スル危害ヲ生セシメ若ハ之ヲ侵害スルノ行爲ヲ謂フモノニシテ天皇又ハ皇族ノ財產ニ對スル危險若ハ侵害行爲及天皇及皇族ノ名譽ヲ毀損スルノ行爲ヲ包含セサルモノト解スヘキナリ

法文ニ天皇及皇族ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ト規定スルカ故ニ危



害ヲ加フル行爲ト危害ヲ加ヘントシタル行爲トヲ區別スルノ必要アリ而シテ天皇及皇族ノ御自身ニ對シ危害ヲ加フルノ行爲トハ天皇及皇族ノ生命、身體及自由ニ對シ危險ヲ生セシメ又ハ之ヲ侵害スルノ行爲ヲ總稱スルモノニシテ其内容ハ嘗テ人ノ生命、身體及自由ニ對スル罪ニ付キ説明シタル所ハ之ヲ準用シ得ヘキヲ以テ再說セスト雖モ茲ニ注意スヘキハ生命、身體ニ對シ危險ヲ生セシムヘキ行爲アリタルトキハ縱令未タ之ニ依リテ生命、身體ノ侵害ヲ生スルニ至ラサルモ危害罪ノ既遂ニシテ法文ノ所謂危害ヲ加ヘタルモノニ該當スルノ事ナリトス

前述スル所ト同一理由ニテ生命、身體ニ對スル犯罪ノ實行ニ著手スルノ行爲ハ普通ノ場合ニ於テハ未遂罪ヲ構成スルモ天皇及皇族ニ對シ是等ノ犯罪ノ實行ニ著手スルトキハ天皇及皇族ニ對スル危害罪ノ既遂罪ヲ構成ス而シテ法文ノ所謂危害ヲ加ヘントシタル者トハ前述セル天皇及皇族ノ生命、身體及自由ニ對スル危害行爲ノ未遂及豫備ノ行爲又ハ陰謀ヲ爲シタル者ト解スヘキナリ而シテ危害罪ハ前述スルカ如ク普通罪ノ未遂罪ノ場合ニ既遂罪ヲ構成スルカ故ニ危害罪ノ未遂罪ハ普通罪ノ未遂罪ト解スヘキナリ

不敬罪

第二款 不敬罪

不敬罪ノ客體タルヘキモノハ第一、天皇第二、天皇ニ準スヘキ皇族第三、普通ノ皇族

第四、皇陵第五、神宮ノ五ト爲ス

皇陵ハ嘗テ皇位ニ在セラレタル歴代ノ天皇ノ御墳墓ヲ奉稱ス

神宮トハ皇祖ヲ奉祀セル伊勢大廟ヲ奉稱ス其他我國ニ神宮ト稱スヘキモノ熱田

神宮、橿原神宮、香取神宮、鹿島神宮、日前神宮、國懸神宮、宇佐神宮、霧島神宮、平安神宮、鹿

兒島神宮、鶴戶神宮、石上神宮ノ十三アリ(官社以下定額及神宮職)是等神宮ノ稱アル

モノハ悉ク刑法第七十四條ノ客體タルヘキヤ否ヤニ付テハ立法ノ精神ヨリスレ

ハ疑ヲ容ルヘキ餘地ナキニアラサレトモ之ヲ法文ノ解釋トシテ積極ニ解スルヲ

相當トス

一、天皇及皇族ニ對スル不敬ノ所爲 天皇及皇族ニ對スル不敬罪ハ名譽ニ對ス

ル罪ノ一種ニ外ナラス唯天皇及皇族ノ名譽ト普通人ノ名譽トハ其範圍ニ於テ

同シカラサルカ故ニ天皇及皇族ニ對スル不敬罪ト一般ノ名譽ニ對スル罪トハ

其犯罪ヲ構成スヘキ所爲ノ範圍ニ付キテ廣狹ノ差ナキ能ハス天皇及皇族ノ名

譽ハ高且大ナルヲ以テ通常人ニ對シテ爲ストキハ名譽毀損又ハ侮辱トナラサルモ之ヲ天皇及皇族ニ對シテ爲ストキハ不敬罪ヲ構成スルコトアルヘシ(甲) 天皇ノ御私行ニ關スルト國務上ノ御處分ナルトヲ問ハス又御即位後若ハ御即位以前ノ行爲ニ關スルトヲ問ハス又其事實ノ有無ヲ問ハス苟クモ天皇ノ御名譽ヲ毀損スヘキ事實ヲ摘示シ又ハ指示セスシテ天皇ニ對スル輕蔑ノ意ヲ表示シタルトキハ不敬罪ヲ構成スヘキモノトス(乙) 不敬罪ヲ構成スルニハ輕蔑ノ意ヲ表示スルヲ要ス故ニ行爲者以外ノ者ニ依リ輕蔑ノ表示ヲ認識セラレタルヲ要ス而シテ輕蔑ノ表示ハ敢テ公然タルヲ要セス(丙) 天皇ニ對シ普通爲スヘキ敬禮ヲ爲サ、ルトキハ我國ノ臣民トシテ當然陛下ニ對シテ爲スヘキ敬禮ヲ缺クモノニシテ不敬罪ヲ構成スルコト疑ナシ(丁) 名譽ニ關スル罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論スヘキモノナレトモ不敬罪ハ親告罪ニアラス(戊) 嘗テ皇位ニ在ラセラレタル歴代ノ天皇ニ對シ不敬ノ所爲アリタル場合ハ其不敬ノ如何ニ依リテ同時ニ現代ノ天皇ニ對スル不敬ノ所爲タルコトアルヘク又否ラサル場合アルヘク前者ノ場合ニ於テハ不敬罪ヲ以テ論スヘク後者ノ場合ニ於テハ天皇及皇

内亂ニ關スル罪

室ニ關シ特別ノ法則ノ存スルモノナケレハ普通人ニ對スル第二百三十條第二項ヲ適用シテ處斷スルノ外ナシ

以上ノ説明ハ之ヲ皇族ニモ準用シ得ヘシ

二 神宮及皇陵ニ對スル不敬ノ所爲 神宮及皇陵ニ對スル不敬ノ所爲如何ハ嘗テ禮拜所及墳墓ニ關スル罪ニ於テ説明シタル所ニ依リ之ヲ了解スルコトヲ得ヘシ唯茲ニハ公然ナル條件ヲ必要トセルノミ

第二節 内亂ニ關スル罪

内亂罪ハ朝憲紊亂ノ手段トシテ暴動ヲ爲スヲ謂フ更ニ之ヲ詳言スレハ多衆人聚合シ國家ノ對内的組織ノ大綱ヲ破壞スルノ手段トシテ其合同力ヲ以テ殺傷放火劫掠毀棄等ノ暴動行爲ヲ行フヲ謂フ法律カ内亂罪ヲ定メ主トシテ罰セントスル所ハ朝憲紊亂ノ未遂行爲若ハ朝憲紊亂ノ豫備又ハ陰謀行爲ナリ 我刑法ノ定ムル内亂ニ關スル罪ハ之ヲ分テ第一内亂罪第二内亂ノ豫備又ハ陰謀罪第三内亂幫助罪ノ三トス

第一款 内亂罪

刑法各論

本論 國家ノ法益ニ對スル罪 國家ノ存立ニ對スル罪 内亂ニ關スル罪

内亂罪

此罪ハ多衆人ニ依リ犯シ得ヘキモノニシテ一人ニテ犯シ得ヘキモノニアラス此點ハ我刑法之ヲ明示セザレトモ法文ニ(一)暴動及内亂ナル文字ヲ使用シタルト及(二)特別共犯ノ例ヲ規定シタルトニ依リ當然解釋シ得ヘキモノニ屬ス

内亂ニ關スル罪ヲ構成スルニハ故意ヲ要スルヤ勿論ナリ唯疑問ト爲ルハ故意ノ内容如何ニアリ余ハ内亂罪ヲ構成スルニ必要ナル故意ハ多衆人聚合シ其合同力ヲ以テ朝憲紊亂ノ手段トシテ暴動ヲ爲サントスルノ故意アルヲ必要ナリトスル者ナリ故ニ(一)多衆人聚合スルノ故意ナキカ(二)聚合アルモ合同力ヲ藉テ暴動ヲ爲スノ故意ナキカ(三)斯ル故意アルモ其暴動ハ朝憲紊亂ノ手段トシテ爲スノ故意ナキトキハ充分ナラス

内亂罪ニ依リ害セラルヘキ利益ハ國家組織ノ大綱タル主權者領域及憲法ナルコト言ヲ竣タス然レトモ本罪ニ因リ直接侵害ヲ受クヘキモノハ必スシモ國家ノ法益ニ限ラサルコト甚タ少ナカラス然ルニ拘ラス尙ホ本罪カ國家ノ法益ニ對スル罪タル所以ノモノハ斯ノ如キ行爲ハ國家ニ對スル犯罪ノ手段トシテ犯サル、カ故ナリ

内亂罪ハ朝憲ヲ紊亂セントスルノ著手行爲トシテ暴動ヲ爲スヲ謂フ故ニ行爲者カ爲シタル暴動行爲ニシテ朝憲紊亂ノ著手ト認メ得ルモノハ本條ヲ以テ論スヘキナリ茲ニ説明ヲ要スルハ(一)朝憲紊亂(二)暴動(三)朝憲紊亂ノ手段タル暴動ト朝憲紊亂ノ目的ヲ以テスル暴動トノ區別ナリ

國家ノ對内的組織ノ大綱ヲ破壊セントスルノ行爲ハ之ヲ朝憲ヲ紊亂セントスルノ行爲ヲ謂フ凡ソ國家アレハ其成文ナルト不成文ナルトヲ問ハス統治ノ大則ヲ定ムル準則存スルモノナリ此準則ハ即チ法文ニ所謂朝憲ナリ我國ハ成文憲法及之ト同視スヘキ附屬法例アルカ故ニ憲法及附屬法令ニ於テ認メタル統治ノ大則ヲ紊亂スルノ行爲ハ朝憲紊亂ナリ而シテ法文ニ所謂政府顛覆及邦土ノ借竊ハ共ニ朝憲紊亂ノ例ヲ示シタルモノト解スヘキナリ

暴動トハ多衆人ノ聚合力ヲ以テスル殺人、放火、劫掠等ノ兇行ヲ稱ス故ニ多衆人ノ聚合力ニ依ラサル單獨人ノ斯ル兇行ハ暴動ト云フ能ハス

内亂罪ヲ構成スヘキ暴動行爲ハ朝憲ヲ紊亂セントスルノ著手行爲トシテ爲サレタルコトヲ必要トスルモノニシテ朝憲紊亂ノ目的ヲ以テ爲サレタルコトヲ以テ

足レリトスルモノニアラス朝憲紊亂ノ手段トシテ暴動ヲ爲スト朝憲紊亂ノ目的ヲ以テ暴動ヲ爲ストハ其意義同一ナルカ如クニシテ必スシモ然ラス朝憲紊亂ノ手段タラサル暴動ハ縱令朝憲紊亂ノ目的ヲ以テ爲サレタリトスルモ常ニ必スシモ内亂罪ヲ構成スルモノト云フヘカラス

我刑法ハ騷擾罪ニ於ケルト同シク内亂罪ニ於テモ特別ナル共犯例ヲ定ム即チ共犯者ヲ分テ(一)首魁(二)謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者(三)其他諸般ノ職務ニ從事シタル者(四)附和隨行シ又ハ單ニ暴行ニ干與シタル者ノ四ニ區別ス左ニ之ヲ略述スヘシ

- 一 首魁 首魁ハ群衆ヲ指揮統率スル地位ニ在ル者ヲ謂フ必スシモ一人ニ限ルヘキニアラス又發意者若ハ首謀者タルコトヲ要セス
- 二 謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者 謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者トハ暴動ヲ爲ス群衆ノ作戰計畫ニ參與シ又ハ群衆ヲ指揮命令スル地位ニ在ル者ヲ謂フ
- 三 其他諸般ノ職務ニ從事シタル者 首魁ニアラス又謀議ニ參與シ又ハ群衆ヲ

指揮シタル者ニアラサルカ故ニ庶務會計等ノ事務ニ從事シタル者ヲ指シタルモノナルヘシ

四 附和隨行シ又ハ單ニ暴動ニ干與シタル者 首魁又ハ其他群衆ノ指揮ヲ爲ス者ノ指揮命令ニ服シ或ハ附和隨行シ若ハ暴動ニ干與シタル者ヲ謂フ

以上ノ如キ區別ハ實際ニ於テ之ヲ爲シ得ヘキ程度ニ進ミタル内亂罪ノ場合決シテナシトセサルヘケレトモ又内亂罪ノ總テノ場合ニ於テ必ス斯ノ如キ階級ノ區別ヲ爲シ得ヘキ程度ニ達シタルモノ、ミニ限ルニハアラス

内亂罪ヲ構成スヘキ暴動ハ數多ノ所爲ノ集合ニ成ル場合甚タ多シ内亂罪ノ觀念中ニハ暴動タルヘキ數多ノ所爲ヲ包含スルモノナリ

内亂罪ヲ犯スニ因リ人ヲ殺シ又ハ放火シタル場合ニ於テハ其行爲ハ内亂罪ト殺人又ハ放火罪トノ二箇ノ罪名ニ觸ル、モノトシテ刑法第五十四條第一項ヲ適用スヘキモノナルヤ又單ニ内亂罪ノミニ依リ之ヲ處斷スヘキヤノ疑問ヲ生ス元來内亂罪ハ殺人放火等ノ暴動行爲ヲモ包含スル特別罪ナルコトハ法文ノ規定ニ依リ明白ナレハ内亂罪ノ實行トシテ殺人放火等ノ所爲アリタルトキハ獨リ内亂罪

ヲ以テ問フヘキモノニシテ普通罪ヲ以テ論スヘキモノニアラス  
 内亂罪ハ多衆人聚合シ其合同力ニ依リ暴動ニ著手スルト同時ニ既遂ト爲ル故ニ  
 多クノ場合ニ於テハ或ハ内亂罪ノ豫備罪ト爲リ或ハ其既遂ト爲ルモノニシテ其  
 未遂罪ヲ構成スル場合ハ甚々稀ナルヘシ然レトモ未遂罪ノ場合ナキニアラス例  
 ハ暴動ヲ爲サントスル行爲者ノ一隊カ陸軍兵營ヲ夜襲セント欲シ之ニ向テ進發  
 シタルモ兵營ニ於テ之ヲ覺知シ之ニ對スル相當ノ作戰計畫ヲ爲シタルヲ知リ中  
 途ヨリ退却シタル場合ノ如シ故ニ共犯者ノ各階級ヲ通シテ未遂罪アリト謂フヲ  
 得ヘシ

第二款 内亂ノ豫備若ハ陰謀

朝憲ヲ紊亂セントスルノ著手トシテ暴動行爲ニ著手シタルトキハ内亂罪ヲ完成  
 スヘク若シ暴動ニ著手セントスルノ行爲ニ著手シタルモ之ヲ遂ケサル時ハ未遂  
 罪ヲ構成スヘキコト前既ニ之ヲ説明シタルカ如シ然ルニ内亂ヲ爲サント計畫シ  
 二人以上ニテ之ニ付キ協議スルニ至リタルトキハ陰謀罪ヲ構成ス陰謀ハ秘密ニ  
 爲サル、ヲ以テ通例トスヘシト雖モ秘密ニ行ハルハコトハ陰謀ノ必要條件ニア  
 ラス

内亂ノ豫備若ハ陰謀

内亂ノ計畫其歩ヲ進メ或ハ兵隊ヲ招集シ又ハ兵器彈藥等ヲ購買スル等内亂ノ準  
 備ヲ爲スニ至リタルトキハ内亂ノ豫備罪ヲ構成ス我法律ハ泰西ニ行ハル、カ如  
 ク内亂ニ關スル罪ハ其暴動ヲ爲スヲ竣タス其計畫ヲ爲シタルトキハ既遂トシテ  
 之ヲ罰スルカ如キ立法例ニ倣ハサリシヲ以テ豫備罪ヲ以テ罰スヘキ範圍甚々廣  
 シ朝憲ヲ紊亂セントシ數萬ノ兵隊ヲ招集シ之ニ相當スル兵器金穀ヲ準備シ諸機  
 關整備シ隊伍堂々何時ニテモ進軍シ得ヘキ情況ニ達シタル場合ト雖モ未タ暴動  
 ニ著手セサルトキハ豫備罪トシテ罰スルヲ得ヘキニ過キス  
 法律ハ内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタルトキト雖モ未タ暴動ヲ爲スニ至ラサル前  
 自首シタル者ニ對シテハ其刑ヲ免除スヘキ旨ヲ定ム自首トハ事未タ管轄官廳ニ  
 發覺セサル前ニ當リ管轄官廳ニ首服スルヲ謂フ

第三款 内亂幫助罪

本罪ハ内亂罪及内亂ノ豫備及陰謀罪ノ從犯ヲ定メタルモノナリ  
 法律ハ内亂罪及其豫備陰謀罪ノ從犯ニ對シ特別共犯例ヲ設ケタルモノナリ

内亂幫助

若シ本條ノ規定ナカリセハ内亂罪ノ從犯ハ第六十三條ノ規定ニ從ヒ正犯ノ刑ヨリ輕減シテ處斷スルノ外ナシ  
正犯カ未タ暴動ヲ爲スニ至ラサル前ニ幫助者ニシテ自首シタルトキハ正犯者カ自首ヲ爲シタルト否トニ拘ハラス其刑ヲ免除セラレヘキモノトス

外患ニ關スル罪

### 第三節 外患ニ關スル罪

外患ニ關スル罪トハ主トシテ本國人カ祖國ヲ賣ラントスル賣國の所業ヲ罰スヘキモノナリ我刑法ニ於テハ内外人ノ區別ナク均シク此罪ノ主體タルコトヲ得ヘキカ如ク規定シタルモ其實際ニ於ケル效用ハ國際法ニ依リ制限セラレヘケレハ結局此罪ノ適用ヲ受クヘキモノハ本邦人及此罪ニ關シ本邦人ニ準スヘキモノニ限ラルヘキナリ

我刑法ニ規定セル外患ニ關スル罪ハ第一叛逆的通謀罪、第二叛逆的抗敵罪、第三叛逆的援助罪、第四外患未遂罪、第五外患豫備又ハ陰謀罪、第六戰時同盟國ニ對スル外患罪ノ六ト爲ス

叛逆的通謀罪

### 第一款 叛逆的通謀罪

外國ニ通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシムルトハ行爲者カ故意ヲ以テ帝國ノ不利益ヲ外國ニ對シテ爲シタル行爲ニ依リ外國ヲシテ帝國ニ對シテ戰端ヲ開クニ至ラシムルヲ謂フ而シテ行爲者ノ行爲カ戰端開始ノ原因ト爲リタルコトヲ要スルカ故ニ行爲者ノ行爲ト外國ノ爲シタル戰端開始ノ行爲トノ間ニハ因果ノ關係アルコトヲ必要トス

外國ト通謀シテ本國ト戰端ヲ開カシムルハ通常賣國の若ハ食利的目的ニ出ツルコト多シト雖モ道德上惡ムヘカラサル目的ニ出ツル場合ヲモ亦想像シ能ハサルニアラス然レトモ其目的ノ如何ハ本罪ノ構成ニ何等ノ關係ヲ有セス刑法第二條ニ依レハ本條ノ罪ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ之ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用スルノ明文ヲ設ケタルカ故ニ帝國內ハ勿論外國ニ於ケル外國人ト雖モ之ヲ犯シ得ヘキモノトス

叛逆的抗敵罪

### 第二款 叛逆的抗敵罪

敵國ニ與シテ帝國ニ抗敵ストハ戰時敵國軍ノ軍務ニ服スルコトヲ謂フ其軍務ニ服スル以上ハ現ニ銃劍ヲ執テ帝國軍ニ抗敵スルト又ハ帷幄ニ在テ帝國軍ニ對ス

刑法各論

本論 國家ノ法益ニ對スル罪 家國ノ存立ニ對スル罪 外患ニ關スル罪

ル戰畧ヲ謀議スルト若ハ敵軍ノ兵站事務ニ從事スルト其他軍用人夫ト爲リ、馬丁ト爲リ、從卒ト爲リテ敵國ノ軍事上ノ雜役ニ服スル等ノ行爲ヲ爲スカ如キハ悉ク之ヲ敵國ノ軍務ニ服シタルモノト云フヲ得ヘシ尙ホ茲ニ注意ヲ要スルハ法文ニ敵國ニ與シテ帝國ニ抗敵シタル者トアルカ故ニ此罪ハ戰爭ノ開始アリタル後ニ於テノミ之ヲ犯シ得ヘシ

此罪モ亦獨リ本邦人ノミナラス未タ帝國ノ地ヲ踏ミタルコトナキ他國人殊ニ帝國ニ對シ現ニ戰爭ヲ爲シツ、アル國ノ臣民モ亦此罪ノ主體タルコトヲ得ヘキナリ

叛逆的援助罪

第三款 叛逆的援助罪

第一 要塞、陣營、軍隊、艦船其他軍用ニ供スル場所又ハ建造物ヲ敵國ニ交付スルノ行爲 以上列記ノモノハ帝國ノ軍用ニ供セラル、モノタルコトヲ要ス法文ニ所謂要塞、陣營等ヲ敵國ニ交付スルトハ敵國ヲシテ事實上ノ占領ヲ得セシムルノ義ニシテ敢テ形式的ノ引渡ヲ必要トスルモノニアラス即チ敵國ヲシテ事實上ノ占領ヲ得セシムルハ即チ交付アリタルモノトス敵軍ヲシテ事實上ノ占領

ヲ得セシムルノ方法ハ或ハ暴力ヲ以テスルコトアリ或ハ詭計ヲ用フルコトアリ而シテ本罪モ亦其手段、方法ノ如何ヲ問ハズ茲ニ注意ヲ要スヘキハ本條ハ常人カ是等ノ行爲ヲ爲シタル場合ニ於テノミ之ヲ適用スヘキモノニシテ要塞司令官、軍隊ノ隊長若ハ艦隊長其他軍務當局者カ斯ル罪ヲ犯シタル場合ニハ之ヲ適用スヘキモノニアラス

第二 兵器、彈藥其他軍用ニ供スル物ヲ敵國ニ交付スルノ行爲 帝國ノ軍用ニ供スル兵器、彈藥其他ノ物ヲ敵國ニ交付スル罪ニ付テハ第一ニ於テ説明シタル所ニ依リテ之ヲ類推スヘシ

第三 敵國ヲ利スル爲メ要塞、陣營等ノ損壞又ハ使用シ能ハサラシムルノ行爲 敵國ヲ利スル爲メ要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥、汽車、電車、鐵道、電線其他軍用ニ供スル場所又ハ物ヲ損壞又ハ使用シ能ハサラシムルトハ帝國ヲ害スル爲メ帝國ノ軍用ニ供セラル、以上列記ノ物又ハ場所ヲ損壞シ之ヲ軍事上使用スル能ハサルニ至ラシメ以テ敵國ヲ利シ帝國ヲ害スルヲ謂フ

第四 帝國ノ軍用ニ供セサル兵器、彈藥其他直接戰鬥ノ用ニ供スヘキ物ヲ敵國ニ

交付スルノ行爲 此罪ハ帝國ノ陸海軍ニ屬セサル直接戦闘ノ用ニ供シ得ヘキ兵器彈藥等ヲ敵國ニ交付スルニ依リテ成立スルモノニシテ其帝國ノ陸海軍ニ屬セストハ一個人ノ所有ニ係ル兵器彈藥食料等ハ勿論國庫ノ所有ニ係ルトキト雖モ軍用ニ使用セサル物ハ縱令軍用ニ使用シ得ヘキ物ト雖モ悉ク之ヲ包含スルモノト解スルヲ相當トス而シテ敵國ニ交付ストハ有償ナルト無償ナルトヲ問ハス敵國ヲシテ之ヲ領得セシムルヲ謂フナリ若シ夫レ敵國ニ與シテ銃砲彈藥等ヲ供給シタル場合ニ在リテハ本號ノ罪ニアラスシテ叛逆的抗敵ノ罪ヲ構成スルモノトス尙ホ此罪ニ付キ注意ヲ要スヘキハ此罪ハ戰時ニ於テノミ之ヲ犯シ得ヘク平時ニ在テハ之ヲ犯シ得ヘカラサルコト是ナリ

第五 敵國ノ爲メ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ノ幫助 敵國ノ爲メ間諜ヲ爲ストハ敵國ノ爲メ帝國ノ軍事上ノ諸般ノ事項ヲ探知スルノ任ニ當ル者ヲ謂フ然レトモ敵國ノ兵籍ニ入り斥候兵ト爲リテ斯ル任務ヲ行フモノハ寧ロ之ヲ敵國ニ與シテ帝國ニ抗敵シタルモノト解スルヲ相當トス又敵國ノ間諜ヲ幫助ストハ敵國ノ爲ニ帝國ノ軍事上ノ機密ヲ探知セントスル者即チ間諜ニ便益ヲ與フル

ヲ謂フモノナリ

第六 軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄セル行爲 軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄ストハ帝國ノ軍事上秘密ナリトシテ公示セサル事項ヲ敵國ニ知ラシムルヲ謂フ而シテ本號及前號ノ罪ハ戰時ニ於テノミ之ヲ犯シヘク若シ平時ニ於テ斯ル行爲アルトキハ軍機保護法ニ依リ之ヲ處斷スヘキモノトス

第七 以上列記以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害スル行爲 此罪ハ規定汎博ニシテ方法ノ如何ヲ問ハス諸般ノ場合ヲ包含スルモノニシテ之ヲ列舉シ得ヘキモノニアラス

第四款 外患ノ未遂豫備又ハ陰謀罪

叛逆的通謀罪、叛逆的抗敵罪及叛逆的援助罪ハ國家ニ對シ頗ル危險ナル犯罪ニシテ極力防遏セサルヘカラサルモノニ屬スルコト毫モ内亂罪ニ讓ラス是レ法律カ其既遂ヲ罰スルヲ以テ足レリト爲サス其未遂罪ハ勿論豫備罪及陰謀罪ヲ罰スヘキ旨ヲ定メタル所以ナリ

第五款 戰時同盟國ニ對スル罪

戰時同盟國ニ對スル罪

外患ノ未遂豫備又ハ陰謀罪



戰時同盟國トハ帝國ト外國ト交戰中帝國ト攻守同盟ヲ爲シタル外國ヲ謂フ戰爭ノ初ヨリ其外國ト帝國ト攻守同盟ヲ爲シタルト又戰爭開始後同盟ニ加リタルト否トハ之ヲ區別スル必要ナシ既ニ攻守同盟ヲ爲シタル外國タル以上ハ帝國ト共同シテ現ニ戰爭ニ從事シ居ルト又ハ未タ戰爭ニ直接關係セサルトハ之ヲ問フ所ニアラス法律カ本條ノ規定ヲ爲シタル所以ヲ察スルニ戰時同盟國ノ軍事上ノ利益ニ對スル侵害ハ帝國ノ軍事上ノ利益ニ直接影響スルモノナレハ外患ニ關スル罪ノ規定ハ之ヲ戰時同盟國ニ對スル同様ノ行爲ニモ適用スヘシト爲シタルモノナラン

法律ハ外患ニ關スル罪ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル行爲ニモ亦之ヲ適用スト規定シタルカ故ニ既ニ本章ニ説明シタル三箇ノ罪ハ悉ク戰事同盟國ニ對スル行爲ニモ適用ヲ見ルモノト解セサルヲ得ス

### 第二章 國交ニ關スル罪

國家カ國際法上ノ主體トシテ各國ト和親交通ノ關係ヲ保タントスルニハ(一)國際法上ノ條規ヲ遵守シ(二)國際間ノ禮讓ヲ尊重スル必要アリ國際條規ノ遵守及ヒ國

國交ニ關スル罪

際禮讓ノ尊重ハ國家カ國際法上ノ主體トシテ自ラ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ而シテ國家ハ他ノ一面ニ於テ其國民ニ對シ他國ニ對シテ一定ノ行爲ヲ爲スヘカラサルコトヲ命シ且之ニ違反スル者ニ對シ相當ノ處罰ヲ加フヘキ旨規定ニルノ義務アリ然レトモ國際法ヲ遵守スルノ義務ヲ有スル者ハ依然國際法ノ主體タル國家ニシテ其臣民ニアラス一國ノ臣民ハ其屬スル國家ノ定メタル法令ニ從フヘキ義務ヲ有スルノミ

國交ニ關スル罪ノ客體ハ外國ノ君主又ハ大統領外國ノ使節及外國ノ國章ナリ然レトモ法律カ國交ニ關スル罪ヲ定メ以テ其保護セントスル法益如何ト云フニ外國ノ君主又ハ大統領外國ノ使節及外國カ有スル利益ニアラスシテ帝國カ國交ニ關シ有スル所ノ法益ナリトス法律カ特ニ外國ノ君主若ハ大統領使節及國章ニ對スル罪ヲ定メテ廣ク他ノ場合ニ及ハサル所以ハ國際間ノ條規及禮讓ヲ尊重スルハ帝國ノ有スル利益ニシテ帝國カ圓滿ナル國交ヲ遂クルヲ得ル所以ナレハナリ國交ニ關スル罪ハ國家ノ國交ニ關スル利益ヲ害スルモノニシテ國家ノ法益ニ對スル罪ノ一種ニ外ナラス

我刑法ノ規定スル國交ニ關スル罪ハ之ヲ分テ第一外國ノ代表者ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加フル罪第二外國ノ代表者ニ對シ侮辱ヲ加フル罪第三外國ノ國章ヲ損壞除去又ハ汚穢スル罪第四外國ニ對シ私ニ戰爭ヲ爲スノ罪第五局外中立ニ關スル命令ニ違反スル罪ノ五ト爲ス之ヲ圖示スレハ左表ノ如シ

- (一) 外國ノ代表者ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ爲スノ罪
- (二) 外國ノ代表者ヲ侮辱スル罪

國交ニ關スル罪

- (三) 外國ノ國章ヲ損壞除去
- (四) 外國ニ對シ私ニ戰爭ヲ爲スノ罪
- (五) 局外中立ニ關スル命令ニ違反スル罪

外國ノ代表者ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加フル罪

### 第一節 外國ノ代表者ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加フル罪

本罪ハ帝國ニ滞在スル外國ノ君主、大統領若ハ帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加フルニ依リ構成ス左ニ本罪ノ客體及所爲ニ付キ説明ス

ヘシ

本罪ノ客體タルモノハ帝國ニ滞在スル外國ノ君主、大統領又ハ帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ナリトス外國トハ主トシテ國際法ノ支配ヲ受クヘキ各國家特ニ締盟各國ヲ指稱スヘシト雖モ法文ニ何等ノ制限ナク廣ク外國トアルカ故ニ斯ル種類ニ屬セサル國ト雖モ苟モ國ト稱シ得ヘキモノハ之ニ屬スルモノト解釋セサルヲ得ス帝國ノ領土内ニ滞在スル外國ノ君主、大統領ナル以上ハ其滞在スル目的カ公ノ目的ナルト又ハ私ノ目的ナルトハ之ヲ問フ所ニアラス

帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節トハ條約國ヨリ帝國ニ駐劄スル全權大使 (Ambassadeurs) 全權公使 (Envoyes extraordinaires et ministres plénipotentiaires) 辨理公使 (Ministres seidentis) 代理公使 (Charges d'affaires) トシテ派遣セラレタル者ヲ謂フ唯疑問ト爲ルハ大使、公使ノ不在ノ場合ニ於テ主席參事官又ハ總領事等カ大使、公使ノ職務ヲ臨時代理スル場合ニ於テ此臨時代理者ヲ以テ本條ノ所謂使節ナリト解釋スヘキヤ否ヤニ在リ余ヲ以テ之ヲ觀レハ大使若ハ公使ヲ臨時代理スル者ハ法文ノ所謂使節ニアラスト解釋スルヲ以テ相當ナリト思考ス使節ハ帝國ニ派遣セラレタル者ナ

刑法各論

本論 國家ノ法益ニ對スル罪 國交ニ關スル罪 外國ノ代表者ニ對シ侮辱ヲ加フル罪

ラサルヘガラス

本罪ヲ構成スヘキ所爲ハ外國ノ君主、大統領、使節ニ對スル(一)暴行(二)脅迫ノ二ナリトス。暴行トハ人ノ身體ニ對スル不法ノ處置ナリ。脅迫トハ人ノ生命、身體、自由、名譽、財産ニ對シ不法ニ侵害ヲ加フヘキ旨ノ通知ナリ。此罪ヲ構成スヘキ所爲ハ暴行又ハ脅迫ノ二者ニ限ル。若シ暴行ノ結果死傷ヲ生シタル場合ニ於テハ第五十四條第一項ニ依リ本罪ト傷害若ハ傷害致死ノ罪トヲ比照シ重キニ從ヒ處斷スヘキモノナリ。外國ノ君主、大統領又ハ使節ヲ殺害スルカ如キハ全然別種ノ犯罪ニシテ普通殺人罪ニ關スル法條ヲ適用スル外ナシ。

### 第二節 外國ノ代表者ニ對シ侮辱ヲ加フル罪

本罪ハ帝國ニ滞在スル外國ノ君主、大統領若ハ帝國ニ派遣セラレタル使節ニ對シ侮辱ヲ加フルニ依リ構成ス。本罪ノ客體ニ付テハ前章ニ於テ説明シタル所ト同一ナリ。唯説明ヲ要スヘキハ所爲ノ一點ニ在リ。法律ハ帝國ニ滞在スル外國ノ君主、大統領又ハ帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ侮辱ヲ加フルノ所爲ヲ罰ス。茲ニ疑問トスヘキハ其所謂侮辱トハ獨リ刑法第二百三十一條ノ所謂侮辱ヲ指示シ

外國ノ代表者ニ對シ侮辱ヲ加フル罪

外國ノ國章損壞、除去又ハ汚穢スル罪

タルモノナリヤ又ハ該文字中ニハ第二百三十條ノ名譽毀損ノ行爲ヲモ包含セシメタルモノナルヤノ點ニ在リ。法律ノ精神ヨリスレハ後者ヲモ侮辱ノ文字中ニ包含セシムルヲ相當トス。

外國ノ君主、大統領ニ對スル侮辱罪ノ處罰ハ外國政府ノ請求ヲ待ツヘク、帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對スル侮辱罪ノ所罰ハ被害者タル使節ノ請求ヲ待テ之ヲ爲スヘキモノトス。蓋侮辱ヲ受ケタル方面ニ於テ介意セサルニ於テハ媒介之ヲ處罰セサルモ國交ヲ危ウスルノ虞ナキノミナラス其意如何ニ拘ラス處罰スルノ必要ナキカ故ナリ。請求トハ告訴ノ意義ニ外ナラス。

### 第三節 外國ノ國章損壞、除去又ハ汚穢スル罪

本罪ハ外國ニ對シ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テ其國ノ國章ヲ損壞、除去又ハ汚穢スルニ依リ成立ス。故ニ本罪構成ノ要件ハ第一外國ニ對シ侮辱ヲ加フル意思ヲ以テ損壞、除去又ハ汚穢スルコト及第二其損壞、除去又ハ汚穢シタル物ハ外國ノ國章タルコトノ二ナリ。

外國ニ對シ侮辱ヲ加フルノ意思ヲ以テ外國ノ國章ヲ損壞、除去又ハ汚穢スルニ在

刑法各論 本論 國章ノ法益ニ對スル罪 國交ニ關スル罪 外國ノ國章損壞、除去又ハ汚穢スル罪

ルヲ以テ單ニ外國ノ國章ヲ損壞除去又ハ汚穢シタル事實アルヲ以テ充分ナリト爲サス外國ニ對シ侮辱ヲ加フル意思ヲ以テ斯ル行爲ヲ爲スコトヲ要ス

國章トハ其國ヲ表彰スヘキ徽章ナリ國旗天皇旗皇后旗陸海軍旗ハ其主要ナルモノニシテ其他荷モ國ヲ表彰スヘキ徽章ハ總テ國章ナリ國章タルノ一事ヲ以テ常ニ本罪ノ客體ナリト爲スニ足ラス國章カ本罪ノ客體タルニハ其所屬ノ國家ニ依リ其國ヲ表彰スル爲メ現ニ使用セラレタル場合ニ限ル此罪モ害ヲ受ケタル外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論スヘキモノナリ

#### 第四節 外國ニ對シ私ニ戰爭ヲ爲ス罪

本罪ハ外國ニ對シ私ニ戰鬥ヲ爲スノ目的ヲ以テ豫備又ハ陰謀ヲ爲スニ依リ構成スルモノナリ私ニ戰鬥ヲ爲ストハ宣戰ノ大命ニ由ルニアラス擅ニ戰鬥ヲ爲スノ行爲ヲ謂ヒ又外國ニ對ストハ其國家其モノニ對スルコトヲ謂フ

本罪ハ外國ニ對シ私ニ戰鬥ヲ爲スノ目的ヲ以テ豫備又ハ陰謀ヲ爲スノ行爲ヲ罰ス然レトモ現ニ戰鬥ヲ爲スノ行爲ハ法律ノ規定スル所ニアラス故ニ現ニ戰鬥ヲ爲スノ行爲即チ現ニ戰鬥ヲ開始シ若ハ之ヲ繼續スル場合ニ於テ本條ヲ以テ罰ス

外國ニ對シ私ニ戰爭ヲ爲ス罪

ヘキヤ將其戰鬥行爲ニ相當スル殺人毀棄等ノ普通罪ヲ以テ處斷スヘキヤノ疑ヲ生ス余ハ法律ニ別段ノ規定ナキヲ以テ殺人毀棄等ノ普通罪ヲ以テ處斷スヘキモノト解スルヲ相當ト思考ス

本罪カ自首シタル者ニ其刑ヲ免除スヘキ旨ヲ定メタルハ蓋之カ豫備陰謀ニ終リタルトキハ甚シキ實害ナク且成ルヘク實行ニ至ラサラシメントスルノ政略ニ出テタルモノナルヘシ

#### 第五節 局外中立ニ對スル命令ニ違反スル罪

本罪ハ外國交戰ノ際帝國カ發シタル局外中立ニ關スル命令ニ違背スルニ依リ構成スルモノナリ外國交戰ノ際トハ帝國ニ關係ナク外國ト他ノ外國トノ間ニ於テ交戰中ナルヲ謂フ局外中立命令トハ外國交戰ノ際ニ於テ帝國カ交戰國ノ何レニモ加擔セサルコトヲ宣言シタル場合ニ於テ其臣民ニ對シ交戰國ノ何レニモ加擔セサルヘキコトヲ命令シタルモノナリ

國際法上中立國ノ遵守スヘキ義務アリ國際法ノ主體タルモノハ國家ナリ從テ中立義務ヲ負擔スルモノハ國家ナリ然リ而シテ國家ノ中立違反ノ責任ハ國家自身

局外中立ニ對スル命令ニ違反スル罪

刑法各論

本論 國家ノ利益ニ對スル罪 外國ニ對シ私ニ戰爭ヲ爲ス罪 局外中立ニ對スル命令ニ違反スル罪

カ中立違反タル場合ニ於テ始メテ生スルモノニシテ一國ノ臣民カ其屬スル國ニ關係ナク中立違反ノ行爲アルモ之ニ依リ其國ニ中立違反ノ責任アリト云フ能ハス然レトモ國際間ノ禮讓ヨリスレハ國家自身カ中立違反ノ行爲ナキコトヲ以テ充分ナリト爲サス尙ホ進テ其配下タル臣民ヲシテ中立違反ノ行爲ナカラシムヘキモノトス是レ各國カ外國ト外國トノ交戦ノ際局外中立ヲ布告シ其國民ニ對シ之ニ關スル命令ヲ發スルヲ例トスル所以ナリ此命令ニ違反スル行爲ヲ以テ本罪トス故ニ本罪構成ノ前提要件トシテ帝國ハ其臣民ニ對スル局外中立ノ命令ヲ發布シタルコトヲ要ス

瀆職罪

第三章 瀆職罪

國家ハ政治上ノ機關即チ公法人トシテ之ヲ組成スル國民ト離レテ獨立ノ存在ヲ有スルコトハ前既ニ述ヘタルカ如シ國家ハ獨立ノ存在ヲ有スルカ故ニ國家ハ又獨立ノ意思ヲ有シ且其意思實行ヲ爲ス國家ノ意思及其意思實行ハ即チ公務ニシテ立法及行政ノ二方式ニ依リテ顯ハル而シテ立法及行政ノ事務ハ國家ノ直接又ハ間接ノ機關即チ公務員ニ依リテ行ハル、モノナリ國家ニシテ立法及行政ノ事

務ヲ完全ニ行ヒ其本能ヲ完ウセント欲セハ先ツ第一ニ立法及行政ノ事務實行ニ當ル公務員ヲシテ其服務上ノ規律ヲ格守セシメ其職務上ノ責任ニ違反スル行爲ヲ嚴禁スルノ必要アリ是レ各國共ニ公務員ノ服務規律ヲ制定シ且懲戒處分ヲ規定スルノ外尙ホ其職務上ノ責任ニ違反スル行爲ヲ處罰スルノ規定即チ瀆職ノ罪ヲ規定スル所以ナリ

公務ナルモノハ畢竟國家ノ意思ノ存スル所ヲ明ニスル行爲(立法)若ハ國家ノ意思ヲ實行スル行爲(行政)ニ外ナラサルコトハ之ヲ前既ニ述ヘタルカ如シ故ニ國家ノ直接若ハ間接ノ機關トシテ公務ニ從事スル公務員ハ立法ニ關シテハ一意専心國家ノ利害休戚ノ上ヨリ打算シテ公務ニ當ルヘク行政ニ關シテハ一意専心法令及其精神ニ則リ公務ヲ實行スヘキモノニシテ決シテ一個人ノ利益ノ爲メ公務ノ實行ヲ左右スヘキモノニアラス國家ノ利害休戚若ハ法令及其精神カ一個人ノ利害ト符合スル場合ニ於テハ一個人ノ利益ニ合スル公務ノ實行ヲ見ルヘキコトアルハ勿論ナレトモ此場合ニ於テモ公務ハ常ニ國家ノ利害休戚若ハ法令及其精神ノ存スル所ニ基キ之ヲ爲スヘキモノニシテ一個人ノ利益ニ基キ之ヲ爲スヘキモノ

ニアラス故ニ公務ニ關シテハ如何ナル場合ト雖モ一個人ノ請託ヲ容ルヘキ餘地ナキモノトス左レハ賄賂ノ爲メ公務ノ實行ヲ左右セシムルカ如キハ如何ナル場合ト雖モ公務ノ性質ニ矛盾スルモノニシテ國家ノ利益ニ反スルモノナレハ之ヲ嚴禁セサルヘカラサルモノニ屬ス賄賂ヲ以テシタル場合ニ於テモ相當ナル公務ノ實行アリタル場合ニ於テハ一見大ナル害ナキカ如キ觀ナキニアラスト雖モ公務ハ賄賂ニ依リ之ヲ左右シ得ヘシトノ觀念ハ國家ノ利益ヲ害スルコト甚シキモノナレハ法律ハ極力斯ノ如キ觀念ノ打破ニ力メサルヘカヘラス而シテ賄賂罪ハ公務ノ實行ニ關スル罪ニシテ或ハ公務ノ實行ヲシテ公務タルノ性質ヲ失ハシメ又之ヲ失ハシムル虞アルモノニシテ公務ノ實行ニ對シ障礙ヲ與フルモノナレハ專ラ國家ノ法益ニ對スル犯罪ナリトス故ニ學者此罪ヲ以テ純然タル瀆職罪ト稱ス

賄賂罪ノ性質ハ前述フルカ如クナレハ此罪ハ獨リ行政ノ事務ニ關スル公務ニ付キ之ヲ犯シ得ヘキノミナラス立法ノ事務ニ關スル公務ニ付キ之ヲ犯スコトヲ得ヘシ

國家ノ直接又ハ間接ノ機關トシテ立法若ハ行政ノ事務ニ從事スル公務員ハ其擔當スル事務ヲ實行スルニ必要ナル一定ノ職權ヲ有ス然ルニ此職權ハ公務實行ノ爲メ必要缺クヘカラサルモノナルト同時ニ其濫用ハ深ク之ヲ戒メサルヘカラス而シテ職權濫用モ甚シキニ至リテハ或ハ公務ノ實行ニ障礙ヲ與ヘ或ハ公務ノ威嚴信用ヲ失墜セシメ以テ國家ノ法益ヲ害スルニ止ラス延テ一個人ノ法益ヲ害スルニ至ルコトナシト爲サス例ハ裁判檢察警察ノ職務ニ在ル者カ事實ノ真相ヲ得ント欲シ拷問ヲ加フルカ如キ又ハ斯ル公務員カ職權ヲ濫用シ人ヲ逮捕又ハ監禁スルカ如キハ國家ノ法益ヲ害スルニ止ラス一個人ノ法益ヲ害スルモノナリ職權濫用モ斯ノ如キニ至テハ之ニ擬スルニ懲戒處分ヲ以テ足レリト爲サス刑罰ヲ加ヘテ之ヲ嚴禁スルノ必要アリ此罪ニ依リ害セラルヘキ法益ハ一面ニ於テハ國家ノ法益ニシテ他ノ一面ニ於テハ一個人ノ法益ナルヲ以テ學者或ハ此罪ヲ以テ不純然ナル瀆職罪ト稱ス然レトモ此罪カ公務員ニ依リ公務實行ニ際シ犯サル、モノニシテ或ハ公務ノ實行ニ障礙ヲ與ヘ或ハ公務ノ威嚴信用ヲ失墜セシムルモノナレハ之ヲ一個人ノ法益ニ對スル罪ノ中ニ數ヘンヨリ寧ロ國家ノ法益中ニ列ス

ルヲ以テ相當ト爲ス

我刑法制度ノ瀆職罪ハ之ヲ大別シテ第一純然タル瀆職罪及第二職權濫用ニ依リ  
一個人ノ法益ヲ害スル罪ノ二ト爲スコトヲ得收賄罪竝ニ贈賄罪ノ如キハ第一ニ  
屬シ職權濫用ニ依ル強要罪、逮捕監禁ノ罪、暴行又ハ凌虐ノ行爲ヲ爲ス罪ノ如キハ  
第二ニ屬ス瀆職罪ハ(一)收賄罪(二)贈賄罪ノ二ニ區別スルコトヲ得職權濫用ニ依リ  
一個人ノ法益ヲ害スル罪ハ(一)職權濫用ニ依ル強要罪(二)職權濫用ニ依ル逮捕又ハ  
監禁ノ罪(三)職權濫用ニ依ル暴行又ハ凌虐ノ行爲ヲ爲ス罪(四)職權濫用ニ依ル逮捕  
若ハ監禁又ハ暴行若ハ凌虐ノ行爲ニ依ル致死傷ノ罪ノ四ニ區別スルコトヲ得

第一 賄賂罪

- (一) 收賄罪
- (二) 贈賄罪

瀆職罪

第二

- 職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害ス罪
- (一) 職權濫用ニ依ル強要罪
- (二) 職權濫用ニ依ル逮捕又ハ監禁ノ罪
- (三) 職權濫用ニ依ル暴行又ハ凌虐ノ行爲ヲ爲ス罪

スル罪

- (四) 職權濫用ニ依ル逮捕若ハ監禁又ハ暴行若ハ凌虐ノ行爲ニ依ル致死傷ノ罪

賄賂罪

第一節 賄賂罪

賄賂罪ハ所謂必要の共犯ヲ構成スル罪ノ一種ニシテ行爲者ノ一方(贈賄者)ハ一定ノ職務ニ對スル對價トシテ利益ノ提供ヲ爲シ他ノ一方(收賄者)ハ之ヲ受諾スルニ依リ成立スルモノナリ贈賄者ト收賄者トノ犯罪ノ性質ニ於テハ異ナル所ナシト雖モ收賄者ト贈賄者間ノ犯罪ノ情狀ニ於テハ之ヲ同一ナリト云フ能ハス何トナレハ公務員ハ一定ノ職務上ノ義務ヲ格守スヘキ特別ノ責任アルニ反シ贈賄者ニ於テハ斯ノ如キ特別ノ義務ナケレハ此兩者ノ間ニ於ケル情狀ニ於テ差等ナシト爲サス左ニ之ヲ區別シテ其梗概ヲ説明スヘシ

第一款 收賄罪

收賄罪ハ國家ノ立法又ハ行政ノ事務ヲ實行スヘキ國家ノ直接又ハ間接ノ機關タル公務員ニ限リ之ヲ犯スコトヲ得公務員ノ志願者又ハ候補者ノ如キハ公務員ニアラサルヲ以テ本罪ノ主體タルコト能ハサルモノトス唯例外トシテ仲裁人ハ本

收賄罪

罪ノ主體タルコトヲ得ヘシ茲ニ所謂仲裁人トハ民事訴訟法第八編仲裁手續ニ規定スル仲裁人ヲ指稱ス

收賄罪ハ前述ノ如ク公務員タル身分ヲ有スル者ニ限り之ヲ犯シ得ヘキ犯罪ナレトモ公務員ニアラサル者ト雖モ公務員ヲ教唆シ又ハ幫助スルニ依リ從犯トシテ本罪ヲ犯スコトヲ得ヘク又共犯者トシテモ亦本罪ヲ犯スコトヲ得ヘキナリ

收賄罪ハ公務員ノ職務行為ノ對價トシテ賄賂ヲ收受要求約束スルニ依リテ成立スルモノニシテ本罪ノ客體ハ賄賂ナリ賄賂ハ公務員ノ職務上ニ對スル對價トシテ給付セラル、利益ナリ

(一) 給付セラル、利益ハ職務上ノ所爲ニ對スルコトヲ要ス職務上ノ所爲トハ職務ノ範圍ニ屬スル行為ヲ總稱スルモノナリ又職務ニ屬スル所爲トハ公務員ノ職務上爲スヘキ所爲及爲スヘキ所爲ヲ爲サ、ル所爲即チ不行爲トヲ包含ス

(二) 收賄罪ハ公務員カ其職務ニ屬スル所爲ニ對シ贈物其他ノ利益ヲ贈ルニ依リ成立スルモノニシテ贈物若ハ其他ノ利益ヲ贈ル行為ト公務員カ爲ス職務上ノ行為又ハ不行爲トハ給付ト反對給付ノ關係ヲ有セサルヘカラス

(三) 賄賂罪ノ客體タル利益(給付)ハ獨リ財産上ノ利益ニ止ラス各種ノ物質的又ハ精神的ノ利益タルヲ得利益トハ境遇ノ優良ヲ指稱ス而シテ茲ニ所謂利益トハ客觀的ニ觀察スヘキモノニアラスシテ主觀的ニ觀察スヘキモノナリ

收賄罪ヲ構成スヘキ所爲ニ付キ説明ヲ要スル點少カラス左ニ之カ要點ヲ示スヘシ

第一 收賄罪ハ公務員カ職務ニ屬スル所爲ニ對スル對價トシテ給付セラル、利益ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束スルニ依リ成立スルモノナリ

利益ノ收受トハ公務員カ其利益ニ付キ事實上處分シ得ヘキ權能ヲ取得スルコトヲ謂フ賄賂罪ノ客體ハ必スシモ有形物ニ限ラサルコトハ前段ニ於テ説明シタル如クナレハ本罪ノ客體即チ利益ノ收受ハ有形物ノ授受ノミナラス債權並ニ各種ノ權利又ハ勞務ノ如キ有形的ノ授受ヲ想像スル能ハサルモノモ亦公務員カ之ニ付キ自由ニ處分シ得ヘキ權能ヲ取得シタルトキハ之ヲ收受ト解セサルヘカラス又收受ハ何人ノ發意ニ出ツルヤ問ハサルナリ要求トハ一定ノ職務行為ニ對スル對價トシテ利益ノ給付ヲ請求スルモノニシテ之ヲ明白ニ發言ス



ルト若ハ行爲其他ノ舉動ヲ以テ之ヲ暗示スルトハ之ヲ區別スルノ必要ナシ約東トハ贈賄者ト收賄者間ニ於ケル收賄者ノ職務ニ屬スル所爲ニ對スル對價トシテ贈賄者カ收賄者ニ利益ヲ給付スルノ合意ナリ何人ノ發意ニ出テタルヲ問ハス尙ホ注意ヲ要スヘキハ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束スル行爲ハ公務員ノ職務ニ屬スル所爲ノ實行前ナルト實行中ナルト又ハ實行後ナルトヲ問ハサルコト是ナリ

第二 收賄罪ノ二種類(一般收賄罪ト重キ收賄罪)

給付セラルヘキ利益ノ對價タルヘキ公務員ノ職務行爲ニ二種アリ其一ハ公務員ノ職務ト一致スルノ所爲ニシテ其二ハ其職務ニ違反スル所爲ナリ而シテ賄賂罪ヲ構成スルニハ職務行爲カ職務ニ一致スルト又之ニ違反スルトハ之ヲ問ハサルモノト解釋スヘキモノトス即チ職務行爲ノ對價タル利益ノ給付ヲ受ケテ職務ト一致スル職務行爲ヲ爲スノ所爲モ亦本罪ヲ構成ス  
 我法文ハ公務員カ賄賂ヲ收受、要求若ハ約束シ因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サ、ルトキハ特ニ重ク罰スヘキ旨定メタリ斯ノ如キ收賄罪ハ一般

ノ收賄罪ニ比シ之ヲ重キ收賄罪ナリト指稱スルコトヲ得而シテ其他ノ收賄罪即チ重キ收賄罪ニ該當セサル收賄罪ハ之ヲ一般ノ收賄罪ナリト稱スルヲ得ヘシ而シテ收賄罪ヲ構成スヘキ所爲ニ付キ四箇ノ場合ヲ想像スルコトヲ得ヘシ其中一般收賄罪ニ屬スルハ(一)豫メ賄賂ノ收受、要求若ハ約束ヲ爲サシテ職務ト一致スル職務行爲ヲ爲シタル後其所爲ニ對シ賄賂ヲ收受、要求若ハ約束スル行爲(二)豫メ賄賂ノ收受、要求若ハ約束ヲ爲サシテ職務ニ違反スル職務行爲ヲ爲シタル後其所爲ニ對シ賄賂ヲ收受、要求若ハ約束スル行爲(三)豫メ賄賂ヲ收受、要求若ハ約束ヲ爲シタル後之カ對價トシテ職務ニ一致スル職務行爲ヲ爲スノ三ナリ而シテ剩ス所ノ(四)豫メ賄賂ノ收受、要求若ハ約束ヲ爲シタル後之カ對價トシテ職務違反ノ職務行爲ヲ爲スノ所爲ハ重キ收賄罪ヲ構成ス

第三 一般收賄罪ト重キ收賄罪トノ間ニ存スル差異

一般收賄罪ト重キ收賄罪トノ間ニ存スル區別ハ給付セラル、利益ノ對價タル職務行爲カ職務違反ノ所爲タルヤ否ヤノ點ヨリハ寧ロ(一)一般收賄罪ハ賄賂ノ收受、要求若ハ約束スルノ行爲アルニ依リ成立スルニ反シ重キ收賄罪ハ賄賂行

爲アルヲ以テ足レリト爲サス之ニ加フルニ職責違反ノ所爲アルコトヲ要スル  
コト及(二)犯罪完成ノ時期ヲ異ニスルコトノ二點ニ在リ一般收賄罪ニ在リテハ  
賄賂ノ收受、要求若ハ約束アリタル時ヲ以テ犯罪ハ完成スルモ重キ收賄罪ノ場  
合ニ在リテハ職責違反ノ所爲アリタル時ヲ以テ犯罪ヲ完成スヘキモノトス

贈賄罪

第二款 贈賄罪

贈賄者カ交付、提供スル賄賂ヲ收賄者ニ於テ收受若ハ承諾(約束)スルトキハ一方ニ  
於テ贈賄罪ヲ構成シ他ノ一方ニ於テ收賄罪ヲ構成ス之ト同シク收賄者カ賄賂ヲ  
要求シ贈賄者ニ於テ之ヲ交付若ハ承諾(約束)スルトキハ一方ニ於テ收賄罪ヲ構成  
シ他ノ一方ニ於テ贈賄罪ヲ構成ス斯ノ如ク贈賄罪ト收賄罪トハ表裏ノ關係ヲ有  
シ贈賄者ノ方面ニ於テハ賄賂ノ交付、提供又ハ約束アルニ於テ贈賄罪成立シ收賄  
者ノ方面ニ於テハ賄賂ノ收受、要求若ハ約束アルニ依リ收賄罪成立ス左レハ贈賄  
罪ハ之ヲ自働的賄賂罪ト稱シ收賄罪ハ之ヲ他働的賄賂罪ト稱ス贈賄罪ト收賄罪  
トノ關係ハ上述ノ如クナレハ前段收賄罪ニ付キ説明シタル所ハ直チニ之ヲ贈賄  
罪ノ説明ニ援用シ得ヘキヲ以テ之ヲ再說セス

處分

賄賂罪ハ秘密ニ行ハル、ヲ常トスルモノナレハ之ヲ檢舉スルニ困難ヲ感スルコ  
ト甚少シト爲サス故ニ法律ハ贈賄者ニシテ自首シタルトキハ其刑ヲ減輕シ又ハ  
免除スルコトヲ得ル旨ヲ規定シ以テ此罪ノ發見檢舉ノ便ヲ計レリ

第三款 處分

刑罰ニ付テハ別段説明ノ必要ヲ認メスト雖モ茲ニ一言ヲ要スルハ(一)收受シタル  
賄賂トハ如何ナル意義ヲ有スルヤ(二)如何ナル賄賂ニ對シ沒收又ハ追徴ヲ言渡ス  
ヘキヤ(三)共犯人アリタル場合ニ於テ如何ニ追徴スヘキヤノ三問ナリトス左ニ之  
ニ付テ略說スヘシ

第一 收受シタル賄賂トハ如何ナル意義ヲ有スルヤ

賄賂ノ收受ニ依リ犯罪ヲ構成スル場合ニ於テハ其收受シタル賄賂ハ犯罪ニ因  
リ得タル物ニ外ナラサルヲ以テ刑法第十九條第三項ニ依リ之ヲ沒收シ得ヘキ  
ヲ以テ特ニ第九十七條第二項ヲ以テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收スヘキ旨ノ  
規定ヲ要セサルカ如シ然レトモ茲ニ收受シタル賄賂トハ賄賂ノ收受ニ依リ犯  
罪ヲ構成スル場合ニ於ケル收受シタル賄賂ニ止ラス犯罪カ既ニ成立シタル後

ニ收受シタル賄賂ヲ指稱スルモノト解釋スルニ依リ特別ナル法文ノ必要ヲ認ムヘキナリ  
 收受罪ハ獨リ賄賂ヲ收受スルニ依リ成立スルノミナラス賄賂ヲ要求若ハ約束スル行爲ニ依リ成立スルモノナレハ賄賂ノ要求若ハ約束ノ行爲アリタル後即チ收受罪成立シタル後收受シタル賄賂ノ如キハ犯罪ニ因リ得タルモノト云フ能ハサレトモ尙ホ之ヲ收受シタル賄賂ト解スヘキナリ  
 收受シタル賄賂トハ獨リ有形ノ財物ニ止ラス債權其他ノ權利タルコトヲ得ヘク又ハ勞力其他ノ利益タルコトヲ得ルコトハ前既ニ之ヲ述ヘタルカ如シ

第二 如何ナル賄賂ニ對シ沒收又ハ追徵ヲ言渡スヘキヤ

收受シタル賄賂ノ性質上沒收シ得ヘキモノアリ有形ノ財物ハ勿論債權其他ノ權利ニシテ財産上ノ價值アルモノ、如キハ性質上沒收シ得ヘキモノニ屬ス收受シタル賄賂ノ性質上沒收シ能ハサルモノアリ  
 收受シタル賄賂ニシテ最初ヨリ沒收シ能ハサルモノニ係ルカ又ハ沒收シ得ヘキ性質ニ屬スルモノ最早沒收スル能ハサルニ至リタルトキハ其價額ヲ追徵スヘキモノトス唯茲ニ一言スヘキハ收受シタル賄賂ニシテ其性質上沒收シ得ヘカ

ラサルモノニ屬シ且金錢ニ見積リ得ヘカラサル場合ニ於テハ其價額アリト云フ能ハサレハ斯ノ如キ場合ニ於テハ收受シタル賄賂ニ付キ之ヲ沒收若ハ其價額ヲ追徵スルコト能ハサルハ勿論ナリ

一人ニテ收受罪ヲ犯シタル場合ニ於テハ沒收又ハ追徵ニ關シ何等困難ナル疑問ヲ生スルコトナシ又收受罪ニ付キ共犯者アリタルトキト雖モ沒收スヘキ賄賂カ現存スルトキモ亦何等困難ナル疑問ヲ生スルコトナシ其困難ナル疑問ヲ生スヘキハ數人共犯ノ收受罪ニ於テ賄賂カ金錢ニ見積リ得ヘキモ其性質上沒收スルコト能ハサルモノナルカ又ハ賄賂カ沒收シ得ヘキ性質ヲ有スルモノ之ヲ處分スル能ハサルニ至リタル場合ナリトス元來收受シタル賄賂ノ沒收ヲ言渡スヘキ場合ニアリ其一ハ第十九條第三號ニ依リ犯罪ニ因リ得タル物トシテノ沒收ノ言渡ヲ爲スヘキ場合ナリ此場合ニ於テハ犯罪行爲ニ共犯關係アル者ハ犯罪ニ因リ得タル物ニ對シ亦責任アリト云フヲ得ヘキヲ以テ沒收刑(附加刑)ハ各共犯者ニ對シ言渡サルヘシ然レトモ其執行ヲ受クル者ハ獨リ其物ヲ所持スル者ニ限ル其二ハ犯罪ノ成立ニ關係ナク收受シタル賄賂ヲ沒收スヘキ場合ナ

リ此場合ニハ收受シタル賄賂ノ沒收ハ必スシモ收賄罪ト運命ヲ共ニスルモノ  
ニアラサレハ收賄罪ノ共犯者(正犯、教唆者、從犯)ト雖モ賄賂ヲ收受セサル者ハ沒  
收若ハ追徴ノ言渡ヲ受クヘキモノニアラス  
然レトモ之ニ反シテ數人カ一團トシテ賄賂ヲ收受シタル以上ハ其現ニ之カ分  
配ヲ受ケ又ハ其内現ニ消費シタル額如何ニ拘ラス一團タル數人ハ其收受シタ  
ル賄賂全部ニ付キ沒收若ハ追徴ノ言渡ヲ受クヘキモノトス

### 第二節 職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪

職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪ニ依ル強要罪

#### 第一款 職權濫用ニ依ル強要罪

本罪ハ第二百二十三條強要罪ノ一變體ニ外ナラス第二百二十三條ノ強要罪ニ在  
リテハ暴行又ハ脅迫ヲ用ヒ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フヘキ權利ヲ  
妨害スル所ノ所爲ヲ罰スルモノナルモ本罪ニ在リテハ公務員カ其職權ヲ濫用シ  
人ヲシテ義務ナキコトヲ行ハシメ又ハ行フヘキ權利ヲ妨害スルノ所爲ヲ罰スル  
モノナリ故ニ此兩者ノ異ナル所ハ主トシテ犯罪ノ手段ニ在ルモノトス即チ一般

強要罪ノ場合ニ在リテハ其強要ノ手段ハ暴行又ハ脅迫ナルニ反シ本罪ノ場合ニ  
於テハ強要ノ手段ハ職權濫用ナリ故ニ強要罪ニ於テ第一法益及被害者第二強要  
罪ヲ構成スル所爲ニ付キ説明シタル所ハ之ヲ本罪ノ説明ニ援用ス唯茲ニ説明ヲ  
要スヘキハ本罪ノ手段タル職權ノ濫用トハ如何ナル意義ヲ有スルヤニ在リ職權  
濫用ノ意義ヲ明ナラシムルニハ先ツ職權ノ意義ヲ明ニシテ其濫用ノ意義ヲ  
説明スルヲ便トス職權トハ職務ニ附隨スル權限ニシテ之ヲ有スル者カ其權能ニ  
基キ人ニ對シ利益又ハ不利益ヲ加フルコトヲ得ル權限ナリ即チ人ニ對シ利益又  
ハ不利益ヲ加フルコトヲ得ル職務上ノ權能ハ即チ職權ナリ而シテ職權濫用トハ  
公務員カ其有スル職務上ノ權能ヲ行使スルニ外ナラサレトモ權能ノ行使ヲ爲ス  
ヘキ法定ノ條件ヲ具備セサルニ拘ラス之ヲ行使スルヲ謂フ職權濫用ハ行爲タル  
ヲ得ヘク又不行爲タルコトヲ得ヘシ  
職權濫用ト職權ヲ濫用スヘシトノ脅迫トハ同シカラス職權濫用カ強要罪ノ手段  
タルコトヲ得ルト同時ニ職權ヲ濫用スヘシトノ脅迫モ亦強要罪ノ手段タルヲ得  
ヘシ然ルニ我法律ハ公務員カ其職權ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキコトヲ行ハシメ

刑法各論 本論 國家ノ法益ニ對スル罪 強要罪 職權濫用ニ依リ  
一個人ノ法益ヲ害スル罪

又ハ行フヘキ權利ヲ妨害スル行爲ヲ罰スルモ公務員カ其職權ヲ濫用スヘシトノ脅迫ヲ加ヘ因テ人ヲシテ義務ナキコトヲ行ハシメ又ハ行フヘキ權利ヲ妨害スル行爲ヲ罰スルノ規定ヲ設ケス此場合ニ於テハ普通ノ強要罪ヲ以テ處斷スルノ外ナキカ

職權濫用ニ依ル逮捕監禁罪

第二款 職權濫用ニ依ル逮捕監禁罪

本罪ハ第二百二十條逮捕及監禁ノ罪ノ變體ニシテ逮捕及監禁ニ關スル罪ニ付キ第一逮捕及監禁罪ノ法益及被害者第二逮捕及監禁ヲ構成スヘキ所爲ニ付キ説明シタル所ハ之ヲ本罪ノ説明ニ採用ス又本罪ノ逮捕監禁ノ手段タル職權濫用ノ意義如何ニ付テハ前款ニ於テ説明シタル所ナレハ之ヲ茲ニ採用ス唯注意スヘキハ法文ニ所謂裁判ノ職務ヲ行フ者トハ單ニ刑事事件ノ裁判ヲ行フヘキ者ノミヲ指スカ如キモ民事裁判ニ於テモ證人ヲ拘禁シ又ハ破産者ヲ監守又ハ引致ヲ命シ又審問ヲ妨ケ又ハ不當ノ行爲ヲ爲ス者ヲ勾留スルコトヲ得ルカ故ニ民事事件ノ裁判ヲ行フヘキ者ヲモ包含ス又獨リ通常裁判所ノミナラス特別裁

判所ノ裁判等モ亦法文ノ所謂裁判ナリ又警察ノ職務ヲ行フ者トハ獨リ司法警察ノ職務實行ニ關シ人ヲ逮捕シ若ハ監禁スル職權ヲ有スル者ノミナラス行政警察ノ職務實行ヲ爲ス爲メ人ヲ逮捕シ若ハ監禁スルノ職權ヲ有スル者ヲモ包含スルモノトス

職權濫用ニ依ル暴行又ハ凌虐ヲ爲ス

第三款 職權濫用ニ依ル暴行又ハ凌虐ヲ爲ス罪

裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者ノ如何ニ付テハ前款ニ於テ説明シタル所ノ如シ法令ニ依リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者トハ被拘禁者ニ對シ實力支配ヲ行フ當該公務員ヲ謂フ暴行トハ身體ニ對スル暴行ノミヲ指稱スルモノニシテ物ニ對スル暴行ハ之ヲ包含セス身體ニ對スル暴行トハ人ノ身體ニ對スル不法ノ處置ナリ別言スレハ人ノ身體ニ對スル不法ナル攻撃ナリ暴行ノ意義ニ付テハ詳細ハ身體ニ對スル罪ニ付キ説明シタル所ヲ參照スヘシ凌虐ノ行爲トハ暴行以外ノ所爲ヲ以テスル人ニ對スル苛酷ナル處置ト解スヘキナリ暴行又ハ凌虐ノ行爲ハ行爲者自ラ之ヲ爲ス場

刑法各論

本論 國家ノ法益ニ對スル罪 沒職罪 職權濫用ニ依リ 一個人ノ法益ヲ害スル罪

合ハ勿論上官カ其下僚ニ命シテ之ヲ爲サシムルトハ共ニ擇フ所ナシ  
職權濫用ニ依ル暴行又ハ凌虐ノ所爲ノ内容ハ裁判檢察警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之  
ヲ補助スル者カ斯ル行爲ヲ爲シタル場合ト被拘禁者ヲ看守又ハ護送スル者カ被  
拘禁者ニ對シ暴行又ハ凌虐ノ行爲ヲ爲ス場合トニ依リ同シカラス左ニ之ヲ區別  
シテ説明スヘシ

第一 裁判檢察警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者カ暴行又ハ凌虐ヲ爲ス所  
爲 此種ノ公務員カ刑事被告人其他ノ者ニ對シ加フヘキ暴行又ハ凌虐ニ付テ  
ハ二箇ノ場合ヲ想像スルヲ得ヘシ其一ハ被告人其他ノ者ヲシテ事實ヲ陳ヘシ  
ムル爲メ其手段トシテ暴行又ハ凌虐ノ所爲ヲ爲ス場合即チ審問ノ爲メ拷問ヲ  
行フ場合ニシテ其二ハ事實ノ審問ニ關係ナク公務員タル地位ニ在ルヲ奇貨ト  
シ暴行又ハ凌虐ノ行爲ヲ爲ス場合ナリトス

第二 看守又ハ護送スル者カ暴行又ハ凌虐ヲ爲ス所爲 看守又ハ護送スル者ハ  
事實審問ノ職權ナキカ故ニ被拘禁者ニ對シ加フル暴行又ハ凌虐ニ付テハ其一  
ハ職務ニ關係ナキ暴行又ハ凌虐ノ行爲ニシテ其二ハ被拘禁者カ獄則ニ違背シ  
タル爲メ懲戒ノ處分ヲ科スルニ際シ其相當トスル事實ニ反シ不相當ナル重キ  
懲戒ヲ與ヘ又ハ其懲戒ヲ執行スルニ當リ暴行ヲ加ヘ又ハ苛酷ナル方法ヲ以テ  
之ヲ實行スル行爲ノ如シ

職權濫用  
逮捕監禁  
又ハ暴行  
凌虐ニ因  
ル致死傷  
ノ罪

第四款 職權濫用逮捕監禁又ハ暴行凌虐ニ  
因ル致死傷ノ罪

逮捕監禁ニ因ル致死傷ニ付テハ既ニ逮捕監禁罪ニ付テ説明シタル所ニ同シ又暴  
行凌虐ニ因ル致死傷ニ付テハ既ニ身體ニ對スル罪ニ付キ説明シタルトキコロニ  
讓ル

第四章 國權ニ對スル罪

國家ノ意思ハ國家ノ直接又ハ間接ノ機關タル公務員ニ依リ實行セラル、モノナ  
リ茲ニ於テ國家ハ公務員ノ公務ノ執行ヲ妨害スル罪ヲ規定シ國家ノ意思ノ實行  
ヲ確保スルノ必要アリ此罪ハ國家ノ機關タル公務員ニ對シ行ハル、行爲ニ外ナ  
ラサレトモ國家ノ意思ノ實行ヲ妨害スル行爲トシテ結局國家ノ權力其モノニ對  
スル侵害ニ外ナラサレハ多數ノ立法例ハ此罪ヲ以テ國家ノ權力ニ對スル罪ナリ

國權ニ對  
スル罪

ト規定ス而シテ多數ノ學者モ亦此見解ニ從フ

公務員ニ依テ爲サル、國家ノ意思ノ實行ハ過去、現在及未來ノ三箇ニ分テ之ヲ觀察スルコト得ヘシ從テ國權ニ對スル罪モ之ヲ過、現、未ノ三種ニ分チ之ヲ説明スルコトヲ得ヘシ即チ一ハ未タ公務員カ公務ノ實行ヲ爲サ、ルニ當リ之ヲ妨害スルノ行爲ニシテ其二ハ公務ノ實行中ノ妨害スルノ行爲ニシテ其三ハ既ニ爲シタル公務(處分)ニ對シ妨害ヲ加フルノ行爲ナリ公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシメ又ハ爲サ、ラシムル爲メニ暴行又ハ脅迫ヲ加フルカ如キハ其一ニ屬シ、公務員ノ公務ノ實行中ニ抗拒スルカ如キハ其二ニ屬シ、公務員ノ爲シタル處分例ハ差押ノ標目、封印ヲ破リ又ハ被拘禁者ヲ逃走セシムルカ如キハ其三ニ屬ス

我刑法第二編第五章ニ於テ公務ノ執行ヲ妨害スルノ罪ヲ定ムト雖モ其内容ヲ見レハ其一(未タ爲サス)及其二(現ニ爲シツ、アル)公務執行妨害罪ハ之ヲ規定シタルモノト解スルヲ得ヘシト雖モ其三(既ニ爲シタル處分)ニ對スル公務執行妨害罪ハ僅ニ封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞又ハ之ヲ無効ナラシムルノ罪ヲ規定シタルニ過キス而シテ我刑法第二編第六章逃走ノ罪ノ全部及第七章犯人藏匿及證據ノ湮滅罪

中拘禁中逃走シタル者ヲ藏匿又ハ隱避セシムル罪ト如キモ其性質ヲ究ムレハ公務執行妨害罪ニ屬スヘキモノタルナリ

我刑法ノ規定中公務執行妨害罪ハ之ヲ大別シテ第一公務執行中公務員ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加フル罪、第二公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシメ若ハ爲サ、ラシメ又ハ其職ヲ辭セシムル爲メ其公務員ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加フル罪、第三公務員ノ爲シタル處分ニ對スル罪ノ三ト爲スコトヲ得ヘシ

- 第一 公務執行中公務員ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加フル罪
- 第二 公務員ヲシテ或行爲ヲ爲サシメ又ハ爲サ、ラシムル爲メ又ハ其職ヲ辭セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ加フル罪
- 第三 公務員ノ爲シタル處分ニ對スル罪

### 第一節 公務執行中公務員ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加フル罪

公務執行中公務員ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加フル罪ノ客體ハ公務員ナリ然レトモ公務實行中ノ公務員ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加フルノ所爲ハ悉ク本罪ヲ構成スル

中公務執行  
ニ對シ暴行  
又ハ脅迫  
ヲ加フル  
罪

刑法各論

本論 國家ノ法益ニ對スル罪 國權ニ對スル罪 公務執行中公務員  
ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加フル罪





カ如ク公務ヲ實行セシメンカ爲メ公務員ニ暴行又ハ脅迫ヲ加フルコトヲ以テ此罪ノ特色ト爲ス而シテ此罪ハ其性質ヨリスレハ強要罪ノ一種ニ屬スルモノニシテ我刑法ノ規定スル所ニ依レハ行爲者カ公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシメ若ハ爲サ、ラシムル爲メ又ハ其職ヲ辭セシムル爲メ公務員ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加フルニ依リテ成立スルモノナリ而シテ其暴行又ハ脅迫ハ國家權力ノ行使タル職務ニ關シテ爲スモノナルカ故ニ此罪ハ國家ノ權力其モノヲ侵害スルノ行爲ヲ處罰スルモノトス

此罪ノ客體ハ公務員タルコト公務實行中ノ公務員ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加フル罪ト同一ナリ而シテ其異ナル所ハ此罪ノ客體タルヘキ公務員カ現ニ職務ヲ實行シツ、アル者ニアラサルコトノ一事ナリ

此罪ヲ構成スヘキ行爲ハ公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシムル爲メ又ハ其職ヲ辭セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ加フルニ在リ

本罪ハ公務員ヲシテ或處分ノ爲サシメ若ハ爲サ、ラシムル爲メ又ハ其職務ヲ辭セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ加フルニ依リ成立スルモノニシテ其結果トシテ公

務員カ或處分ヲ爲シ若ハ處分ヲ爲スコトヲ止メ又ハ辭職ヲ爲シタルコトヲ必要トセス故ニ本罪ハ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキ直ニ既遂ト爲ルヘキモノトス尙ホ茲ニ注意ヲ要スヘキハ本章ノ罪ハ特別罪ナルカ故ニ縱令此罪ヲ構成スヘキ所爲カ同時ニ一般強要罪ノ構成要件ヲ充タスコトアルモ本章ノ罪ヲ構成スルニ過キス第五十四條ヲ適用シテ處斷スヘキモノニアラス

### 第三節 公務員ノ爲シタル處分ニ對スル罪

公務執行ハ公務執行中及實行前ノミナラス其實行後ニ於テモ之ヲ妨害シ得ヘキコトハ前既ニ説明シタルカ如シ公務員ノ爲シタル處分ニ對スル罪ノ如キハ公務實行後ニ於テ公務實行ヲ妨害スル罪ニ屬ス我刑法ノ定ムル公務員ノ爲シタル處分ニ對スル罪ハ(一)封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ之ヲ無効ナラシムル罪、(二)逃走ノ罪ノ二ト爲ヌヲ得ヘシ而シテ逃走ノ罪ハ(イ)被拘禁者ノ逃走罪、(ロ)被拘禁者ヲ逃走セシムル罪、(ハ)右二罪ノ未遂罪、(ニ)逃走シタル被拘禁者ヲ藏匿又ハ隱避セシムル罪ノ四ト爲ヌコトヲ得

#### 第一款 封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ又ハ其

刑法各論

本論 國家ノ法益ニ對スル罪 國權ニ對スル罪 公務員ノ爲シタル處分ニ對スル罪

公務員ノ爲シタル處分ニ對スル罪

封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ又ハ其

### 他ノ方法ヲ以テ無効ナラシムル罪

封印又ハ差押ノ標示ハ或ハ公法上ノ目的ヲ達スル爲メ施サル、コトアルヘシ又私法上ノ目的ヲ達スル爲メ之ヲ施スコトアリ然レトモ公法上ノ目的ヲ達スル爲メ施サル、ト又私法上ノ目的ヲ達スル爲メ施ザル、トヲ問ハス封印又ハ差押ヲ爲スノ處分ハ公務員カ職務實行トシテ爲スヘキ處分ニシテ國權ノ作用ニ外ナラス

公務員カ其職務ノ實行トシテ施シタル封印又ハ差押ノ標示タルコトヲ要ス又封印又ハ差押ノ標示ヲ施シタルハ公務員ナリトスルモ公務員ハ封印又ハ差押ノ標示ヲ施スニ付キ抽象的權限及具體的權限ナキカ又ハ斯ル所爲ヲ爲スニ付キ法律上ノ條件方式若ハ範圍ニ關スル規定アル場合ニ於テ之ニ適合セサルトキハ私人ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ト異ナル所ナシ

法律上保護セラルヘキ封印又ハ差押ノ標示ハ其有效ナル場合ニ限ル無効ニアラサル封印又ハ差押ノ標示ハ縱令不當ナルカ爲メ取消サルヘキモノナルニモセヨ取消サレサル前ニ於テ之ヲ損壞又ハ其他ノ方法ニ依リ無効タラシムルトキハ本罪ヲ構成ス

### 罪ヲ構成ス

本罪ハ封印又ハ差押ノ標示ヲ無効ナラシムルノ行爲ヲ爲スニ依リ成立ス封印又ハ差押ノ標示ノ損壞ノ如キハ封印又ハ差押ノ標示ヲ無効タラシムル行爲ノ最も顯著ナル一例ニ過キス其他ノ方法ヲ以テスル封印又ハ差押ノ標示ヲ無効タラシムルノ行爲トハ例ハ箆筒在中ノ衣類ノ差押ヲ爲スカ爲メ其抽斗ニ封印シタル場合ニ於テ封印ヲ其儘存シ箆筒ヲ破壞シテ衣類ヲ取出シタル場合ニ於テハ封印ヲ無効タラシムル行爲ナリトスヘキカ如シ

### 第二款 逃走ノ罪

我刑法ニ所謂逃走トハ被拘禁者ノ逃走ヲ謂フ而シテ我刑法所定ノ被拘禁者ナル觀念ハ單一ナラス第五十七條ニ於テハ既決及未決ノ囚人ヲ以テ被拘禁者ト爲シ第九十八條ニ於テハ既決未決ノ囚人並ニ拘引狀ノ執行ヲ受ケタル者ヲ以テ被拘禁者ト爲シ又第九十九條ニ於テ汎ク法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ以テ被拘禁者ト爲ス故ニ我刑法ニ於ケル逃走罪ノ主體タル被拘禁者ノ定義ヲ與フルハ頗ル困難ナリト雖モ大略左ノ如ク謂フヲ得ヘキカ

被拘禁者トハ國家ノ權力ニ基キ國家ノ機關タル公務員ニ依リ其自由ヲ剝奪セラレ管轄官廳ノ實力支配ノ下ニ在ル者ヲ謂フ

右述フルカ如ク被拘禁者ハ管轄官廳ノ實力支配ノ下ニ在ルコトヲ要スルカ故ニ假出獄者並ニ保釋責付中ニ在ル者ノ如キハ被拘禁者ニアラス  
刑法第二編第六章逃走罪ハ被拘禁者ノ逃走スル行為及第三者カ被拘禁者ヲ逃走セシムル行為トヲ合セテ規定シタルモノナリ被拘禁者ノ逃走スル行為トハ公務員ノ處分ニ因リ自由ヲ剝奪セラレタルモノカ管轄官廳ノ實力支配ヨリ脱スルヲ謂フモノニシテ第三者カ被拘禁者ヲ逃走セシムル行為トハ被拘禁者以外ノ者カ公務員ノ處分ニ因リ自由ヲ剝奪セラレタル者ヲ管轄官廳ノ實力支配ヨリ脱セシムルヲ謂フ而シテ被拘禁者ノ逃走スル行為ナルト又第三者カ被拘禁者ヲ逃走セシムル行為ナルトヲ問ハス此行為ハ國家ノ權行使トシテ國家ノ機關カ一個人ニ對シ爲シタル自由剝奪處分ヲ妨クルモノナリ左レハ此罪ハ國家機關ニ對スレテ攻撃ナリト云フヲ得ヘク又公務員ノ爲シタル處分ニ對スル侵害ナリト云フヲ得ヘシ

被拘禁中逃走シタル者ヲ藏匿シ又ハ隱避セシムル罪ハ我刑法第二編第七章犯人藏匿及證憑湮滅ノ罪ノ中ニ規定スルモ其性質ヨリスレハ逃走ノ罪ノ一種ニ外ナラサルナリ

逃走ノ罪ハ之ヲ(一)被拘禁者ノ逃走罪(二)被拘禁者ヲ逃走セシムル罪(三)未遂罪(四)逃走シタル被拘禁者ヲ藏匿又ハ隱避セシムル罪ノ四ト爲スコトヲ得

第一 被拘禁者ノ逃走罪 被拘禁者ノ逃走罪ハ之ヲ分テ單純ナル逃走罪及重キ

逃走罪ノ二種ニ分ツヘキコト既ニ述ヘタルカ如シ此兩罪ハ主體及行為ニ付キ同シカラサル所アルヲ以テ之ヲ區別シテ説明スルヲ便トス

一 單純ナル逃走罪 本罪ノ主體ハ既決ノ囚人及未決ノ囚人ノ二者ナリ既決ノ囚人トハ刑事上ノ確定判決ニ因リ自由ヲ奪ハレタル者ヲ謂フ故ニ自由刑ノ執行トシテ自由ヲ拘束セラル、者ハ勿論死刑ノ言渡ヲ受ケタル者其判決確定後死刑執行マテ拘禁セラル、者及判決執行ノ爲メ逮捕狀ニ因リ逮捕セラレタル者ハ其既ニ監獄ニ收容セラレタルト否トヲ問ハス之ヲ既決ノ囚人ト云フヘシ

刑法各論

本論 國家ノ法益ニ對スル罪 國權ニ對スル罪 公務員ノ爲シタル處分ニ對スル罪

未決ノ囚人トハ刑事事件ノ爲メ判決確定前被告人トシテ自由ヲ奪ハレ當該  
 公務員ノ實力的支配ニ存スル者ヲ謂フ刑事事件ニ付キ被告人トシテ自由ヲ  
 剝奪セラレタル者當該公務員ノ實力支配ニ服スル者タル以上ハ未タ監獄ニ  
 拘禁セラレサル者ト雖モ悉ク之ヲ未決ノ囚人ナリト云フヲ得ヘシ  
 既決未決ノ囚人ノ逃走罪ハ既決未決ノ囚人カ管轄官廳又ハ當該公務員ノ實  
 力支配ヲ脱スルニ依リテ成立ス法文ノ所謂逃走トハ必スシモ現實ニ逃走ス  
 ルコトヲ要セス被拘禁者ニシテ當該公務員ノ實力支配ヲ脱スルノ行爲ヲ爲  
 シタルトキハ此罪ヲ成立スルモノトス

此罪ハ實力支配ヲ脱スルニ依リテ成立スルモノナルカ故ニ監獄ノ如キ有形  
 的設備ヲ以テ實力支配ヲ行フ場合ニ在リテハ被拘禁者カ獄外ニ脱出スルニ  
 依リ成立ス又實力支配カ人ニ依リテ行ハル、場合例ハ看守又ハ護送者ニ依  
 テ行ハル、場合ニ於テハ看守又ハ護送者ノ實力支配ヲ脱出スルト同時ニ本  
 罪ハ既遂ト爲ル尙ホ終リニ注意ヲ要スヘキハ天災事變ニ際シ在監者ヲ一時  
 解放シタル場合ニ於テ解放セラレタル者カ解放後二十四時間内ニ監獄署又

ハ警察署ニ出頭セサルトキハ刑法第九十七條ニ依リ處斷セラルヘキモノト  
 ス

二 重キ逃走罪 本罪ノ主體ハ既決ノ囚人未決囚人及拘引狀ノ執行ヲ受ケタ  
 ル者ノ三種ナリ既決ノ囚人及未決ノ囚人ニ關シテハ之ヲ前段ニ於テ説明シ  
 タル所ト異ナラス而シテ拘引狀ノ執行ヲ受ケタル者トハ刑事事件以外ノ事  
 由ニ因リ拘引狀ノ執行ヲ受ケタル者ヲ指稱スルモノトス  
 既決未決ノ囚人又ハ拘引狀執行ヲ受ケタル者カ(一)拘禁場又ハ械具ヲ損壞シ  
 逃走シタル行爲(二)當該公務員ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シ逃走スル行爲(三)  
 二人以上通謀シ逃走スル行爲ノ中其一アルトキハ本罪ハ成立ス左ニ簡單ニ  
 以上ノ行爲ニ付キ説明スヘシ

(イ) 拘禁場又ハ械具ヲ損壞シ逃走スル行爲 拘禁場トハ監獄ハ勿論裁判所  
 警察署等ノ留置場ノ如キ苟モ被拘禁者ヲ拘禁スルノ用ニ供セラル、房室  
 ハ悉ク之ヲ拘禁場ト云フヘシ又拘禁場ノ意義中ニハ雨戸、格子等ハ勿論拘  
 禁場ヲ閉鎖スルノ用ニ供セラル、鎖鑰ヲモ包含ス故ニ斯ル物件又ハ鎖鑰

等ヲ損壞シテ逃走シタルトキハ本罪ヲ構成ス又械具トハ監獄法施行規則第十八條ニ定メタル窄衣、鉢、手錠、聯鎖、捕繩ノ五種ナリ故ニ是等五種ノ物ノ中其一ヲ損壞シテ逃走シタルトキハ本罪ヲ構成ス

(ロ) 當該公務員ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シ逃走スル行爲 法文ニ暴行、脅迫ヲ爲シトアルハ之ヲ看守又ハ護送スル者ニ對スル暴行又ハ脅迫ト解釋スヘキモノトス

(ハ) 二人以上通謀ニ依リ逃走スル行爲 二人以上通謀トアルカ故ニ偶然ニ人カ同時ニ逃走シタル事實アルモ以テ足レリトセス二人以上カ逃走セント通謀シタル事實アルコトヲ要ス

第二 被拘禁者ヲ逃走セシムル罪 本罪ハ第三者カ國家ノ權力ニ依リ自由ヲ剝奪セラレタル被拘禁者ヲ國家ノ實力支配ヨリ離脱セシムルノ行爲ヲ爲スニ依リ成立ス而シテ我刑法力之ニ關シテ定ムル罪ハ之ヲ分チ(一)被拘禁者ヲ奪取スル罪、(二)被拘禁者ノ逃走ヲ幫助スル罪、(三)看守又ハ護送スル者カ被拘禁者ヲ逃走セシムル罪ノ三ト爲スコトヲ得

一 被拘禁者ヲ奪取スル罪 本罪ノ客體ハ法令ニ因リ拘禁セラレタル者ナリトス法令ニ因リ拘禁セラレタル者トハ既決ノ囚人、未決ノ囚人、拘引狀ノ執行ヲ受ケタル者ハ勿論其他法令ニ因リ自由ヲ剝奪セラレ當該公務員ノ實力支配ノ下ニアル總テノ者ヲ含ム法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ奪取ストハ被拘禁者ヲ當該公務員ノ實力支配ノ下ヨリ一時奪取スルヲ謂フ其之ヲ奪取スルノ方法ハ暴行又ハ脅迫ニ出ツルト若ハ詭計ニ出ツルト將其他ノ方法ニ出ツルトヲ問ハス

被拘禁者ヲ奪取ストハ管轄官署又ハ當該公務員ノ實力支配ノ下ニアル被拘禁者ヲ其實力支配ヨリ離脱セシムルノ行爲ヲ謂フモノニシテ敢テ行爲者カ被拘禁者ヲ自己又ハ第三者ノ實力支配ノ下ニ移スコトヲ必要トセサルモノト解スルヲ以テ法律ノ精神ヲ得タルモノ、如シ

本罪ハ奪取ノ行爲アリタルトキ既遂ト爲ルヘキモノニシテ被拘禁者カ之ニ因リ逃走シタルト否トハ問フ所ニアラス

二 被拘禁者ノ逃走ヲ幫助スル罪 被拘禁者ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ之ヲ

刑法各論 本論 國家ノ法益ニ對スル罪 國權ニ對スル罪 公務員ノ爲シタル處分ニ對スル罪

幫助スルノ行爲ハ(一)器具ヲ給與シ其他逃走ヲ容易ナラシムヘキ行爲、(二)同一ノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ加フル行爲ノ二ト爲スコトヲ得而シテ本罪ハ被拘禁者ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ被拘禁者ノ逃走ヲ容易ナラシムヘキ行爲又ハ暴行、脅迫ヲ爲シタルトキハ直ニ本罪ヲ構成スヘキモノニシテ被拘禁者カ之ニ因リテ逃走シタルト否トハ問フ所ニアラス

三 看守又ハ護送スル者カ被拘禁者ヲ逃走セシムル罪 本罪ハ被拘禁者ヲ看守又ハ護送スル者ニ限り之ヲ犯シ得ヘキモノトス即チ被拘禁者ニ對スル實力カ支配ヲ行フ當該公務員ニ限り本罪ノ主體タルコトヲ得ルモノトス尤モ一私人ト雖モ法令ニ因リ被拘禁者ヲ護送セシムル場合ニハ本罪ノ主體タルコトヲ得ルハ論ヲ竣タス

本罪ヲ構成スヘキ行爲ハ(一)消極的ニ被拘禁者ヲ逃走セシムル行爲、(二)積極的ニ被拘禁者ヲ逃走セシムル行爲即チ積極的行爲ニ依リ被拘禁者ニ逃走ノ便利ヲ與フルノ行爲ノ二ト爲スコトヲ得

第三 被拘禁者ノ逃走罪及被拘禁者ヲ逃走セシムル罪ノ未遂罪 被拘禁者ノ逃

逃走罪ハ前述スルカ如ク當該公務員ノ實力支配ヲ脱スルニ依リ成立スルモノナレハ實力支配ヲ脱セントシテ之ニ著手シタルトキハ未遂罪ヲ構成スヘキモノトス被拘禁者ヲ逃走セシムル所爲ニ付テハ之ヲ區別シテ説明セサルヘカラス被拘禁者ヲ奪取スルノ罪及被拘禁者ノ逃走ヲ幫助スル罪ニ付テハ縱令被拘禁者カ逃走セサルモ行爲者カ奪取又ハ逃走幫助ノ行爲ヲ爲シタルトキハ是等ノ罪ノ既遂ト爲ルヘキモノニシテ行爲者カ奪取又ハ幫助ノ行爲ニ著手スルモ未タ遂ケサルトキハ未遂罪ヲ構成スヘキモノトス看守又ハ護送スル者カ被拘禁者ヲ逃走セシムル罪ハ被拘禁者カ之ニ因リ逃走シタル時ヲ以テ既遂ト爲ルヘキモノトス而シテ看守又ハ護送スル者カ積極又ハ消極ノ行爲ヲ以テ被拘禁者ヲ逃走セシムヘキ行爲ニ著手シタルトキハ未遂罪ヲ構成スヘキモノトス

第四 逃走シタル被拘禁者ヲ藏匿又ハ隱避セシムル罪 本罪ハ逃走罪ノ事後從犯ト稱スヘキモノナリ其犯罪ノ性質ハ逃走罪ト異ナル所ナシ然レトモ本罪ノ詳細ハ犯人藏匿罪及證據湮滅罪ノ説明ノ際ニ譲ラン

### 第五章 國家ノ立法、行政ニ對スル罪

國家ノ立法ニ對スル罪

刑法各論 本論 國家ノ法益ニ對スル罪 國家ノ立法、行政ニ對スル罪

一個人ノ意思活動ヲ保護スル必要アルカ如ク國家ノ意思活動ヲ保護スルノ必要アリ國家ノ意思活動即チ國家ノ動作ハ之ヲ大別シテ立法及行政ノ二ト爲スコトヲ得法律ハ立法及ヒ行政ノ動作ヲ適當ニ保護センカ爲メ一面瀆職罪ヲ規定シ立法及行政ノ事務ヲ實行スルノ任ニ當ル當該公務員ノ職務行爲ニ關シ不都合アルヘカラサルコトヲ定メ又他ノ一面ニ於テ國權ニ對スル罪ヲ規定シ何人モ公務員ノ職務ノ實行ニ關シ其職務ノ實行前ナルト實行中ナルト又其實行後ナルトヲ問ハス之ニ妨害ヲ與フヘカラサルコトヲ定メタリ然レトモ立法及行政ニ關スル國家ノ動作ヲ適當ニ保護セントスルニハ瀆職罪及國權ニ對スル罪ヲ規定スルヲ以テ足レリト爲サズ茲ニ於テカ各國ハ法律ヲ以テ立法及行政ニ關スル國家ノ動作ニ妨害ヲ與フヘキ諸般ノ所爲ヲ禁止シ且斯ル動作ヲ爲スニ必要ナル行爲ヲ爲スヘキコトヲ命令シ且之ニ違反スル者ニ對スル相當ナル刑罰ヲ規定スルニ至レリ斯ノ如キ禁止ニ背キ又ハ命令ヲ違奉セサル罪之ヲ總括シテ國家ノ立法及行政ニ對スル罪ト指稱スルヲ得我國ニ於テハ立法及行政ニ對スル罪ニシテ刑法典ニ規定アルハ獨リ裁判ニ關スル罪ニ限ル其他ノ立法、行政ニ對スル罪ハ之ヲ特別法ニ

國家ノ裁判ニ對スル罪

讓レリ蓋裁判ニ對スル罪ハ此種ノ規定中最モ古キ歴史ヲ有シ且最モ重要ナル地位ヲ占ムルニ基クカ爲メナラン

余ハ國家ノ立法及行政ニ對スル罪ヲ第一、裁判ニ對スル罪第二、特別法ニ定ムル國家ノ立法及行政ニ對スル罪ト爲シ説明ヲ爲サントス

第一節 國家ノ裁判ニ對スル罪

我刑法ニ於テ規定セラル、國家ノ裁判ニ對スル罪ハ第一、誣告罪第二、偽證罪第三、犯人藏匿罪第四、證據湮滅罪第五、裁判事務ニ關シ義務ヲ怠ル罪ノ五ナリ之ヲ圖示スレハ左ノ如シ

誣告罪

偽證罪

裁判ニ對スル罪 犯罪者又拘禁中逃走シタル者ヲ藏匿又ハ隱避スル罪

刑事事件ノ證據ヲ湮滅スル罪

裁判事務ニ關シ義務ヲ怠ル罪

第一款 誣告罪

誣告罪

刑法各論

本論 國家ノ法益ニ對スル罪 國家ノ立法、行政ニ對スル罪 國家ノ裁判ニ對スル罪

誣告トハ行爲者カ人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虚偽ノ事實タルコトヲ知リナカラ當該官署ニ對シ虚偽ノ申告ヲ爲スヲ謂フ即チ虚偽ノ事實ヲ官署ニ申告シ以テ裁判事務ヲシテ不適正ナル進行ヲ始メシメ若ハ始メシムヘキ處アル行爲ナリ

誣告罪ニ依リ直接侵害ヲ被ムルモノハ國家ノ裁判事務ナリ而シテ一個人カ此罪ニ依リ被ムルヘキ害惡ハ裁判事務ヲ侵害シタル結果ニ過キス左レハ縱令誣告罪ニ依リテ一個人カ自由名譽若ハ其財産權ヲ侵害セラレ、コトアルモ是レ間接ニ侵害ヲ被ムルニ過キス以上ノ見解ノ當然ノ結果トシテ被誣告者カ虚偽ノ申告ヲ爲スニ付キテ承諾ヲ與フルト否トノ事實ハ誣告罪ノ成否ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ

誣告罪ノ客體ハ生存スル特定人ナラサルヘカラス尤モ法人カ罰セラルヘキ場合ニ於テハ法人モ亦本罪ノ客體タルコトヲ得ヘシ尙ホ法律ハ人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虚偽ノ申告ヲ爲シタル者ト規定シタルヲ以テ行爲者自身カ犯罪者ナリト自首ヲ爲スモ罪ト爲ラス蓋斯ノ如キ行爲ヲ爲スモノ

稀有ナリトノ理由ニ由テ規定セザリシモノナルヘシト雖モ斯ル行爲ヲ罰スルノ必要アルヤ否ヤハ別論ニ屬ス

誣告罪ノ成立ニハ(一)被誣告者ヲ特定シ得ヘキコト(二)刑事若ハ懲戒ノ處分ヲ受クヘキ事實ヲ申告スルコト(三)申告セラレタル被申告者ノ所爲ハ客觀的虚偽ナル一定ノ所爲タルコトヲ要シ尙(四)本罪ハ申告アルヲ待テ其罪ヲ論スヘキモノナリ而シテ其申告スヘキ官吏ハ刑事處分若ハ懲戒處分開始ノ申立ヲ爲シ又自ラ懲戒處分ヲ爲シ得ヘキ職權アル當該官吏ナリ然レトモ行爲者ノ爲ス申告ハ斯ル官吏ノ屬スル官廳ニ直接ニ之ヲ爲スヲ必要トセス或ハ其官廳ノ機關ニ對シテ之ヲ爲スヲ得ヘク又或ハ他ノ官廳ニ對シ爲シタル場合ニ於テモ亦申告タル效力ヲ生スルコトアリ然レトモ當該官廳以外ニ對シ爲シタル申告ハ當該官廳ニ其申告カ到達スルニ至リテ始メテ申告タルノ效力ヲ生スルモノトス本罪ニ於ケル申告ハ必スシモ自ラ進テ之ヲ爲スコトヲ必要トセス故ニ行爲者カ自ラ進テ申告ヲ爲スト又ハ當該公務員ヨリ訊問ヲ受クルニ當リ他人ニ刑事又ハ懲戒處分ヲ受クヘキ行爲アリト陳述シタルトヲ問ハス

刑法各論 本論 國家ノ法益ニ對スル罪 國家ノ立法、行政ニ對スル罪 國家ノ裁判ニ對スル罪



行爲者ハ其申告シタル事實ハ虚偽ナルコトヲ知ルコトヲ要ス即行爲者ハ申告スル事實カ全然不實ナルコトヲ確信スルコトヲ必要トス故ニ本罪ノ成立ニハ不確定ノ故意アルヲ以テ充分ト爲サス確定ノ故意アルヲ必要トス左レト本罪ノ成立ニハ特ニ被申告者ヲ陷害スルヲ唯一ノ目的トシテ誣告ヲ爲スコトヲ必要トセス苟モ行爲者ノ爲シタル誣告ニ依リ被申告者カ陷害セラルヘキコトヲ確信シテ虚偽ノ申告ヲ爲シタル以上ハ行爲者ニ本罪アルモノト解釋スルヲ相當トス

誣告罪ハ何人ト雖モ之ヲ犯シ得ヘキモノトス唯之カ例外トシテ刑事又ハ懲戒ノ手續ヲ開始スヘキヤ否ヤニ付キ終局ノ職權ヲ行使スル者ハ此罪ヲ犯スコトヲ得ス

茲ニ疑問トスヘキハ數人共謀シテ誣告ヲ爲シタル場合ニ於テ共謀者中一人ノ誣告行爲ノ實行ハ共謀者全體ノ行爲ト看做スヘキヤ否ヤノ點ニ在リ元來誣告ハ申告ノ方法ニ何等ノ制限ナク匿名變名ニ依ルト又直接ニ當該官廳ニ對シ之ヲ爲スト間接ニ之ヲ爲ストハ犯罪構成ニ影響ナキモノナレハ共謀者ニ於テ誣告ニ共謀シタル以上ハ告訴狀若ハ告發狀ニ其内一人カ署名シタル場合ト何人モ署名セザ

ル場合ナルトヲ問ハス現ニ虚偽ノ申告カ當該官廳ニ到達シタル以上ハ各共謀者ハ實行正犯ナリト云ハサルヲ得ス

行爲者カ人ヲ殺スノ目的ヲ以テ若ハ人ノ自由ヲ剝奪スルノ目的ヲ以テ他人ニ關シ死刑又ハ自由刑ヲ受クヘキ犯罪行爲アリト虚偽ノ事實ヲ當該官廳ニ申告シタル場合ニ於テ被誣告者ニ對スル刑事事件カ開始セラレ行爲者豫期ノ如ク被誣告者ハ死刑ニ處セラレ又ハ自由ヲ剝奪セラレタル場合ニ於テハ誣告罪ト殺人若ハ逮捕監禁ノ罪トノ想像上ノ二罪アルモノトス然レトモ多數ノ場合ニ於テハ死刑又ハ勾引若ハ拘留ト誣告トノ間ニ原因結果ノ連結ヲ缺ク場合尠カラサルヘシ斯ル場合ニ於テハ容易ニ行爲者ニ殺人又ハ逮捕監禁ノ責アリト云フ能ハス

誣告罪ハ誣告ト同時ニ完成スルモノニシテ誣告アリタル後ニ之ヲ取消スモ誣告ヲ消滅スルニ足ラス然レトモ法律ハ誣告ニ依リ開始シタル裁判確定前又ハ懲戒處分前ニ誣告事實ヲ自白シタルトキハ刑ヲ輕減又ハ免除スヘキコトヲ得ヘキ旨ヲ定メタリ

偽證罪

第二款 偽證罪

刑法各論 本論 國家ノ法益ニ對スル罪 國家ノ立法、行政ニ對スル罪 國家ノ裁判ニ對スル罪

偽證罪ハ裁判所ニ對シ係争事件ニ付キ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默秘セス又何事ヲモ附加セサルコトヲ宣誓シタル證人カ虛偽ノ陳述ヲ爲ス所爲ヲ處罰スルモノトシテ本罪ノ本質ハ單ニ宣誓ニ背クノ罪ニアラスシテ證人カ虛偽ノ陳述ヲ爲スノ罪ナリトス

本罪ハ虛偽ノ陳述ヲ爲スノ所爲ヲ處罰スルモノナルカ故ニ眞實ヲ述フヘキ旨宣誓シタルニ拘ラス單ニ默秘シテ答ヘサルカ如キハ證言ヲ拒ムノ罪ヲ構成スルコトアルハ格別決シテ偽證罪ト爲ルコトナシ又本罪ハ宣誓ノ上虛偽ノ陳述ヲ爲スコトヲ必要トシタルカ故ニ宣誓ヲ以テ其既ニ爲シタル虛偽ノ陳述ノ眞正ナルコトヲ保證スルカ如キハ未タ偽證罪ト爲スニ足ラサルナリ

偽證罪ハ之ヲ分テ(一)證人ノ偽證罪及(二)鑑定人及通事ノ偽證罪ノ二ト爲ス

第一 證人ノ偽證罪 偽證罪ハ宣誓ヲ爲シタル證人カ虛偽ノ陳述ヲ爲スニ依リテ成立スルコト既ニ述ヘタルカ如シ左レハ本罪ノ行爲ハ之ヲ宣誓虛偽ノ陳述ノ二ニ分チ説明スルヲ便トス(一)本罪ノ要件タルヘキ宣誓ハ法律ニ定メタル場合ニ於テ當該官廳ニ對シテ爲シタル宣誓ヲ指稱ス故ニ若シ宣誓カ法律ニ依リ

定メタル場合ニアラサルカ又ハ法律ニ依リ定メタル場合ナルモ當該官廳ニ對シテ爲シタル場合ニアラサレハ偽證罪ニ必要ナル宣誓アリト云フヲ得ス茲ニ當該官廳ニ對シテ宣誓ヲ爲ストハ當該官廳ノ職務ヲ行使スヘキ當該公務員ニ對シ宣誓ヲ爲スヲ謂フ尙ホ茲ニ注意スヘキハ宣誓ヲ爲サシメタル當該官廳ハ一般的ニ宣誓ヲ爲サシムヘキ權限アルヲ以テ充分トシ具體的ニ其事件ニ付キ權限ヲ有スルコトヲ必要トセス故ニ事件カ管轄邊ニ歸シ又起訴ノ無效其他ノ事由ニ由リ公訴不受理ノ言渡ヲ爲スヘキ場合ト雖モ當該官廳カ一般的ニ宣誓ヲ爲サシムヘキ權限ヲ有シ其命令ニ基キ宣誓ヲ爲シタル以上ハ法文ニ所謂法律ニ依リ宣誓ヲ爲シタルモノト解セサルヲ得ス(二)虛偽ノ陳述ハ宣誓シタル證人カ事實ニ關スル虛偽ノ陳述ヲ爲スコトヲ必要トス故ニ(イ)虛偽ノ陳述ハ法律ニ從ヒ宣誓シタル後タルコト及(ロ)虛偽ノ陳述ハ事實ニ關スル陳述ナラサルヘカラサルコトニ注意スヘシ

證人ノ陳述カ果シテ虛偽ナルヤ否ヤヲ區別スルハ頗ル困難ノ問題ナリ余ハ證人ノ事實ニ關スル陳述カ虛偽ナルヤ否ヤヲ判別セントスルニハ其陳述ノ客體

カ(甲)客觀的事實關係ニ關スルヤ又ハ(乙)客觀的事實關係ニ對スル證人ノ智識ニ關スルヤノ二ニ區別シテ之カ結論ヲ異ニセサルヘカラサルモノト信ス

(甲) 陳述ノ客體カ客觀的事實ニ關スル場合 陳述ノ客體カ客觀的事實ニ關スル場合ニ在リテハ證人ノ陳述カ客觀的事實ニ一致セサル場合ニ限リ虛偽ノ陳述アルモノトス

(乙) 陳述ノ客體カ客觀的事實關係ニ對スル證人ノ智識ニ關スル場合 此場合ニ於テハ甲ノ場合ニ於ケルト全然反對ナル斷定ヲ爲サ、ルヲ得ス即チ證人カ其知ル所ニ反シ陳述ヲ爲シタル時ハ縱令其陳述カ客觀的事實即チ現ニ在リタル事實ニ符合スルモ偽證罪アリト爲サ、ルヲ得ス證人ノ智識ニ關スル偽證ハ虛構ニ基キ行ハル、コトアリ又ハ穩秘即チ不知ノ陳述ニ依リ行ハル、コトアリ尙ホ茲ニ注意ヲ要スヘキハ荷モ證人ニシテ宣誓ノ上虛偽ノ陳述ヲ爲ストキハ直ニ本罪ヲ構成スルモノニシテ其陳述カ裁判ニ影響ヲ及ホスヘキ重要ナル事實關係ニ對スルモノナルコトヲ必要トセス又其陳述自體カ裁判ニ影響ヲ及ホスヘキモノタルコトヲ必要トセサルナリ

偽證罪ハ荷モ犯罪ニ付キ責任能力アル以上ハ何人ト雖モ之ヲ犯スコトヲ得故ニ證人タルノ資格ナキ者ト雖モ荷モ犯罪ノ責任能力アル者ハ偽證罪ノ主體タルコトヲ得ヘシ證人タル資格ナキ者ハ通常裁判所ニ於テ之ヲ證人トシテ宣誓ヲ爲サシメサルカ故ニ是等ノ者カ偽證罪ヲ犯シ得ヘキヤ否ヤノ問題ヲ生スコト少ナシト雖モ若シ是等ノ者ヲ裁判所其他ノ官廳ニ於テ證人ノ資格アルモノト爲シ宣誓ヲ爲サシメタル上訊問シタル場合ニ於テハ證人カ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ本罪ヲ構成スルモノトス唯證人ノ資格ナキ者ニシテ十四歳未滿ニ係ルカ又ハ心神喪失者ニ係ルカ其他宣誓ノ何モノタルヲ解セサルカ其他行為者ニ責任能力アリト云フ能ハサル場合ニ限リ本罪ヲ構成スルコトナキナリ偽證罪ハ訊問及答辯ノ終結ヲ以テ完成スヘキモノトス法律カ偽證罪ヲ罰スル所以ハ之ニ因リ證據方法カ事實ニ反スルコト、爲リ其結果トシテ裁判ノ適正ヲ缺クニ至ルヲ以テナリ而シテ裁判上證言ヲ證據ト爲スヘキ場合ニ於テハ其爲シタル證言ヲ一括シ之ニ對シ判斷ヲ下スヘキモノナレハ其訊問及答辯カ終結セサル場合ニ於テハ未タ證據方法トシテ使用シ得ヘキ證言アリト云フコト

ヲ得ス又實質上ヨリスルモ證人ノ供述ハ相牽連スルモノニシテ其箇々ナル部  
分ヲ獨立シテ觀察スヘキモノニアラス又證人ニ於テ訊問ノ趣旨ヲ誤解スルコ  
トアルヘク或ハ誤テ眞意ニアラサルコトヲ陳述スルコトアルヘシ故ニ法律ハ  
證人ヲシテ訊問中ニ在リテハ何時ニテモ其陳述ヲ變更若ハ取消スコトヲ得セ  
シムルモノナリ(刑訴一三三、民訴一三三)是等ノ點ヨリ考フルトキハ訊問及答辯ノ終  
結セサル間ハ縱令陳述カ虛偽ニ涉ルモノアルモ未タ偽證罪ヲ完成セサルモノ  
ト解釋セサルヲ得ス然レトモ一旦訊問及答辯カ終結シタルトキハ之ト同時ニ  
偽證罪ヲ完成スヘキモノナルカ故ニ其後ニ至リ訊問ノ取消ヲ申立ツルモ一旦  
完成シタル犯罪ヲ消滅スル能ハサルコト言フ竝タス

偽證罪ヲ犯シタル者其證言シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前偽證シタ  
ル事實ヲ當該官署ニ自白シタルトキハ裁判所ハ或ハ普通ノ如ク刑ヲ量定シ或  
ハ其刑ヲ減輕シ或ハ其刑ヲ免除スルコトヲ得ルモノナリ

第二 鑑定人及通事ノ偽證罪

鑑定人及通事ノ偽證罪ハ證人ノ偽證罪ト相同シキ點甚タ多シ以下單ニ其異ナ

ル點ノミヲ説明スヘシ

一 鑑定人ノ偽證罪 鑑定人ノ偽證罪ハ鑑定人カ虛偽ノ鑑定ヲ爲スニ因リテ  
成立ス而シテ證人ノ偽證罪ト鑑定人ノ偽證罪ト異ナル點ハ證言ト鑑定トノ  
性質上ノ差異ニ基クモノトス

鑑定トハ學術、職業又ハ經驗等ニ依リ特別ナル智識ヲ有スル者カ現ニ裁判所  
又ハ當該官廳ヨリ實驗ヲ命セラレタル事物ニ付キ實驗ヲ爲シ因リテ得タル  
心證(確信)ノ供述ヲ謂フ鑑定人ノ心證(確信)ハ多クハ單ニ事物ノ實驗其モノニ  
アラスシテ學術、職業又ハ經驗等ニ依リ特別ナル智識ヲ有スル者カ其智識ヲ  
以テ實驗シタル事物ニ對シ判斷ヲ爲シ因テ得タル結果即チ意見ナリトス從  
テ鑑定人ノ供述ハ多クハ意見ナリト云フヲ得ヘシ是レ單ニ事實ノ實驗其モ  
ノヲ陳述スル證人ト異ナル點ニシテ證言ト鑑定トヲ區別スヘキ大體ノ標準  
ハ意見ノ陳述ナルヤ將實驗シタル事實ノ陳述ナルヤニ在リト云フコトヲ得  
ヘシ然レトモ鑑定ノ場合ニ於テモ單ニ鑑定人ノ特別ナル智識ニ基キ命セラ  
レタル實驗ノ結果トシテ得タル事實ノ陳述ノミヲ爲ス場合ナキニアラス顯

微鏡ニテ検査シタル結果即チ結核菌ノ有無ノ事實ニ付キ陳述ヲ爲ス如キハ事實ノ陳述ニシテ意見ノ陳述ニアラス鑑定人モ亦事實ヲ陳述スルコトアルヘシトノ一事ヲ以テ證人ト鑑定人トノ區別ナシト思料スルカ如キハ大ナル誤謬ナリ上述シタル所ニ基キ兩者ノ區別ヲ指摘スレハ(一)證人ハ過去ニ於テ實驗シタル事實ヲ陳述スルモノナレトモ鑑定人ハ現ニ當該官廳ヨリ實驗ヲ命セラレタル事物ニ付キ現在ノ實驗ニ依テ得タル心證確信ヲ陳述スル者ナリ(二)證人ハ過去ニ於ケル事物ノ實驗ハ學術職業又ハ經驗等特別智識ニ基キ得タルモノタルコトヲ要セサレトモ鑑定人ノ事物ノ實驗ハ學術職業又ハ經驗等特別智識ニ依リ爲シタルモノタルコトヲ要ス(三)證人ハ過去ニ於テ實驗シタル事實ヲ陳述スルモノナレトモ鑑定人ハ命セラレタル事物ニ付キ實驗ニ依リ現ニ得タル心證確信ニシテ其心證ハ或ハ事物ニ關スル過去、現在又ハ未來ニ關スル意見ナルコトヲ常トスルモ亦現在ニ對スル事實ナルコトアリ尙ホ茲ニ注意ヲ要スヘキハ鑑定の證人即チ特別ノ智識ヲ要セシ過去ノ事實又ハ事情ニシテ嘗テ之ニ關シ實驗シタル事情ヲ陳述スル者(三三三)ノ如キ證

言ト鑑定トク中間ニ位スルモノナレハ學者之ヲ鑑定證人ト稱ス鑑定證人ハ之ヲ鑑定人ト云ハシヨリ寧口之ヲ證人ト稱スヘキモノナリ例ヘハ嘗テ別件ニ於テ鑑定人タリシ者ヲ呼出シ其當時實驗シタル事項ニ付キ供述セシムルカ如キ又ハ嘗テ診療ヲ爲シタル患者ノ死亡原因等ニ付キ供述スルカ如キハ鑑定ト云ハシヨリ寧口證言ナリトスルヲ可トス何トナレハ斯ル供述ハ(一)現ニ當該官廳ヨリ實驗ヲ命セラレタル事物ニ付キテ現在ノ實驗ニ依リ得タル心證ヲ陳述スルニアラスシテ過去ニ於テ實驗シタル事實(意テ得タル心證特ニ見ルトキハ)ヲ陳述スルモノナリ而シテ(二)民事訴訟法第三百三十三條ニ於テハ鑑定證人ヲ以テ證人ナリト定メ證人ニ關スル規定ヲ適用スヘキ旨ヲ定メタリ他ノ法律關係ニ於テハ此點ニ關スル規定ヲ缺如スレトモ鑑定證人ノ性質及民事訴訟法ノ規定トヲ參酌シテ之ヲ證人ナリト看做スヲ以テ相當トス

二 通事ノ偽證罪 通事ハ裁判所又ハ當該官廳ニ對シ邦語ニ通セサル者又ハ瘖啞者ノ意思ヲ正確ニ通譯スルニ在リ通事ノ偽證罪ハ此義務ニ違背スルニ

刑法各論

本論 國家ノ利益ニ對スル罪

國家ノ立法、行政ニ對スル罪

微鏡ニテ検査シタル結果即チ結核菌ノ有無ノ事實ニ付キ陳述ヲ爲ス如キハ事實ノ陳述ニシテ意見ノ陳述ニアラス鑑定人モ亦事實ヲ陳述スルコトアルヘシトノ一事ヲ以テ證人ト鑑定人トノ區別ナシト思料スルカ如キハ大ナル誤謬ナリ上述シタル所ニ基キ兩者ノ區別ヲ指摘スレハ(一)證人ハ過去ニ於テ實驗シタル事實ヲ陳述スルモノナレトモ鑑定人ハ現ニ當該官廳ヨリ實驗ヲ命セラレタル事物ニ付キ現在ノ實驗ニ依テ得タル心證確信ヲ陳述スル者ナリ(二)證人ハ過去ニ於ケル事物ノ實驗ハ學術職業又ハ經驗等特別智識ニ基キ得タルモノタルコトヲ要セサレトモ鑑定人ノ事物ノ實驗ハ學術職業又ハ經驗等特別智識ニ依リ爲シタルモノタルコトヲ要ス(三)證人ハ過去ニ於テ實驗シタル事實ヲ陳述スルモノナレトモ鑑定人ハ命セラレタル事物ニ付キ實驗ニ依リ現ニ得タル心證確信ニシテ其心證ハ或ハ事物ニ關スル過去現在又ハ未來ニ關スル意見ナルコトヲ常トスルモ亦現在ニ對スル事實ナルコトアリ尙ホ茲ニ注意ヲ要スヘキハ鑑定の證人即チ特別ノ智識ヲ要セシ過去ノ事實又ハ事情ニシテ嘗テ之ニ關シ實驗シタル事情ヲ陳述スル者(三三三)ノ如キ證

言ト鑑定トノ中間ニ位スルモノナレハ學者之ヲ鑑定證人ト稱ス鑑定證人ハ之ヲ鑑定人ト云ハシヨリ寧ロ之ヲ證人ト稱スヘキモノナリ例ヘハ嘗テ別件ニ於テ鑑定人タリシ者ヲ呼出シ其當時實驗シタル事項ニ付キ供述セシムルカ如キ又ハ嘗テ診療ヲ爲シタル患者ノ死亡原因等ニ付キ供述スルカ如キハ鑑定ト云ハシヨリ寧ロ證言ナリトスルヲ可トス何トナレハ斯ル供述ハ(一)現ニ當該官廳ヨリ實驗ヲ命セラレタル事物ニ付キテ現在ノ實驗ニ依リ得タル心證ヲ陳述スルニアラスシテ過去ニ於テ實驗シタル事實(證テ得タル心證特ニ凡ルトキハ一)ヲ陳述スルモノナリ而シテ(二)民事訴訟法第三百三十三條ニ於テハ鑑定證人ヲ以テ證人ナリト定メ證人ニ關スル規定ヲ適用スヘキ旨ヲ定メタリ他ノ法律關係ニ於テハ此點ニ關スル規定ヲ缺如スレトモ鑑定證人ノ性質及民事訴訟法ノ規定トヲ參酌シテ之ヲ證人ナリト看做スヲ以テ相當トス

二 通事ノ偽證罪 通事ハ裁判所又ハ當該官廳ニ對シ邦語ニ通セサル者又ハ瘖啞者ノ意思ヲ正確ニ通譯スルニ在リ通事ノ偽證罪ハ此義務ニ違背スルニ

依リ成立スルモノナリ即チ通事カ邦語ニ通セサル者又ハ瘖啞者ノ爲シタル意思ヲ故意ニ傳ヘス若ハ其爲シタル意思ヲ虛構シテ傳ヘタルトキハ偽證罪成立スルモノトス而シテ通事ハ單ニ意思ノ媒介ニ止ルカ如キモ使用スル能ハサル陳述ヲシテ通事ノ特別智識ニ依リ之ヲ使用シ得ヘキ證據方法タラシムル點ニ於テ鑑定ト酷似スル所アリ是レ法律カ通事ヲ以テ鑑定人ト同様視シ同一ノ法條ニ之ヲ規定シタル所以ナラン

三 鑑定及通譯ハ其命セラレタル事項ニ付キ客觀的眞實ヲ明確ニスルヲ以テ目的トスルモノナレハ鑑定及通事ノ爲スヘキ陳述ノ客體ハ客觀的事實關係ナリト解スルヲ相當トスヘキカ如シ尙ホ此點ニ付テハ證人ノ爲スヘキ陳述ノ客體ニ付キ説明シタル所ヲ參酌スヘシ  
鑑定人又ハ通事ニシテ偽證罪ヲ犯シタル者其偽證ヲ爲シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前偽證タル事實ヲ當該官廳ニ自白シタルトキハ裁判所ハ或ハ普通ノ如ク刑ヲ量定シ或ハ其刑ヲ輕減シ或ハ其刑ヲ免除スルコトヲ得ヘキコト偽證罪ノ場合ニ異ナラス

犯人又ハ拘禁中逃走シタル者又ハ隠匿シタル者又ハ偽證罪ヲ犯シタル者

### 第三款 犯人又ハ拘禁中逃走シタル者ヲ藏匿シ又ハ隠避セシムル罪

本罪ハ罰金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者又ハ拘禁中逃走シタル者ヲ藏匿シ又ハ隠避セシムルニ依リ成立スルモノトス而シテ本罪ノ性質ハ刑事事件ノ爲ニスル犯罪者ノ呼出若ハ逮捕ヲ免レシメ又ハ逃走者ノ拘禁ヲ妨害スル行爲ナリ  
本罪ハ犯罪者又ハ逃走シタル者ヲシテ當該官廳ニ發見セサラシムルノ行爲ヲ爲スニ依リ構成スルモノトス換言スレハ犯罪者ヲシテ其事件ノ爲ニスル當該官廳ノ呼出又ハ逮捕ニ障礙ヲ與ヘ又ハ逃走者ニ對スル當該官廳ノ拘禁ニ對シ障礙ヲ加フルニ依リテ成立スルモノナリ而シテ犯罪者ニ對スル當該官廳ノ呼出又ハ逮捕ニ障礙ヲ與フルノ行爲ハ裁判事務ヲ妨害スルノ性質ヲ有シ逃走者ニ對スル當該官廳ノ拘禁ニ對シ障礙ヲ加フルノ行爲ハ當該公務員ノ爲シタル處分ニ對シ侵害ヲ與フルノ性質ヲ有ス故ニ二者同一法條ニ規定スルモ其性質ハ相異ナルモノニシテ當該官廳ヲシテ一定ノ人ヲ發見スル能ハサラシムルノ行爲ヲ爲スノ點ニ於テハ二者全然同一ナリトス

刑法各論 本論 國家ノ法益ニ對スル罪 國家ノ立法、行政ニ對スル罪 一六七

犯罪者又ハ逃走者ヲシテ當該官廳ニ發見スル能ハサラシムル行爲ハ之ヲ分テ(一)犯罪者又ハ逃走者ヲ藏匿スル行爲及(二)犯罪者又ハ逃走者ヲ隱避セシムル行爲ノ二ト爲スコトヲ得

何人ト雖モ犯罪者又ハ逃走者ヲ藏匿シ又ハ隱避スルノ罪ヲ犯スコトヲ得ヘシ唯犯罪者及逃走者ノ親族ハ犯罪者又ハ逃走者ノ利益ノ爲メ之ヲ藏匿シ又ハ隱避セシムル行爲ヲ爲スモ本罪ヲ構成セス故ニ大多數ノ場合ニ於テ犯罪者又ハ逃走者ノ親族ハ本罪ヲ犯ス能ハス即チ本罪ノ主體タル者ニアラスト解セサルヲ得ヌ又犯罪者又ハ逃走者カ第三者ヲシテ自己ヲ藏匿シ又ハ隱避セシムル行爲ヲ爲シタルトキハ之ヲ以テ本罪ノ教唆者ナリト云フヲ得ルヤ否ヤ即チ犯罪者又ハ逃走者ヲ本罪ノ教唆アリタルモノトシテ本罪ノ主體ト爲スコトヲ得ルヤ否ヤハ議論ノ岐ル、所ナリト雖モ余ヲ以テ之ヲ觀レハ犯罪者又ハ逃走者ハ本罪ノ主體タル能ハサルモノト解スルヲ相當ナリト思考ス

#### 第四款 刑事事件ノ證據湮滅罪

本罪ハ犯人ノ刑事被告事件ニ關スル有罪、加重情狀、輕減情狀若ハ無罪ノ證據ヲ湮滅シ又ハ偽造シ若ハ偽造變造ノ證據ヲ使用スルノ行爲ヲ爲スニ依リ成立スルモノトス

他人ノ刑事被告事件トハ現ニ繫屬スル他人ニ對スル刑事被告事件ヲ謂フ故ニ未タ繫屬セサル刑事事件ノ如キハ之ヲ法文ノ所謂他人ノ刑事被告事件ト解スルヲ得ス

他人ノ刑事被告事件ニ關スル證據トハ有罪、無罪、加重情狀、輕減情狀ノ四者ヲ證明スヘキ諸般ノモノヲ包含ス即チ諸般ノ物證ハ本罪ノ客體タルヘキモノトス

本罪ハ他人ノ刑事事件ニ關スル證據ヲ(一)湮滅シ(二)偽造シ若ハ(三)變造シ又ハ(四)偽造變造シタル證據ヲ使用シタル行爲ヲ爲スニ依リ成立ス

證據ノ湮滅トハ證據ヲ滅失、隱匿其他證據タルノ效力ヲ失ハシムルヲ謂フ必スシモ現實ニ滅却スルコトヲ要セス證據湮滅ハ多クハ有罪ノ證據ニ付テ行ハル證據ノ偽造トハ存在セサリシ證據ヲ存在シタルカ如ク作爲スルヲ謂フ證據ノ偽造ハ或ハ無罪ノ證據ヲ作ランカ爲メ或ハ有罪ノ證據ヲ作ランカ爲メナルコトアリ證據ノ變造トハ存在スル證據ニ變更ヲ加フルヲ謂フ偽造若ハ變造シタル證據ノ使

刑事事件ノ證據湮滅罪

刑法各論

本論 國家ノ法益ニ對スル罪 國家ノ立法、行政ニ對スル罪 特別法ニ定ムル國家ノ立法及行政ニ對スル罪



用トハ偽造又ハ變造シタル證憑ヲ真正ナル證憑トシテ裁判所又ハ捜査機關ヲシテ使用スルヲ得セシムル行爲ヲ謂フ

何人ト雖モ證憑ノ湮滅、偽造、變造若ハ偽造、變造シタル證憑ヲ使用スル罪ヲ犯シ得ヘキモノトス之カ例外ヲ爲ス者ハ當該刑事被告事件ノ被告人及其親族ニシテ被告人ノ利益ノ爲ニシタル場合ニ於テハ本罪ノ主體タルコトヲ得ス之ニ關シテハ前既ニ説明シタル所ナルヲ以テ茲ニ之ヲ贅セス

### 第五款 裁判事務ニ關シ義務ヲ怠ル罪

本罪ハ刑事訴訟法第三百三十六條、百一、百二十六條、百三十八條、民事訴訟法第九十四條、第三百二十二條、第三百二條、第三百九條、刑法施行法第四十一條等ニ規定セラル、所ナリ法文明白別ニ説明ノ要ナシ

### 第二節 特別法ニ定ムル國家ノ立法及行政ニ對スル罪

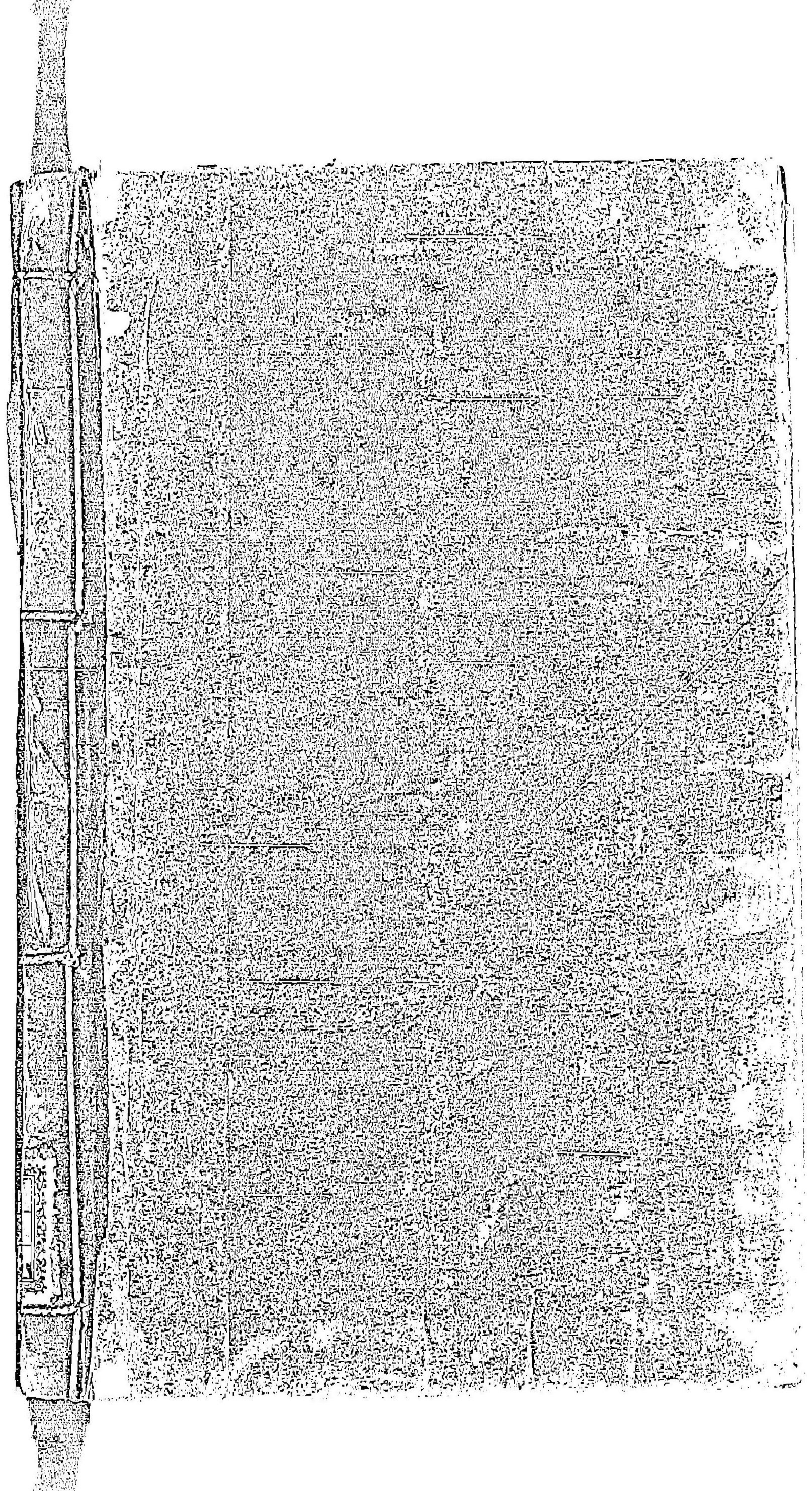
本節ニ屬スヘキ事項ハ本講義ノ範圍外ナルヲ以テ之カ説明ヲ省略ス

### 刑法各論(完結)

裁判事務ニ關シ義務ヲ怠ル罪

特別法ニ定ムル國家ノ立法及行政ニ對スル罪

ス  
231





中央大學四十五年  
法律科第一學年講義錄

刑法各論

035646-000-6

ス-23ハ

刑法各論

大場 茂馬/著

M45?

BBP-0201

